

会 議 録

会議の名称		令和 7 年度第 1 回つくば市生涯学習審議会		
開催日時		令和 7 年 6 月 27 日（金） 開会午後 2 時 30 分 閉会午後 4 時		
開催場所		つくば市役所 201 会議室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	武田 直樹委員（会長）、石川 由美子委員、石塚 一夫委員、黒崎 博委員、後藤 真紀委員、鈴木 朱里委員、田中 秀夫委員、田中 依子委員、中嶋 修委員、福井 正人委員、溝上 智恵子委員、山崎 誠治委員		
	その他	森田 充教育長		
	事務局	久保田 靖彦教育局長、柳町 優子次長、澤頭 由紀子生涯学習推進課長、山口 健次参事、瓜阪 恵理名課長補佐、松橋 千栄係長、小宅 剛主事、大久保 竣介主事		
公開・非公開の別		■公開 □非公開 □一部公開	傍聴者数	1 名
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 第 3 次つくば市生涯学習推進基本計画令和 6 年度実績について (2) 第 3 次つくば市生涯学習推進基本計画令和 7 年度事業計画について (3) （仮称）第 4 次つくば市生涯学習推進基本計画 修正骨子案について		
会議次第	1	開会		
	2	挨拶		
	3	議事		
	(1)	第 3 次つくば市生涯学習推進基本計画令和 6 年度実績について		
	(2)	第 3 次つくば市生涯学習推進基本計画令和 7 年度事業計画について		
第	(3)	（仮称）第 4 次つくば市生涯学習推進基本計画 修正骨子案について		
	4	そのほか		

	生涯学習の取組を充実させて参りたいというふうに考えております。ぜひ皆様から忌憚のない御意見を頂戴しまして、より良い計画として反映させていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。今日はどうぞよろしくお願いいたします。
3 議事	
事務局（瓜阪）	続きまして、次第の3 議事に進みます。議事の進行につきましては、つくば市生涯学習審議会条例第6条第2項に、会長は会議の議長となると定められていますので、武田会長に議事を進めていただきます。本日の出席委員は12名で、委員の過半数が出席しておりますことを申し添えます。また、本審議会は、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例に基づき、公開いたします。それでは武田会長お願いいたします。
	（1）第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和6年度実績について
武田会長	会長の武田です。早速議事に入ります。よろしくお願いいたします。まず議事3の1は、第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和6年度実績についてです。事務局から御説明をお願いいたします。
事務局（松橋）	事務局の松橋と申します。よろしくお願いいたします。資料についての説明と、事前に委員の皆様からいただいた御質問につきまして、担当課へ問い合わせをしましたので、回答を説明させていただきます。まず、資料1－1から2－2について御説明いたします。議事1の第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和6年度実績について説明いたします。使う資料は先ほど申し上げましたが、資料1－1から2－2です。現在、第3次つくば市生涯学習推進基本計画は、資料1－1の①、②にある2種類の評価を行っています。4つの施

	策の柱があり、さらに、それぞれの施策の柱から施策の方向性を系統づけて、庁内全体にわたる 34 の事業が、施策の方向性に位置づけられており、その進捗状況の点検評価を担当課に事業単位で作成していただいています。それをまとめたものが資料 2－2 になります。資料 2－1 では資料 2－2 に基づき、施策の方向性ごとに、事務局である生涯学習推進課で評価をしています。評価基準は、資料 1－2 で示しています。実施状況の評価及び指標評価で出した点数などから、総合評価で SABC など評価を出しています。資料 1－1 ①は、S や A などの評価の分布になります。資料 1－1 ②は、それぞれの施策の方向性に紐づけている事業の S 評価、A 評価などの評価の平均点を出して、前年度と比較したのになります。評価方法の説明は以上となります。では、令和 6 年度実績について御説明いたします。資料 1－1 ①では、C 評価の事業が前年度と比較して 2 事業増えていますが、A 評価が 1 事業増えて、D・E 評価は 0 になっています。前年度と比較して概ね現状維持に見えますが、資料 1－1 ②では、前年度と比較して、半数以上が点を下げてしまっています。評点が下がった要因としては、実施状況評価において、当初の計画通りの実施ができていない点や、指標評価によって実施値が低い事業があることが挙げられます。具体的には、参加者や講師が集まらなかったために、イベントや講座を一部中止した事業がありました。新型コロナウイルスの影響は大分減っていると思いますので、引き続き市民が参加しやすいイベントを開催したり、周知方法を見直したりするなど、積極的に取組を進めていきたいと思っています。その他の実績で注目したい点は、講座やセミナーなどの参加者の満足度が高い事業が複数ありました。引き続き質の高い事業の実施を進めていきます。
--	---

田中(秀)委員	では、ここで資料 2－2 について、事前質問をいただいたのでこちらについてお話いたします。資料 A 4 横のホチキス止めのものが、資料の 3 の後ろにあると思うんですけども。こちらの A 4 横のものを読み上げたいと思います。 資料 1－2 についての質問をよろしいですか。質問というか訂正をお願いしたいと思うんですけども。資料の 1 ページの一番下の欄のラインです。【第 2 段階】総合評価という表について、分からないのは、横の 1、2、3 と、縦の a、b、c をクロスした形で表現されているんですけども、例えば 2 と評価マイナスの時を合わせた時に、この表では C となっていますよね。これは何で C なんですか。いわゆる指標の評価ができないというところにあって、それを横軸の 2 と合わせた時に C になっていますが、これは評価できないんじゃないですか。それはミスじゃないかと。 それから斜線になっているものは、これは評価でも何でもなくて、私が思うには、一番下の斜線のところは、結局特別な事情による未実施なら、これも斜線ではなくてマイナスではないでしょうか。これはマイナスっていう評価でいいのかは分かりませんが。まずこれが一つの指摘です。 そしてもう一つ、細かなことを言って申し訳ありません。次のページの欄で、今度は施策の方向性ごとの評価という形の表があります。S から E までありますが、できればその下にマイナスの欄が欲しいです。マイナスの欄が抜けていると思います。これは評価のために最初に確認しておきたいです。後の評価に関係ありませんけれども、評価の表示の仕方として不正確なので、指摘しておきたいと思います。以上です。
武田会長	ありがとうございます。表記の仕方も含めて、まず前提条件です

事務局（松橋）	けれども、事務局の皆さんいかがでしょうか。 整理ができておらず、うまく説明ができないんですけれども、マイナスの欄を加えたらどうかという御提案ですが、マイナスを含めた場合についても検討しまして、令和7年度の実績の評価の計算方法として検討していきたいと思います。 最初の方の実施評価が1、2、3、4で、指標評価がa、b、cで、マイナスというお話でしたが、マイナスではなくて、すべての指標が測定不能という意味のバー（－）になっていますので、こちらの2段階の総合評価のところも、令和7年度についての計算方法は、来年度までに検討していきたいと思います。申し訳ございません、現段階では整理できておりませんが、以上になります。
武田会長	田中委員の御指摘のように、今回の令和6年度に関しては特に影響ないかと思いますので、前提条件のところをまとめておいていただければと思います。よろしいですか。では引き続き御説明をお願いいたします。
事務局（松橋）	事前にいただいた質問についてお話いたします。事前質問で、まず石塚委員からいただきました、つくば市民センターの事業番号2の実績についての御質問になります。まず1つ目が、吾妻交流センター当時の利用状況を確認したいということと、市民センターの今後の取組の欄についての御質問になります。市民センターというのは、令和6年度に開所して、以前は吾妻交流センターとして単独の交流センターになっていました。令和5年の12月に閉所していますので、それまでの数字ということで、担当課の方からいただいています。そちらが右側に書いてある数字になります。登録団体数が令和3年度は80団体、令和4年度は77団体、令和5年度は12月までで67団体というふうになっております。続きまして、今後の

	取組欄について資料２－２のところの、「進捗状況の点検・評価」のところの右から２段目のところですね。「つくば市民センターについては、つくば駅に近いという立地条件を生かしたイベント等での活用を促すとともに」とあります。立地について、駅近の立地は当然であるが、一方駐車場からのアクセス等を考慮すると、イベントに活用を促すとありますが、結構大変なことではないかという御質問でした。担当課からの回答としては、「令和６年度つくば市民センター講座アンケート結果では自家用車以外の受講者が４２%、令和５年度のつくバス利用者数が過去最高を達成するなど、公共交通機関の利用者は年々増加している状況を踏まえ、各団体の会場探し（場所のマッチングの相談時）における提案から始めていくことを考えています。」という回答でした。続きまして、同じく石塚委員から、資料２－２の７ページにあります、事業番号２１番のジオパーク室についての御質問をいただきました。御質問内容は「ジオパーク登録当初より話題、市民への響きがかなり低下していると感じます。市の観光事業ともあわせて推進する意義は大きいと思う。改めて見つめ直す必要があると思います。」でした。これについて担当課からは、「ジオパークの認知度については依然として課題であると認識しており、様々な取組を進めています。２０２３年１１月につくばジオミュージアムをオープンさせて、１年以内で、来館者数１万人を突破するなど、順調なスタートを切ることができました。また、学習教材として活用できる副読本、『るるぶ特別編集 筑波山地域ジオパークがわかる第１の秘密図鑑』や、未就学児から低学年向けの絵本『秘密のてっぺん』を作成しました。さらに、つくば市観光推進課つくば観光コンベンション協会と共同で市内のアニメ制作会社とのコラボイベント等も開催しています。引き続き、観光
--	---

	事業及び構成 6 市と連携しながら、幅広い層に向けたアプローチにより、ジオパーク認知度を向上に努めて参ります。」ということでした。最初に出てきたジオミュージアムなのですが、令和 5（2023）年 11 月の開始で、来館者数が令和 5 年度は 6,771 名で、令和 6 年度が 1 万 755 名ということでした。続きまして同じくジオパーク室についての御質問で、市民向け講座等の参加者の推移を具体的に知りたいということで、数字を紹介します。市民向け講座の参加者数は、令和 3 年は 5 回で、参加者は 67 名。令和 4 年は 3 回行い、参加者は 57 名。令和 5 年は 4 回で、参加者は 64 名。令和 6 年は 4 回ですが、103 人と増加しております。事前にいただいた質問は以上になります。
武田会長	ありがとうございました。事前に資料 2－1、2－2 に目を通してきていただいたと思うんですけども、こちらで御質問あるいは御意見等ございましたら、挙手の上、御発言をお願いいたします。
黒崎委員	黒崎です。事前質問の方を出させていただいていたと思います。
事務局（松橋）	黒崎委員の御質問は、資料 3 の 7 年度の計画の方だったので、この後の議事 2 の方でお話させていただきたいと思います。
黒崎委員	そうなんですね。分かりました。ありがとうございます。
武田会長	他、いかがでしょうか。
溝上委員	溝上です。事前に質問を出していなくて申し訳ありません。資料 2－2 の 3 ページ、事業番号 7 番の情報収集・発信事業のところで、「ホームページ改修回数 1 回」とありますが、事業予算ゼロ、決算ゼロとあり、4 ページの事業番号 8 番の生涯学習ワンストップ対応事業も、ホームページの改修 1 回とありますが、予算・決算ともゼロです。このホームページ改修というのは、リンクを貼ったとか、何かちょっといじったら改修 1 回と数えたということで、予算は要

事務局（松橋）	らなかったという理解でよろしいでしょうか。 事務局です。ホームページの方なんですけれども、つくば市のホームページは広報戦略課の方で管理をしているところです。それぞれの担当課がページの内容を追加したり削除したりという作業しているんですけれども、昨年度は内容やレイアウトについての変更作業をしており、ホームページ自体の経費というのは、特に我々の方では負担はなかったということになります。
溝上委員	分かりました。ありがとうございます。
武田会長	他はいかがでしょうか。
石塚委員	資料２―２、３ページの事業番号６番の生涯学習相談事業ということで載っているんですけれども、相談数が５回となっています。つくば市で５回の相談というのは、まず相談がないのと同じようなものじゃないかなとふと思ったんですけれども。市民がそういう相談事業をやっているというのがはっきり分かってなくて、相談しないのか。生涯学習はかなり皆さん関心があることなので、広報誌に載せるとかすれば、もっと相談があるんじゃないかなと思ったので、御質問させてもらいました。
武田会長	ありがとうございます。
事務局（松橋）	事務局です。こちらの相談数５回というのは、生涯学習推進課で受けた件数になります。本来は各交流センターや、他の窓口部署の件数を集めなければいけないというところなんですけれども。窓口は生涯学習推進課本庁の中にあるので、お電話とかでもしづらいのかなというところで５回というふうになっております。以上です。
石塚委員	その通りだね。各交流センターとかでも話を聞いたりしていて、実際の数字ではないと思いますので、ここに載せるのはどうかなという感じもします。

武田会長	他はいかがでしょうか。 それでは令和7年度の方とリンクしてくるところもありますので、先に令和7年度をやりながら、今のところで、さらに御質問がありましたら、次の議事の2番目のところで仰っていただければというふうに思います。では、議事の2 第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和7年度事業計画について、御説明をお願いします。 (2) 第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和7年度事業計画について
事務局（松橋）	議事2では、資料3を使用いたします。A3の資料になります。 令和7年度事業計画では、前年度実績以上の目標を掲げているものも多く、例えば、事業番号1番の図書館利便性向上事業。事業番号10番の外国人市民向け情報発信講座事業。事業番号17番の調査研究支援事業。事業番号19番のスポーツ教室事業があります。また、新たな仕様を追加しているものもあり、事業番号1番の図書館利便性向上事業、事業番号13番の障害者スポーツ推進事業、事業番号16番の文化財展示講座事業、事業番号28番の市民活動団体支援事業がありました。このように積極的な計画が作成されており、この計画で審議会に提出したいと考えております。 こちらの令和7年度事業計画についても事前質問をいただきまして、お話いたします。こちら石塚委員からいただいたもので、事業番号2番のつくば市民センターについて、市民センターの事業計画・登録団体から利用件数に変更した理由を知りたいということでした。こちら、目標の指標の方が、前年度と変化しているということなのですが。これについて担当課からの回答が右側にあります。「つくば市民センターは、他の地域交流センターと異なり、従

	来の市民サークルだけでなく営利団体や、市外の団体の利用が可能な施設なため、未登録での利用が多いことから、施設の利用状況を数値化するにあたっては、利用件数を指標とした方が適切と判断した」ということでした。続きまして黒崎委員からいただいた事前質問になります。資料3の11ページ、事業番号33番の市民協働課の地区リーダー勉強会の開催について、令和7年度事業のところでは、「地域のリーダーである区長の担い手不足など、区会における近年の課題をテーマにした勉強会（講演会）等を開催して、その解決策を検討していく。8月又は9月に開催を計画している。」という内容でした。こちらについて御質問は、勉強会の開催時期が8月又は9月の理由を教えて欲しいということでした。理由としては、区会の新会長役員の選出・引き継ぎのタイミングで実施するのが望ましいのではないかとということでした。担当課に確認したところ、毎年度5月末に区会連合会の総会を行って、代表を決めるそうです。そのあと、6月中旬に役員会を開き、勉強会の計画を行っているそうです。そこから講師の依頼等の調整を行うので、勉強会を開催することができるのは早くて8、9月になってしまうので、この、事業計画のところも8、9月としているとのことでした。目標としては8、9月と出していますが、時期が後ろにずれ、秋などになってしまうこともあるということでした。では事前質問の説明は以上です。
武田会長	では資料3、今年度の計画一覧ですね。こちらにつきましていかがでしょうか。
黒崎委員	事前質問した内容についてなんですが、この前の水曜日に社会力コーディネーター養成講座の方の第1回に参加させていただきまして、テーマがリーダーシップということで、第1回目のテーマに

	相応しい内容であったのではないかと考えています。内容として、良いまちづくりのためには良い人づくり、良い人づくりのためにはみんなで良い話し合いをできること、良い話し合いをできることで知恵や協働が生まれるということで、そういったテーマで各班に分かれてワークショップを行うという形式で、素晴らしいワークショップだったんじゃないかなと思いました。たまたま私が参加した班の中の2名が区会の区長さんと副会長さんだったということで、11ページ、事業番号33番の協働のまちづくりというテーマがあると思うんですけど、YouTubeチャンネルで実施したということで、特に自治会の役員になった方々などが勉強になるんじゃないかなと思って参加されたんじゃないかなと思います。私も今年度、街区の班長になって自治会の役員、班長会なんかに参加していると、なかなかみんなで本当に良い話し合いができるのかなっていうのが疑問に思っていて。やっぱり良い話し合いができないとうまく自治会運営もできないと皆さんも感じていると思うんですね。そのためにやっぱり勉強会に参加するっていうのが大事だと思うんですけど、そこがYouTubeチャンネルの動画を見ているだけで本当に改善・解決されるのかなというのが疑問に思いました。やっぱりワークショップで対面で話し合うような機会に、これから自治会や区長の役になる方が参加されるといいんじゃないかなというふうに思っています。
事務局（松橋）	ありがとうございます。市民協働課の方に御意見を伝えたいと思います。ありがとうございます。
武田会長	他、いかがでしょうか。
溝上委員	5ページの事業番号11番、障害者の生涯学習関連事業についてですけれども、障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯

	学習に取り組む障害者への支援体制の構築が事業概要になっています。令和6年度の事業の成果達成状況も、卓球バレー体験講座を開催して満足度も高かったことから令和7年度も障害者のための生涯学習講座を開催するということで、指標は講座参加者数30名、満足度90%となっていますが、事業概要にある障害者への支援体制の構築は今年も来年も計画されていないかのように読めてしまうのですが、どうしてこうなっているのでしょうか。
武田会長	こちらいかがでしょうか。
事務局（松橋）	事務局です。令和6年度の実施の課題のところは御指摘通りかと思うんですけども、参加して楽しかったっていうのはあるけれども、行政がメインで行うというところから、支援団体の自主的な活動になるように、支援者育成もこれからの課題になっているということだったので、指標としてはちょっと不足しているかなと思うので、目標値を追加していきたいなと思います。
溝上委員	目標値を設定するというよりも、事業でちゃんとやってくださいということを申し入れていただきたいなと思います。
事務局（松橋）	ありがとうございます。
田中（秀）委員	私が聞きたいのは、資料2-2、10ページの事業番号31番の高齢者生きがい活動支援事業のところですか。私の勘違いでなければいいんですけども、令和7年3月24日に令和6年度第3回つくば市生涯学習審議会の会議録という形で論議された内容が今回それなりに反映されていると思うんですけども、私だけじゃなくて、何人かの人の質問で、高齢者の中の、特に定年に関する文のところで、何人かから議論が出されたというような形で議事録を見ているんですけども、4分の1から5分の1くらいの量を占める発言があるにもかかわらず、事業番号31番を見ますと、そういうような

	ものが全く反映されていないという形ですが、どういうふうに考えているのか。意見を求めて、まとめた形がここに反映されていないのではないかと思います。全く反映されていないので、それはどういう意図があつてなのかということです。きつい言い方なんですけれども、論議した内容がほとんどこの中に反映されていない。全てではないですけれども、前の年の議論がそのまま書かれています。まず1つお聞きしたいのは、前回行われた会議の内容が、今回ここに反映されるべきだという考え方はいかがでしょうか。
事務局（松橋）	事務局です。前回の令和6年度第3回審議会で話し合われた内容についてですが、第4次計画に反映させる御意見をいただいているので、令和7年度の事務事業に関しては、反映はされていません。第3次計画の中で定年前の方のことといった具体的なアイデアについては、今回の令和6年度、7年度のところにはまだ盛り込めないものなので、こちらの方には入ってはいないですが、次の議事の内容については入れていこうということで進めております。
田中（秀）委員	前回の部分は今の論議の内容ではないということによろしいんですね。どこかで、この間かなり論議された内容がこういうものに反映されていくべきだろうという形で考えていたわけです。この段階ではなくて、次の段階で論議されるという理解でよろしいですね。
武田会長	そうですね。この間は第4次に向けてというような話だったということですので、そのようになるかと思います。
田中（秀）委員	ただこの間話した内容が、これから行う計画のために論議したんじゃないかなと私は記憶しているんですけれども、入ってこないということは令和8年度になるんですか。
武田会長	そうですね。次の第4次基本計画の初年度が令和8年度になります。

田中（秀）委員	すので、令和8年度からということです。 それだと時期的にお話した内容がタイミングとしては相当後の方の話になってしまう。せっかく一生懸命みんなと論議した内容が全く反映されないですということで、また話すというのは私は合点いかない。以上です。
武田会長	ありがとうございます。では後藤委員、どうぞ。
後藤委員	後藤です。事前質問をしていなくて申し訳ないのですが、事業番号11番の障害者の生涯学習関連事業も事業番号13番の障害者スポーツ推進事業もそうなんですけど、令和6年度の成果達成状況よりも、令和7年度の事業計画が人数が少なくなっているのはどういう理由なのかを知りたいのと、実は13番の障害者スポーツ推進事業にたまたまうちの息子達が参加してしまして。何に参加しているのか、どこの課の何という事業か分からないで参加していたんですけど、何回か参加しているうちに、スポーツ振興課の職員さんが二、三回お見えになって、その日は終わったら振り返りを別の部屋でしますということで、会議室みたいなところに連れて行かれて。筑波大のジムを借りて運動をさせていただいているんですけど、今日のジムはどうだったか、何が楽しかったかっていう話を一人ひとりが話して。そこでスポーツ振興課の方が障害者スポーツ、障害者スポーツってすごく言うんです。うちの子たちは障害の程度が軽いので、あまり障害者、障害者と言われると少し戸惑うというか、そういうところは配慮をいただきたいなっていうふうに思いました。 それでこの13番ですが、去年の講座の開催回数が6回で参加者数延べ30人になっているのが、令和7年度は開催回数が2回で参加者数が20人に減っているのはなぜなのかなというのと、事業番号11番も参加者数を41名を30名にするということで、多くすれ

	ばいいってわけじゃないっていうのもあると思うんですけど、先ほど言っていた事業番号 2 番のつくば市民センターも利用者数を 3 万 2,317 人を 2 万人に減らすというので、何で目標を減らすのかなと。それもすごく減らすので何でかなと思います。分かる範囲でいいのでお願いします。
武田会長	では事務局の方からお願いいたします。
事務局（松橋）	事務局から分かる範囲でお答えします。まず事業番号 11 番の目標値のところですけども、こちらは令和 6 年度の目標は参加者数 20 名で満足度 80%。実績としては 41 名参加いただいて、満足度も 94%になったということです。ここは資料 3 の方が、実績値が左側、令和 7 年度の目標値が右側というふうに並んでいるので、実績値より下げた目標値になっている。去年の目標と比べて上げているというところが見づらいなのがこの資料の欠点ではあるんですが、一応前年度の目標を超えるような書き方になっています。 事業番号 13 番の方も、令和 6 年度の事業計画の目標は、実施が 2 回で参加人数が 20 名ということで、こちらは目標は変えてはいないですけども、実績よりは下がっているというふうに見えていますね。もっと目標を高く持って頑張って事業をやるというのもありだとは思っているので、ただそこを無理して目標を上げて達成できないというの。どっちを取るかっていう感じなのかなというふうには思いますが、以上になります。
後藤委員	11 番の方は分かりました。13 番の方は去年と同じ目標に戻すというか、スポーツ推進課に言っておいてください。 予算がすごく増えたので、一瞬喜んだんですけども。出前教室の実施回数 10 回とか、受講人数延べ 700 人ってすごいなって思ったんですが。「障害者スポーツ体験出前教室をシッティングスポー

	ツ協会の協力を得て、児童・生徒における障害者スポーツへの理解が…」というふうになっていて、障害のある児童・生徒にということだと思っんですが、これは普通小中学校に行っている障害のある児童・生徒と、特別支援学校に通う児童・生徒のどちらも想定しているのでしょうか。申し訳ありません。そういう詳しい話はスポーツ振興課に聞きます。
事務局（松橋）	事務局の方からスポーツ振興課の方に問い合わせますので、また後日回答が来ましたら、共有させていただきたいと思います。ありがとうございます。
武田会長	他、いかがでしょうか。
田中（依）委員	事前質問では見落としていたんですけれども、6 ページの事業番号 15 番のつくば人間学講座のところで、令和 7 年度も去年と比較したら、令和 6 年度の事業計画では目標が 300 人で、令和 7 年度は 330 人ということですが、予算がすごく減っている状況があって。まだ具体的なことは何も書かれていないんですけれども、この背景というのは何かあるのか。どんなふうな取組を考えているのかとか。前回も市民への発信の仕方とかがすごく大事ではないかという話もしたんですけれども、その辺の何か意図がありましたらお聞きしたいと思います。
事務局（松橋）	事務局です。予算額が減っているところについては、また調べまして、後日御回答したいと思います。
田中（依）委員	内容に関しまして、前は例えば子育て、健康、SDGs とか、そういう何か目標があつてということでしたが、令和 7 年度に関しては全く具体的なことがないということですかね。
事務局（松橋）	そうですね。今年は特にこちらの人間学講座の方が 30 周年だったと思うんですけれど、記念事業として大きい会を開こうというこ

田中（依）委員	とで。前年度は3回行っていたんですけども、大きいのを1つと小規模のものを1つ行うつもりですが、中身はまだこれからというお話でした。
事務局（松橋）	私も参加させていただいていて、すごく良かったので期待している人も多いと思います。
中嶋委員	ありがとうございます。 中嶋です。令和6年度の実績と令和7年度の計画を兼ねて意見をさせていただきますと、あまりにも資料が多すぎて、私自身、正直読みきれていません。生涯学習推進課の担当課の係長さんだけでもこれだけの課が市の中でいくつも複合して担当している感があって、やっぱり答えられないというか、分からない部分も相当あるんだろうと私は思いますので。前にも言いましたけれども、ここに担当する課を全員出して答えられるようにするっていうことも大変なんだろうけれども、多少そういうことも生涯学習推進課・係だけでは、なかなかこれだけの量があると難しいのかということと思うんです。実績と事業計画であまりにも資料が複雑なので、色刷りした令和6年度の全体評価の数字だけ見て考えるんですけども、これでいくと、多様な学びの実現の中で3項目あって、施設の利便性の向上というものが令和6年度は8点から7点に落ちているんです。参加機会の拡充というのも全体評価が9点から8点に落ちたんですね。生涯学習相談情報の提供が8点から9点に上がったのでここは良くなったということで、そうすると施設の利便性が落ちるといことはどういうことなのかなって思うんですよね。施設が変わるっていうか。これを見ると、この項目は中央図書館とつくば市民センターの2項目での評価なんですよ。これを見ると、悪いけど中央図書館の評価が悪いので、1ポイント落ちているというふうに

	私は見るんですよね。ということは中央図書館の施設の利便性が、令和5年度と令和6年度で何が悪くなったのか。数値と文字だけで評価していますが、1ポイント落ちたのは、中央図書館の使い方の決まりはよく分かりませんが、それが悪かったので落ちたという言葉の評価も欲しいということなんです。ただ数字だけで言ったところで、我々素人が見て、そんなにすぐ分かることではないので。そうしたら令和7年度は中央図書館の利便性がまた元に戻るのには何をすべきなのかということで、令和7年度の計画で土日の時間を閉館を19時にすると書いてあったので、休日とか開館時間を延ばすとか、そうすると利便性を増すと思うのできっとそういうふうになっていくだろうと思いますけど、あまりにもこれは行政的というか難しい評価なので、そういうふうにして欲しいなと思います。文章で評価したものをもう少し分かりやすく、点数の脇にでも書いて欲しいなと思うんですね。生涯学習相談の情報提供が1ポイント上がったのは何かというふうに思うと、令和6年度の表を見ると、広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集発信したと書いてあるので、これを見ると生涯学習推進課、担当課だけじゃなくて広報戦略課と連携して何かを発信した、その成果がきっと上がったんだと思います。評価は具体的によく分からないですけど、そういうことだと思うので、連携したから1ポイント上がったというのは私の方の評価ですが、それが正しければそういうふうに書いていただきたいなと思います。以下、次の誰一人取り残さない生涯学習という部分についても参加者への障害をなくす取組が、令和6年度は9点から8点に1ポイント落ちたんですよね。主体的に活動に参加できる取組は8点から1ポイント上がって9点に上がって良くなったので、主体的に活動する取組が良くなったのは良いですよ
--	--

武田会長 事務局（松橋）	ね。それが何かは私は読み取れてないんですけど。地域で学び合う生涯学習で、きっかけづくりが1ポイント落ち、その次の地域で学び続ける仕組みが6点から8点に2ポイント上がったということはすごいことなんですよね。ですからこれはなぜこんなに2ポイントも一年で上がったのかっていうのは、きっと令和6年度に何か計画の中に良い事業が入ったということなんだろうと思うんですよね。こここのところを見ると項目が結構多いので、それが良い評価につながるのかなというふうに思いました。これを見ると結構幅広い課が担当している内容なんですよね。なので、そんなふうに詳しい実績評価の欄があるんですけども、私は分かりませんので、全体評価の中でのポイントで見ましたので、そこでもし落ちたらこういう理由できっと落ちたということで、次年度はそこに力点を置かなくてはならないというような、課としての総合的な評価的なことを分かりやすくまとめて言葉でいただくのがいいのではないかなという意見でございます。 ありがとうございます。 事務局です。資料2－1、施策の方向性ごとに我々の方で評価を出している資料があり、こちらの方にこういう事業が目標達成しなかったので点を下げているとか、内容としてはこういうことも新しく取り組みましたよというような評価や文章での説明もしている資料もあります。 ただ、資料のボリュームが多いというのは我々もとても感じているところなので、令和7年度の評価の時は、もう少しスリムにできたらなと思っております。 先ほど御意見のあった、一番最初の施設の利便性向上で点が1つ下がっているところなんですけれども、資料2－1のところにも我
-------------------------	--

	々の方でコメントを入れているものがありますが、やはり図書館の利便性向上においては目標値の利用人数、貸出数が目標値に達成しなかったもので、点数が A から B に下がってしまった、それで平均点を出すと下がってしまったということがあったりします。利便性の向上というタイトルと、評価の具体的な指標がちょっと噛み合っていないのかなというところも若干あると思いますので、利便性向上の点数が下がったからといって、それがそのまま市民の満足度が下がっているというふうにつながっているわけではないので、この評価についてはまた第 4 次のほうは分かりやすいような形にできたらなと考えています。以上です。
武田会長	ありがとうございます。中嶋委員よろしいですか。
中嶋委員	はい。
山崎委員	山崎と申します。私は個人的に社会力養成講座というのを 3 年か 4 年くらいずっと出させていただいているんですけども、その中でここにあります体験実習参加者ということで、新しい人が既存の団体の所に参加してみるというのを毎年やっているんです。昨年、それに応募というか受け入れてみたいということでやってみたんですけども、最終回は、我々はこうやりましたという発表会だったんですね。ところが 4 団体受け入れているにもかかわらず、発表会に来たのは我々だけだったんですよ。4 団体のうち他の 3 団体はその最後の発表会にも来なかったんです。それで我々と、我々のところに来た人だけの話で、これは何なんだったってすごく思ったんですよ。参加者が少ないにしろ何しろ、そういうことをやったならば発表会くらい来い、みたいなことをすごく思って。言葉はきついかもしれないですけど、何でそういうことが許されるのかとか、ちゃんと出すべきじゃないかなとすごく思いました。あと、第

	1 回目は大体いつも 20 人くらいは来てくださるんですよね。それが回を経るとだんだんだんだん減ってきてしまうんです。最後は2人とか3人とかになってしまう。これはやっぱりどこか考えなきゃいけないところがあるのかなというのはすごく思っています。それから感想なんですけれども、僕は社会力養成講座に行くと必ずグループになるんですけれども、その中で今まで多分大体半分ぐらいの方はこれからやりたいという新しい人が来られていたんですよね。そういう人たちと僕らが話をする機会ってなかなかないし、これはすごくいい機会なので。向こうの方も我々みたいな長い間やっている人と話したことがないので、よくそういう話でつながって、そのあとイベントの時にじゃあうちのイベント今度来なよ、みたいなのがあったり。そういう形のすごくいい交流ができて、それは僕らも参加している者としての役割じゃないんですけども、勉強になりますのですごく良いなと思っていたんです。しかし、この令和7年度はそういう新しい人を対象としていないので、これはちょっと違うかなと。こういう意見を言っていていいかどうか分からないんですけども、すごく感じました。せっかく良い事業なのに、まだまだもっと良いやり方というか、有効にできることがすごく多いんじゃないかなと感じているところです。これは質問ではないので、前もってお話しなかったんですけども、そう思います。
事務局（松橋）	ありがとうございます。この今年度の事業に反映させたいと思います。
武田会長	運営している私の方から。やはり一昨年度と昨年度の2年連続で大人のインターンシップということで、受け入れ団体のもとでインターンシップに行くというようなことをやって、初年度は13名いたんですけど、昨年度は6名というようなことで、やっぱりどうし

	でもハードルがぐんと上がってしまうのかなというふうに感じています。またプレゼンテーションも、最後は発表会もあるとなると、どんどんと皆さん来られなくなってしまっ、それがやっぱり運営している側からも苦勞した点では確かにありました。全ての団体には呼びかけたんですけども、結果としてお越しいただけなかった。平日の夜ということもあったかと思うんですけども。もうちょっと熱く呼びかければよかったかなというふうに思っているところです。令和7年度に関しては、新しい人を対象としてないわけではなくて、これは単発でも大丈夫ですので、ぜひお越しいただければというふうに思っております。ちょっと見え方が、新しい人は対象としないような感じになっているのかどうかといったところですが、そのようなところでございます。よろしいですか。
山崎委員	はい。ありがとうございます。
福井委員	タイムラグがありますが、先ほど後藤委員と溝上委員がおっしゃったんですけど、ザーッとこの事業計画を見ていると、例えば事業番号 17 番の調査・研究支援事業で筑波大学と小・中・義務教育学校と書いてあって、自分だけかもしれないですけど文言的にずっと気になっていたんですが、つくばの特別支援学校があって、そこにはやはりつくば市内の子供達が来ているのに、それが何か排除されている。ただ彼らの話によると、チャレンジアート事業などでは非常にお世話になっているというか、彼らにとってやりがいになっているのは確かです。そうなった時に、例えばちびっ子博士というのがあったと思うんですけど、特別学校の中でも非常に少ないけれども、歴史とかそこに興味を示す子供がいるのは確かです。小・中学生に限定すると、その子供達が排除されて、限定されているような感じもするし、一応根本的な理念として、誰も取り残さないとい

	うところになると、彼らもその中に入っていると思います。実際に先ほど後藤委員がおっしゃったんですけど、スポーツに関して、特別支援学校の中でも彼らはダンスがすごく好きで。筑波大学の体育学部の中のダンス部はだめなんですけど、個人でやっているダンスサークルの大学生を呼んでやるという企画が進んでいます。何が言いたいかというと、そういうふうなところも配慮をした上での事業計画を是非ともしていただきたいなというのが思うところです。以上です。
事務局（松橋）	ありがとうございます。先ほどのスポーツ振興課の方にも意見をお伝えしたいと思います。
黒崎委員	1 ページの事業番号 2 番のつくば市民センターのところなんですけど、事業費の予算がつくば市民センターのところは、大体 4 倍ぐらいの予算が計上されているんですけど、具体的にどんなところに使われる予定なんですか。
武田会長	6,500 万ほどから 2 億 7,000 万ぐらいに上がっているというところですかね。
事務局（松橋）	すみません、こちらは調査不足なので、また後日回答します。
武田会長	分かってからで結構です。フィードバックをお願いいたします。
	他、いかがでしょうか。
黒崎委員	5 ページの事業番号 11 番と 13 番のところ、障害者の生涯学習関連事業と、障害者スポーツ推進事業ということで、令和 6 年度は卓球バレー体験講座を開催したというふうになっているんですけど、少し障害者スポーツ推進事業と被っているかなという感じで。令和 7 年度のところは、講座の内容を少し別の視点から考えられるといいんじゃないかなというふうに思いました。
事務局（松橋）	ありがとうございます。担当部署に伝えておきます。

後藤委員	卓球バレーに参加されている障害者の方はどういう障害の方ですか。車椅子とか、身体障害とか肢体不自由とかそっちなのかなと思っていましたけど。
事務局（松橋）	車椅子ではないんですが、肢体不自由の方。
後藤委員	その辺も書いてあると分かりやすいですね。多分こっちの障害者スポーツの方は、知的障害とか発達障害など、身体は何ともない人がやっていて、卓球バレーのほうだと身体障害とか、歩くのがちょっととか、そういう感じなのかなと漠然と思っていたんですけど。前も言わせていただいたことがあると思うんですけど、障害の種別的にろう者とか聴覚障害者とか、そちらも網羅してもらえるような内容があるといいのかなと思います。でも両方スポーツなんですね。ただ、参加できる人がもしかして違うのかなと思ったんですけど。そんな感じです。
澤頭課長	補足で付け加えさせていただきますと、障害者団体の御協力のもと、団体さんごとに声かけをさせていただきまして、そこへの通所者の方に主に御利用いただきました。スポーツといいますか、レクリエーションの要素を重点的にやりまして、みんなで楽しむといった観点でこの講座は開催しておりました。以上です。
武田会長	他、いかがでしょうか。ではここで一旦、昨年度事業・今年度事業に関しては区切らせていただきまして、続いて議事の３番目ですね。（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画策定の修正骨子案。こちらについて事務局の方から御説明をお願いいたします。
	（３）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画 修正骨子案について
事務局（松橋）	事務局から説明させていただきますと、議事の３番では、資料４

	－ 1、 4－ 2。それから、参考資料 1、 2、 3 を使用いたします。 では、まず資料 4－ 1 から御説明いたします。今回の資料では、第 4 次つくば市生涯学習推進基本計画骨子案については、前回の審議会でもいただいた意見を反映させて、修正しております。修正した部分については、資料 4－ 2 の新旧対照表に掲載しております。審議会の意見を反映させた他に内容は基本的に変えていませんが、文言や言い回しを分かりやすく改めた部分も含まれています。前回から変更した部分で大きいところは、資料 4－ 1 の 2 ページの基本理念のところ。こちらは、当審議会全体の意見を受けまして、基本理念を、「学びを楽しみ 世代がめぐる つくばでつながる 幸せのまち」と設定したいと考えます。それから施策の方向性についてなんですが、前回はまだイメージであった施策の方向性を 4 ページ以降に掲載をしております。施策の方向性は、それぞれの基本目標をさらに細分化したもので、具体的な個別の事務事業を方向性ごとにまとめるものです。今回は見出しを設定したということになります。 第 4 次計画に位置づける事務事業については、全部署に対して調査をしまして、第 3 次で進捗管理していた事業と、また新たに追加する事業を、現在、第 4 次用にまとめているところです。参考資料 1 の施策の展開という資料がありますが、こちらでは、施策の方向性についての説明を加えて、基本目標 1 つについて見開き 1 ページで掲載をするという構成を検討しております。説明のそれぞれの文言については、調査をした事務事業の内容をまとめて説明文を作成するというふうになりますので、こちらの内容については次回の審議会で協議をしていきたいと思います。今回は構成のイメージ資料としてお出ししています。第 3 次計画の際は施策の方向性に紐づける事務事業を計画に掲載し、それについて、毎年実績評価と実施計画
--	--

	の評価を行ってきていますが、第4次計画の方では、事務事業を施策の方向性に位置づけはするものの、計画本体には掲載しない構成としていきたいと思います。計画の構成は、資料4－1の7ページに体系案というのがあるんですが、こちらにある通り、基本理念、基本方針、基本目標、施策の方向性と続きまして、そのあとに新たに未来への取組、つくばの学びの未来像というものを入れていこうと考えております。未来への取組、つくばの学びのイメージが、参考資料2と参考資料3になります。第3次と第4次の構成を変える理由としては、次の通りになります。まず、事務事業は5年間の中でも、内容が変わったり廃止したり、また新たに加わったりと変化がありますので、計画の中に位置づけないことで、変化に対応できると考えます。計画実施中に、施策の方向性に合わせた新たな事業を盛り込むこともできます。評価については、施策の方向性単位で点検していき、それによって事業自体の進捗にとらわれない評価ができ、評価に基づき、新たな事業の追加や、効果が限られる事業を入れ替えるなど、柔軟な対応を行うことで計画を推進していけると考えます。具体的な評価方法、進捗管理方法については現在検討中ですので、こちらもまた次回の審議会で審議をしていただきたいと思いますと考えます。新しく取り入れる未来への取組、未来像についてですが、先ほどの参考資料1の施策の展開に続くページとして、未来への取組、未来のつくばの学びの未来像を設定します。未来への取組という部分では、第4次計画の5年間で具体的に何を行うかというのを示したいと思います。次のつくばの学びの未来像では、具体的な人物の設定を行います。こちらは昨年度行ったアンケート結果や、ワークショップの参加者の傾向を参考に、具体的な人物像を設定し、属性を5つに分け、基本計画の事務事業がどのように自分と関わっ
--	---

	ているかを分かりやすく示していきたいと思います。5つに分けた理由は、市民というのが漠然とした一つの塊に聞こえやすいので、様々な世代や性別障害の有無など、それぞれの状況や悩みを具体的に設定することで、自分にも当てはまる部分を見つけやすくし、自分に関係する計画であるということを感じやすい計画にしていきたいと思います。なお今回お配りしている参考資料1、2、3の内容は、骨子の後続く展開のイメージですので、文言など具体的な内容は、次回の審議会で協議していきたいと考えます。では資料の説明は以上になります。
武田会長	ありがとうございました。ではただいまの件につきまして、御意見・御質問ありましたら。
田中（秀）委員	書類が多すぎて全然分からないよね。前回どうだったかなと議事録を全部読み直しまして、耳が聞こえないせいかもしれないけれども、第3次と第4次で、ちょっと最初に何か、説明する時に整理してもらいたい。私は真面目な方だからかなり読んでいるんだけど途中で嫌になってしまいました。先ほど御指摘がありましたように、前回のものは第4次の資料なんだそうです。今、中身を見ながら私も理解しました。第4次は令和8年度以降ということになる。そこまで理解するのに時間がかかりまして。 それで、骨子案のところで質問よろしいですか。いつも入口のところで人生100年時代っていうんですけれども、それはどういうふうにまず捉えるのかと。例えば、参考資料の2の真ん中のところ、教育と仕事と老後とありますよね。老後は60歳前後っていうんだけど、これは老後なのかっていうことを全体で考えてもらいたい。はっきり申し上げれば、今定年制がなくなっている企業もありますしね。それから私は83です。もう老人だけれども、60以降の

	年齢の方をよく見てみると、人生の最高の部分を持っていて、知恵も持っていて、経験も持っていて、その人たちは100年時代はもう老後じゃないよと。皆さん考え直さなきゃいけない。私もぼけているけれども、まだ負けないところがたくさんあります。だから、老後とか高齢っていう見方を一度みんな考え直して欲しいんですよ。色々話を聞いてみると、高齢者と後期高齢者っていうのがあるようで。特に高齢者、60から75ぐらいですかね。その人たちは、あなたたちが思っているほど高齢で頭が鈍ってはおりません。体も丈夫ですよ。そういう意味で、これを作るにあたって申し上げたいのは、100年時代っていうふうに言いながら、本当にそこを考えて作っておられるのか。ぱっと見ると60で老後っていうけども、例えば私は90とか100に近い年齢になっているんですね。定年になって、死ぬまでに40年ぐらいあるんですよ。そこら辺を勘違いしてしまうと困るんです。残り40年あるのを老後として単純に位置付けてしまっては誤りで、もう一回全員が考え直さなきゃいけない。そういうことで、つくば市は全国で一番の素晴らしい市だから、先取りして、先を見ながら案を作っていってもらいたいというのがまず1つです。まず100年時代っていう問題をみんなで考えてもらいたい。 それから、高度な学術研究を担う教育機関が集積する都市であるということが、例えば、そういうものが本当に計画の中で生きているのかどうか。集積された都市の代表的なものが、現実はどういうふうに反映しているのかっていうのは怪しいですね。本当に素晴らしい人が集まっているのがつくば市なんですよ。だから、その人たちは本当に生きているのかどうか。先ほどお話ししましたように、60、65歳の方は、例えば企業でもすごい能力や色々な経験があつて。そういう人たちを高齢者として置いてしまうのはやっぱり問題が
--	---

	ある。前期高齢者というか、いわゆる 60～75 くらいの人たちを、つくば市の中で有用に利用させていただくっていうか、働いてもらう。高齢者だと言ってこれまでよく働いてくれましたどうぞお休みくださいと棚上げしてしまって、亡くなるまで 40 年間塩漬けにしているというのが、私が今までずっと見てきた形です。たまたま私は 83 まで生きていて、色々あって、ここにいるんだけど。先ほど言いましたように、優れた人たちの集まった都市なんですから、そういう面で、60 になったから高齢者というのではなくて、これから計画を作るにあたって、75 くらいまでの人が堅実に働いている、働けるんだ、社会に貢献できるんだと、という形を根本のところに持って欲しいです。だから、そういうふうに考えてみると、私の友人の大学教授なんかはみんな今頃居眠りしています。もう少し有効利用してもらえないですかね。国の研究機関もたくさんあって、友人もたくさんいますけれども、ほとんど社会で活躍していません。とんでもないような国際的な賞をもらった人もたくさんいますよ。こういう案を作るにあたって、後期高齢者はちょっとという形でも、高齢者まで入れた形を骨子案の中に入れて欲しいと思います。 特につくば市は最先端をいくのですから。日本で一番。大いに一番なりましょうよ。前回は申し上げたんですけれども、企業の人、あるいは大学の人や研究所の人を審議会に入れるべきだろうという提案をしているんです。それに対しても少し考えていただきたい。前回の話だと定年後の人たちという形で、良い言葉かどうか分かんないけども、セカンドライフということを考えますよね。セカンドライフじゃなくてまだ現役なんです。企業の課長とか部長とかに会ってみるとすごい能力を持っていますが、彼らには社会性が
--	--

	ないので、社会力と先ほどから言っていますが、そういう形の教育みたいなものを。そういう面で、色々な人たちが参加できるような市。素晴らしい人たちがたくさんいて、彼らを現役じゃない、老後だっていうふうにしないように、これから案を作る中で75くらいまでの年齢の人たちに配慮して計画の中に入れて欲しいと思います。長くなりましたが以上です。
武田会長	ありがとうございます。今の田中委員の御意見に対して何か皆さんの方からございますか。
黒田委員	参考資料2の20歳前後までは教育、20歳前後から60歳前後の仕事でそれ以降は老後とありますが、僕の周りの60代を見てもほとんどの方が仕事をされていて、元気であれさえすれば70代も仕事されるという方が多い。老後って言葉自体がちょっと死語みたいなイメージになっているんじゃないかなと思うので、ぜひ、つくば市は老後って言葉じゃなく、何か別の言葉に置き換えて表現するっていうのがいいんじゃないかなっていうふうに感じました。 あともう1点、「高度な学術研究を担う研究教育機関が集積する都市であり」ということで、来月からなんですけど、生涯学習推進課のつくば未来塾学習チューターというのが始まるんですね。私も毎年参加させていただいているんですけど、昨年、一緒に同じ教室で勉強を教えた高齢者の方なんですけど、どういったお立場の方なんですかってお話させていただいた時に、筑波大学名誉教授の農学博士の方でした。そんなすごい方に来ていただいているんだなっていう。そういった方に教えてもらって、すごい幸せな子供たちだなというふうに思ったんですね。なのでそういった70代後半ぐらいまでも地域の子供たちに教えられる場があるんだっていうのは、情報として、みんなに知らせていくといいんじゃないかなというふ

田中（秀）委員	うに感じました。 資料2のサンプルの次のところに、私が指摘したように老後の年齢を短くされて、次はこういうふうにするんだということがここに書かれているのを、指摘をいただいて拝見しました。今日来るまでの自分の考え方を申し上げたんですけれども、こういう形で積極的に進めていただければということで。失礼なことを申し上げました。以上です。
武田会長	ありがとうございます。確かにこの老後というのはリタイア後ということなのか、疑問があるなというふうに思いました。
石塚委員	ただいまの件に関連して、私はシルバークラブの会長なんですけれども、シルバークラブというのは要するに老人会です。ただ、現在のシルバークラブの会員っていうのは、昔は60代頃から入会してくれましたけども、現実には75、76から。75でもまだ働いているとか何かで大体、新しく入っていただけない。それで、新しい会員が入らなくて、高齢者が亡くなったりするものですから、なかなか会員も増えないんです。だから、その辺がシルバークラブとしてはちょっと頭が痛いところなんですけれども、現実には75くらいまでは働いている人がほとんどで、シルバークラブの会員としては、まず横を向いてしまっていて入っていただけないというのが現状です。
武田会長	ありがとうございます。
石川委員	市の考え方で、誰一人取り残さないとか、自己実現をしてとかいうことをよく耳にするんですが、資料4-1の4ページに書いてある基本目標1「誰一人取り残さない学びの充実」の中に「障壁」つてありますよね。障壁の解消というのは外国人の問題だけではなく、もっと身近な、中心部から離れた周りの方でも、お茶飲み会をやろうというふうな単純なものでも、壁があるのです。今、私たち

武田会長 溝上委員	の地域では、この壁をどういうふうにして切り込んでいったらいいかなってということで、皆さんの考えを聞かせてもらっています。だから、これは取り除くんじゃなくて、やっぱり意見を出してもらって、考えを聞かしてもらおうというふうに寄り添っていかなくちゃいけないものなんだなということ、ものすごく感じています。そのための工夫を、高齢者というか自分たちの年齢だけでなく、地域に住んでいる子供たちも大変少なくなってますから、年に1回か2回のごみ拾いの時に見るか見ないか、そういう状態では、分かるわけがないんだなということに、ものすごく気づかされました。だから、今皆さんがお話している生涯学習というのは本当に大事で、裾野の方も当然、何かしらそういうふうなことで幸せになってもらいたいなって思っているんですけども、壁は一緒じゃないかなと思うんですね。だから取り除くんじゃなくて、理解するという方向に持っていつてもらいたいなって気がします。簡単なものではないなということをちょっと付け加えておきたいと思います。 ありがとうございます。 溝上です。今は資料4-1についての意見交換だと認識しております。まず資料4-1ではライフステージという言葉がたびたび出てきます。今日は議論しませんが、あくまでも参考でお見せしましたという参考資料2になると、ステージモデルみたいな、マルチステージモデルというところでステージという言葉は出てきますが、あとはライフコースとか、ペルソナという言葉になっています。ライフステージは一体どこでこれからどう展開していくのでしょうか。言ってしまうと用語の違いがちょっと分かりにくい構図になっている。今すぐ説明してくださいってことではないですけども、今後もし、これに沿って案を作っていくとすれば、初
----------------------	---

	めて見るとつくば市は何を前面に出して議論したいのかがちょっと分からない構図になっているような気がするので、用語の定義をする、もしくは一貫性を整えていただければありがたいと思います。 それから2番目は、前回もすごい議論になった、基本理念の2ページの下の方の黄色いところ、「学びを楽しみ 世代がめぐる つくばでつながる 幸せのまち」。学びを楽しみ世代がめぐるっていうのはどこにかかるのでしょうか。「つくば」にかかってくるのですか、それとも「幸せのまち」にかかってくるのでしょうか。「つくばでつながる 幸せのまち」って、ちょっと日本語としておかしくなっていませんか、と感じるのは私だけでしょうか。この言葉一つ一つがおかしいということではなくて「つくばでつながる」で終わり、最後「幸せのまち」っていうことを言いたいというふうに理解したらいいのか。「学びを楽しみ、世代がめぐる幸せのまち つくば」という意味なのか。ちょっとそこら辺の標語の日本語の構造が私には理解しにくいので、どこがどうつながっているのか教えていただければと思います。以上です。 溝上先生のおっしゃったことはなるほどと思うんですけど、今私の中でこうですっていうのがすぐ出てこないで申し訳ありませんが少しお時間をいただければと思います。 中嶋です。前回基本理念をどうするかということで、市からの提案があったのと別案で案1、2、3っていうのがあって、特に案3の言葉をもとに、みんな考えたほうがいいだろうっていうふうな方向がほぼ出たような気がして、私も整理してみたんですけども。 「学びを楽しみ」「世代がめぐる」「つくばでつながる」「幸せのまち」、ある意味4つのワードで考えていいのかと思うのですが。
事務局（松橋）	
中嶋委員	

	かかるとかということではなくてね。ですから、「学びを楽しむ」っていうのは生涯学習の一つの「学び」っていう部分の言葉であるし、「世代がめぐる」っていうのは、要するに世代間の交流が少ないということです。青少年、それから今働いている世代、それから働きが終わった世代、そういうものが交流できるというか、めぐるという意味に考えます。それが「つくばでつながる」ですから、つくば市に住んでいる人たちが、そういうことでつながり、それを合わせれば最終的には「幸せのまち」になるという理念で考えています。
武田会長	ありがとうございます。溝上委員、中嶋委員の御意見に対して、いかがでしょうか。それ以外のところでも、結構ですけれども。 全体を通してでも、御意見・御質問等ございましたら。もしなければ、これで本日の議題は終了というふうにさせていただければというふうに思います。皆さん、貴重な御意見、ありがとうございます。では進行を事務局の方にお戻しさせていただきます。
4 そのほか 事務局（瓜阪）	武田会長、議事進行ありがとうございました。本日皆様からいくつか課題や宿題をいただいたと認識しております。改めてこちらで整理して、お伝えできればと考えております。では次回の開催時期についてですが、つくば市役所において8月末を予定しております。机上に第2回と第3回の出席確認に関する書類をクリアファイルに入った状態で配付させていただいておりますので、こちらを記入いただき、お帰りの際に、受付の職員にお渡しいただくか、机上に置いてお帰りいただければと思います。本日、日程の確認が難しい場合は、後日メールまたはお電話で御連絡いただければ幸いです。正式な開催通知は追って送付させていただきます。最後に、委

5 閉会 事務局（瓜阪）	員の皆様から何か質問等ございますでしょうか。 <質問なし> では以上をもちまして、令和7年度第1回生涯学習審議会を閉会いたします。なお、本会議の会議録につきましては、事務局で作成の上、委員の皆様を確認の依頼をさせていただく予定でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは皆様、本日はどうもありがとうございました。 以上
-----------------------------------	---

令和7年度第1回つくば市生涯学習審議会 次第

日時 令和7年（2025年）6月27日（金）

午後2時30分

会場 つくば市役所 201 会議室

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

- (1) 第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和6年度実績について
- (2) 第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和7年度事業計画について
- (3) （仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画 修正骨子案について

4 そのほか

5 閉 会

【配布資料】

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 資料1-1 | 第3次つくば市生涯学習推進基本計画 令和6年度評価のまとめ |
| 資料1-2 | 第3次つくば市生涯学習推進基本計画 評価基準 |
| 資料2-1 | 令和6年度施策の方向性ごとの評価一覧 |
| 資料2-2 | 令和6年度事務事業進捗状況一覧表 |
| 資料3 | 令和7年度事務事業 事業計画一覧表 |
| 資料4-1 | 第4次つくば市生涯学習推進基本計画骨子案 |
| 資料4-2 | 骨子案の修正 新旧対照表 |
| 資料5 | つくば市生涯学習審議会条例 |
| 資料6 | つくば市生涯学習審議会委員名簿 |
| 参考資料1 | 施策の展開（構成イメージ） |
| 参考資料2 | 未来への取組 |
| 参考資料3 | つくばの学びの未来像 |

【評価基準の変更について】

令和3年(2021年)3月に策定された第3次つくば市生涯学習推進基本計画の進捗管理については、事務事業評価(各担当課実施)及び施策の柱ごとの全体評価(生涯学習推進課実施)の2つの評価を実施しています。

令和4年度の外部委員によるつくば市生涯学習審議会において、評価手法についてより客観的な基準が求められ、令和4年度分の実績評価から評価方法の変更を行っています(資料1-2「評価基準」参照)。

①各事務事業に対する評価(担当課評価)

	S	A	B	C	D	E	—
令和5年度	8	15	8	2	1	0	0
令和6年度	8	16	6	4	0	0	0

②施策の方向性毎の評価(全体評価)

施策の柱	施策の方向性	令和5年度	令和6年度
多様な学びの実現	施設の利便性向上	8点	7点
	参加機会の拡充	9点	8点
	生涯学習の相談・情報の提供	8点	9点
誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	9点	8点
	主体的に活動に参加できる取組	8点	9点
地域で学び合う生涯学習	地域で学ぶきっかけ作り	8点	7点
	地域で学び続ける仕組み作り	6点	8点
「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	7点	6点

① 事務事業評価

項目	内容																																							
評価者	各事務事業担当課																																							
【第1段階】実施状況評価及び指標評価	【①実施状況評価】 令和5年度事業の成果・達成状況の記載内容を踏まえ、事務事業の総合的な実施状況について、以下の評価を行う。 1 年度当初の計画を上回って事業を実施できた 2 おおむね年度当初の計画通りに事業を実施できた 3 年度当初の計画に遅れが生じた 4 年度当初の計画を全く実施できなかった — 特別な事情(※)により全く実施できなかった (※)特別な事情とは新型コロナウイルス感染症や自然災害等を指します。 特別な事情下でも工夫して事業が実施できた場合(例:会場開催を動画配信に切り替えた等)は「2 おおむね年度当初の計画通りに事業を実施できた」として扱う。 【②指標評価】 ○指標毎の評点 指標の目標値に対する実績値の割合に応じて、以下の点数を割り当て、複数指標がある場合はそれを平均する。 ※複数指標がある事業に「—」がある場合は、その指標を除いて平均する																																							
	<table><tr><td>100%以上</td><td>10点</td></tr><tr><td>70%以上</td><td>7点</td></tr><tr><td>50%以上</td><td>5点</td></tr><tr><td>50%未満</td><td>3点</td></tr><tr><td>0%</td><td>0点</td></tr><tr><td>特別な事情による未実施</td><td>—</td></tr></table>	100%以上	10点	70%以上	7点	50%以上	5点	50%未満	3点	0%	0点	特別な事情による未実施	—																											
	100%以上	10点																																						
	70%以上	7点																																						
	50%以上	5点																																						
	50%未満	3点																																						
	0%	0点																																						
	特別な事情による未実施	—																																						
	○指標の達成状況による評価 指標毎の評点の平均した数値(小数点以下を四捨五入)を以下の表に当てはめ、指標評価とする。																																							
	<table><tr><td>10～8.0点以上</td><td>a ※指標を(概ね)達成している</td></tr><tr><td>8.0未満～5.0点以上</td><td>b ※指標を達成できていない</td></tr><tr><td>5.0点未満</td><td>c ※指標を大幅に達成できていない</td></tr><tr><td>全ての指標が「—」</td><td>—</td></tr></table>	10～8.0点以上	a ※指標を(概ね)達成している	8.0未満～5.0点以上	b ※指標を達成できていない	5.0点未満	c ※指標を大幅に達成できていない	全ての指標が「—」	—																															
10～8.0点以上	a ※指標を(概ね)達成している																																							
8.0未満～5.0点以上	b ※指標を達成できていない																																							
5.0点未満	c ※指標を大幅に達成できていない																																							
全ての指標が「—」	—																																							
【第2段階】総合評価	【総合評価】 ①、②の評価をクロスさせ、以下の評価とする。																																							
	<table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="5">①実施状況評価</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="4">②指標評価</td><td>a</td><td>S</td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td></td></tr><tr><td>b</td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td></td></tr><tr><td>c</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td><td></td></tr><tr><td>—</td><td></td><td>C</td><td></td><td></td><td>—</td></tr></table>			①実施状況評価							1	2	3	4	—	②指標評価	a	S	A	B	C		b	A	B	C	D		c	B	C	D	E		—		C			—
			①実施状況評価																																					
		1	2	3	4	—																																		
②指標評価	a	S	A	B	C																																			
	b	A	B	C	D																																			
	c	B	C	D	E																																			
	—		C			—																																		

②施策の方向性ごとの評価(全体評価)

項目	内容															
評価者	生涯学習推進課															
施策の方向性ごとの評価	○各事務事業の総合評価を、それぞれ以下の表に基づいて点数化し、それを平均した値(小数点以下は四捨五入する)を評点とし、施策の方向性ごとの評価の進捗状況を図る目安とする。															
	<table><tr><th>事務事業総合評価結果</th><th>点数</th></tr><tr><td>S</td><td>10点</td></tr><tr><td>A</td><td>8点</td></tr><tr><td>B</td><td>6点</td></tr><tr><td>C</td><td>4点</td></tr><tr><td>D</td><td>2点</td></tr><tr><td>E</td><td>0点</td></tr></table>	事務事業総合評価結果	点数	S	10点	A	8点	B	6点	C	4点	D	2点	E	0点	
	事務事業総合評価結果	点数														
	S	10点														
	A	8点														
	B	6点														
	C	4点														
	D	2点														
	E	0点														
	※施策の方向性に含まれる事務事業の中に、総合評価が「—」となっている事務事業が含まれる場合は、その事務事業を除いて平均する。															
○評点の決定方法の例																
<table><tr><th></th><th>事務事業総合評価結果</th><th>点数</th><th>計算</th><th>評点</th></tr><tr><td>事務事業A</td><td>S</td><td>10</td><td rowspan="3">$(10+4+2) \div 3 = 5.33 \dots$</td><td rowspan="3">5</td></tr><tr><td>事務事業B</td><td>C</td><td>4</td></tr><tr><td>事務事業C</td><td>D</td><td>2</td></tr></table>		事務事業総合評価結果	点数	計算	評点	事務事業A	S	10	$(10+4+2) \div 3 = 5.33 \dots$	5	事務事業B	C	4	事務事業C	D	2
	事務事業総合評価結果	点数	計算	評点												
事務事業A	S	10	$(10+4+2) \div 3 = 5.33 \dots$	5												
事務事業B	C	4														
事務事業C	D	2														

令和6年度(2024年度)第3次生涯学習推進基本計画 施策の方向性ごとの評価一覧										資料2-1		
No.	施 策 の 柱	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁 （資料2-2）	事業番号 （資料2-2）	事業概要	担 当 課	事務事業名	② R6年度 事務事業評価			
	施策の方向性								実施 状況 評価	指標 評価	総合 評価	
多様な学びの実現												
1-(1)-ア	施設の利便性の向上	令和5年度と比較して、施策の方向性評価の評点が1点下がった。図書館利便性向上事業においては利用人数や貸し出し数は目標値に到達しなかったため指標評価が下がったものの、みどりの南小学校における図書館サービスを開始したり、自動車図書館のステーションを増加させたりするなどサービス向上を図っている。また令和6年2月に新設されたつくば市民センターでは、市広報紙やホームページで講座やイベントの積極的な情報発信を行い施設の認知度向上を図っており、今後新たな市民の交流拠点としての活躍が期待できる。	7	1	1	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	図書館利便性向上事業	2	b	B	
1-(1)-ア				1	2	誰でも気軽に利用できるような施設づくり	地域支援課、つくば市民センター	市民交流施設利便性向上事業	2	a	A	
1-(1)-イ	参加機会の拡充	令和5年度と比較して、施策の方向性評価の評点が1点下がった。評点が下がった要因としては、夜間・休日における講座の開催数が目標値を下回ってしまった点が挙げられる。夜間・休日に対応できる講師の確保ができず開催できなかった講座があったが、就労者や子育て中の方など幅広く学習機会を提供するために、引き続き夜間・休日の講座開催に取り組む必要がある。	8	2	3	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	民間企業での生涯学習事業	1	a	S	
1-(1)-イ				2	4	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	オンラインによる生涯学習講座事業	1	a	S	
1-(1)-イ				2	5	夜間・休日における学習機会の提供	地域支援課、つくば市民センター	地域交流センター活用事業	3	b	C	
1-(1)-ウ	生涯学習の相談・情報の提供	令和5年度と比較して、施策の方向性評価の評点が1点上がった。生涯学習関連事業やイベント情報を一元化して広報紙に掲載したりアプリケーションやSNSを活用したりして情報発信を行っている。情報発信手段を幅広くすることで一人でも多くの市民の目に触れる機会を増やすよう引き続き推進していきたい。	9	3	6	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	生涯学習相談事業	2	a	A	
1-(1)-ウ				3	7	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	情報収集・発信事業	1	a	S	

No.	施 策 の 柱	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁 （資料2-2）	事業番号 （資料2-2）	事業概要	担 当 課	事務事業名	② R6年度 事務事業評価		
	施策の方向性								実施 状況 評価	指標 評価	総合 評価
誰一人取り残さない生涯学習											
1-(2)-ア	参加への障壁をなくす 取組	令和5年度と比較して、施策の方向性評価の評点が1点下がった。評点は下がったものの、おおむね年度の計画どおり事業を実施できている。外国人市民向けの日本語講座事業では、講師不足により開催できなかったため目標値を下回ってしまったが、新たな15-18歳クラスを開設するなど市民のニーズに対応し、「誰一人取り残さない生涯学習」の実現に取り組んでいる。	8	4	8	生涯学習講座における配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	生涯学習ワンストップ 対応事業	2	a	A
1-(2)-ア				4	9	職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	広報力向上事業	2	a	A
1-(2)-ア				4	10	外国語広報誌等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座（日本語講座）の実施	国際都市推進課	外国人市民向け 情報発信・講座事業	2	a	A
1-(2)-イ	主体的に活動に参加 できる取組	令和5年度と比較して、施策の方向性評価の評点が1点上がった。セミナーや講座、イベントなどのプログラムの実施は計画どおり行われ参加者の満足度も高いが、主体的に活動に参加する環境を整えるために必要な支援者を増やしていくことや多くの市民の理解を得ることが課題となっており、それらについての周知を図る取り組みが期待できる。	9	5	11	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	障害者の 生涯学習関連事業	1	a	S
1-(2)-イ				5	12	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	ダイバーシティ推進室	男女共同参画啓発事業	1	a	S
1-(2)-イ				5	13	障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	障害者スポーツ推進事業	1	a	S
1-(2)-イ				5	14	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	生涯学習関連事業 （障害のある人や支援者対象）	2	b	B

No.	施 策 の 柱	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁（資料2-2）	事業番号（資料2-2）	事業概要	担 当 課	事務事業名	② R6年度事務事業評価		
	施策の方向性								実施状況評価	指標評価	総合評価
地域で学び合う生涯学習											
2-(1)-ア	地域で学びきっかけ作り	令和5年度と比較して、施策の方向性評価の評点は1点下がった。実施状況評価において当初の計画どおりの実施ができていない点や、指標評価において実績値が低い事業があることが要因として挙げられる。 今後の取組として市民との講座についての意見交換を挙げている事業もあるため、市民のニーズをくみ取りながら、地域で学びきっかけ作りの充実が期待できる。	7	6	15	市民との協働講座(人間学講座)の実施	生涯学習推進課	つくば人間学講座	2	b	B
2-(1)-ア				6	16	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	文化財展示講座事業	2	a	A
2-(1)-ア				6	17	筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	調査・研究支援事業	2	b	B
2-(1)-ア				7	18	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際都市推進課	多文化共生推進事業	2	a	A
2-(1)-ア				7	19	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	スポーツ教室事業	3	b	C
2-(1)-ア				7	20	地域交流センターでの学級・講座の充実	地域支援課、つくば市民センター	地域交流センター講座等事業	1	a	S
2-(1)-ア				7	21	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	筑波山地域ジオパーク推進事業	2	a	A

No.	施 策 の 柱	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁 （資料2-2）	事業番号 （資料2-2）	事業概要	担 当 課	事務事業名	② R6年度 事務事業評価		
	施策の方向性								実施 状況 評価	指標 評価	総合 評価
2-(1)-イ	地域で学びつづける 仕組み作り	令和5年度と比較して、施策の方向性評価の評点は1点上がった。ボランティア養成講座を新たに実施したことで新規のボランティア数が増加した。これを更に増やしていくよう広報活動等を通して取組を進めていくことが期待される。 今後の取組として定例会や研修会等による市民の意欲を掻き立てるような事業を挙げている事業があるため、令和7年度もより一層のサービスの充実が期待できる。	8	8	22	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	生涯学習活動相談事業	2	a	A
2-(1)-イ				8	23	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級支援事業	2	a	A
2-(1)-イ				8	24	生涯学習情報（OB人材、指導者情報）の整備・活用	生涯学習推進課	生涯学習指導者情報提供事業	2	a	A
2-(1)-イ				8	25	学校施設開放（体育館・グラウンドなど）の推進	教育施設課	学校施設開放事業	1	a	S
2-(1)-イ				9	26	文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	文化財サポーター事業	2	a	A
2-(1)-イ				9	27	生涯学習情報（OB人材、指導者情報）の整備・活用	企画経営課	つくば市OB人材活動支援事業	2	c	C
2-(1)-イ				9	28	市民活動センターでの活動相談、アイラブつくばまちづくり補助金事業等市民活動団体の活動支援	市民協働課	市民活動団体支援事業	2	b	B
2-(1)-イ				10	29	文化協会の支援	芸術文化推進課	文化団体等育成支援事業	2	a	A
2-(1)-イ				10	30	文化振興財団の支援	芸術文化推進課	（公財）つくば文化振興財団支援事業	2	a	A
2-(1)-イ				10	31	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	高齢者生きがい活動支援事業	2	a	A

No.	施 策 の 柱	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁 （資料2-2）	事業番号 （資料2-2）	事業概要	担 当 課	事務事業名	② R6年度 事務事業評価		
	施策の方向性								実施 状況 評価	指標 評価	総合 評価
「社会力」を持った人材の育成											
2-(2)	実践できる人材の育成	令和5年度と比較して、施策の方向性評価の評点は1点下がった。指標評価において、実績値が目標値に達しなかった事業があることが要因として挙げられる。 今後の取組としてより市民が参加しやすいような講座やワークショップ等の開催による事業の改善を挙げている事業があるため、令和7年度の施策の方向性評価の評点が好転するものと期待できる。	6	11	32	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	「社会力」人材育成事業	2	b	B
2-(2)				11	33	地区リーダー勉強会の開催	市民協働課	地区リーダー勉強会事業	2	c	C
2-(2)				11	34	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	地域まちづくり支援事業	2	a	A

令和6年度(2024年度) 第3次生涯学習推進基本計画事務事業進捗状況一覧表								資料2-2									
基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	施設の利便性の向上	1	1-(1)-ア	図書館利便性向上事業	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	土日の開館時間2時間延長と祝日の特別開館の継続および市庁舎コミュニティ棟、かとりだい交流館における予約本の貸出しを継続し、利用者の利便性向上を図る。また、研究学園小学校学校図書館に加え、みどりの南小学校学校図書館での図書館サービスの提供を開始し、サービスポイントを拡充する。 火曜日から土曜日に自動車図書館車3台を使って、市内62か所のステーションで貸出及び返却等のサービスを行う。各ステーションは2週間に1回の頻度で巡回する。自動車図書館車1台の更新を行う。 並木・広岡・大穂・豊里・島名の各交流センター、市役所コミュニティ棟、かとりだい交流館のブックポスト及びオンラインの4交流センター図書室での図書返却事業を継続するとともに、新たにつくば駅周辺にブックポストを設置し、更なる利便性向上を図る。	図書館条例施行規則を改正し、土日の開館時間を19時までとするとともに、祝日の特別開館を実施し、利用者の利便性向上に寄与した。研究学園小学校における図書館サービスに加え、みどりの南小学校における図書館サービスを開始した。 火曜日から土曜日に自動車図書館車3台を使って市内を計画的に巡回し、貸出及び返却等のサービスを行った。新規ステーションや滞在時間の検討を行い、ステーションを58か所から63か所に増やしサービスの拡充を図った。 並木・広岡・大穂・豊里・島名の各交流センター、市役所コミュニティ棟、及びかとりだい交流館のブックポストでの図書返却事業と分室(谷田部・筑波・小野川・荃崎交流センター図書室)での図書館サービスを継続し、利用者の利便性向上に寄与した。また、みどりのプールに新たにブックポストを設置した。	31,761千円	29,154千円	2	b	B	利用の少ない自動車図書館のステーションがある。インターネットによる予約およびサービスポイントの増加に伴い、配送する資料が年々増加している。それに伴い、配送に要する時間や、担当者の負担が増加している。	自動車図書館のステーションの見直しを継続的に行うとともに、新規ステーションの開拓を図るとともに、積極的に広報活動を行う。各サービスポイント毎の配送状況を随時確認し、配送ルートや回数の見直しをする。	特になし
			2	1-(1)-ア	市民交流施設利便性向上事業	誰でも気軽に利用できるような施設づくり	地域支援課、つくば市民センター	※令和6年2月に、吾妻交流センターと市民活動センターの機能を併せた施設として、「つくば市民センター」が新設された。そのため令和6年度計画においては地域支援課及びつくば市民センターがそれぞれ目標値を設定する。 評価は関係部署が協議の上、統一した点検、評価を行う。 【地域支援課】 市民の自主的な活動や交流の場として、様々な団体(サークル)が快適に利用できるよう、地域交流センターの維持管理を行う。 また、茶道、華道、囲碁、料理、語学、ボランティア、短歌、音楽、手芸、絵画、書道、バレエ、ダンス、スポーツ、工芸等多様な団体(サークル)の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。 【つくば市民センター】 従来の市民サークルだけでなく、社会貢献活動団体、市外団体、営利目的団体、少人数団体の利用も認め、広く市民の活動や交流な場所を提供するために、施設の維持管理を行う。 また上記団体の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。 【地域支援課】 地域交流センター利用者数470,000人 地域交流センター登録団体800団体 【つくば市民センター】 つくば市民センター利用者数2,000人 つくば市民センター登録団体200団体	【地域支援課】 ・地域交流センターの利用者数は、前年度実績の376,522人から417,191人に増加し、増加率は約10.8%であった。 ・地域交流センター登録団体数は、前年度実績の698団体から759団体に増加し、増加率は約8.7%であった。 利用者数の増加に繋がった要因としては、登録団体(サークル)の増加や、交流センター講座への参加等、市民の自主的な活動が増えたこと等が考えられる。 【つくば市民センター】 利用者数及び登録団体について、目標値を上回ることができた。主な要因としては、市広報紙やホームページでの積極的な施設情報や講座・イベント情報の発信に注力し、認知度向上を図ったこと等が考えられる。	【地域支援課】 504,138千円 【つくば市民センター】 89,257千円	【地域支援課】 540,701千円 【つくば市民センター】 65,236千円	2	a	A	【地域支援課】 新型コロナウイルス感染症の流行時に、緊急事態宣言の発令など活動自粛の動きがあったことにより、登録団体数が一時的に大きく減少してしまった。 特に高齢者団体においては、活動を自粛したまま再開の目途が立たず、解散となってしまったケースが見られた。 【つくば市民センター】 つくば市民センター内で最も広い大会議室(定員100人)の使用率が低い状況にある。	【地域支援課】 新型コロナウイルス感染症の5類移行後は、交流センター利用者や登録団体数も徐々に回復基調にあるがいずれも目標値には達していないことから、交流センター講座をきっかけとした新たなサークル設立などを後押しすることで、さらなる交流センター利用者や登録団体数の増加を図っていく。 【つくば市民センター】 つくば駅に近いという立地条件を活かしたイベント等での活用を促すとともに、未登録団体の単発使用の際にも使用の目的や人数に合わせて大会議室の使用を積極的に促していく。	特になし

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	参加機会の拡充	3	1-(1)-イ	民間企業での生涯学習事業	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	民間企業等の意見を反映しながら研究機関、民間企業等での講座実施や新規講座の拡充を図っていく。	つくば市出前講座について、民間企業、研究機関等において22回実施することができた。 また、同事業において講座実施前の調整を円滑に進めるため事務手順の改訂を行った。前年度に引き続き新規講座の募集も行い、1講座の新規登録があった。	49千円	0千円	1	a	S	実施されやすい講座が全体の実施回数の中で高い割合を占めている。また、同一団体が複数の講座を積極的に活用している反面申し込み団体数は一定であるため、今後はより幅広い団体に利用してもらうための工夫が必要。	広報媒体と周知回数を増やすことで、より幅広い団体に講座を利用してもらう環境を整えていく。 引き続き新規講座の募集も行っていく。	特になし
			4	1-(1)-イ	オンラインによる生涯学習講座事業	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	生涯学習に関する講座等の動画本数は充実してきているため、各動画のさらなる内容の充実や満足度の向上を図っていく。	つくばちびっ子博士では、13本の動画を制作しそのうち10本を受託業者が制作した(3本は参加機関からの提供)。 令和6年度はさらに13本の過去動画のアーカイブも公開した。 動画の満足度については、アンケートにおいて「デジタルワールドがどれくらい楽しかったか」について5段階評価で回答した率を記入している。	410千円	235千円	1	a	S	令和5年度と令和6年度と続けて、動画1本あたりの視聴数がほぼ横ばいになっている。	動画の満足度は高い水準を維持しているため、内容を充実させつつサムネイル、広報など動画を再生してもらうための工夫をしている。	特になし
			5	1-(1)-イ	地域交流センター活用事業	夜間・休日における学習機会の提供	地域支援課、つくば市民センター	※令和6年2月に、吾妻交流センターと市民活動センターの機能を併せた施設として、「つくば市民センター」が新設された。 令和6年度計画においては地域支援課及びつくば市民センターがそれぞれ目標値を設定する。 評価は関係部署が協議の上、統一した点検、評価を行う。 【地域支援課、つくば市民センター】 平日昼間に就労している社会人や子育て中の方等も含め、より多くの方が参加しやすいよう、夜間や休日に実施する講座を設定することで、夜間休日における学習機会を提供する。	【地域支援課】 地域交流センター講座において、夜間(17:30～20:00)講座のほか、土日開催の講座など、幅広い世代の方々が受講できるよう企画・実施した。 講座数：3講座(計9回) 講座内容：和紙で折る正月飾り(吉沼) チャイニーズエクササイズで健康作り(春日) 冬の親子天体観測(島名) 【つくば市民センター】 つくば市民センター講座において、夜間(18:30～20:00)講座のほか、土日開催など各講座のターゲット層が受講できる講座を企画・実施した。 講座数:6講座 講座内容:生花、工作、音楽、法務講座、NPO設立等	【地域支援課】 5,394千円 【つくば市民センター】 4,729千円	【地域支援課】 3,851千円 【つくば市民センター】 3,259千円	3	b	C	【地域支援課】 講座の企画段階で、平日夜間や休日に開催可能な講師の確保に苦慮したこともあり、目標値を大幅に下回ってしまった。また、各交流センター職員が生涯学習基本計画を実現するための評価指標とその目標値の認識が十分でなかったことも目標値を達成できなかった要因であると考えられる。 【つくば市民センター】 特に社会貢献活動に係る講座の対象者は、就労者が多く平日昼間の受講が難しい。	【地域支援課】 令和7年度は、全交流センター職員に生涯学習基本計画の評価指標と目標値を再度周知し、目標値が達成できるよう講座の企画を行うとともに、講師派遣業者等も活用しながら、平日夜間や休日に対応可能な講師の確保に取り組む。 【つくば市民センター】 講座のアンケート項目に、参加可能な時間帯を設け、参加者のニーズを把握しながら、引き続き就労者にも対応できる講座を企画する。	特になし

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指 標	総合	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	生涯学習の相談・情報の提供	6	1-(1)-ウ	生涯学習相談事業	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	つくば市ホームページにおける生涯学習情報発信の工夫や、つくば市の広報誌等を活用した生涯学習相談の周知を実施し、相談につなげる。 近年は市内企業や研究機関等から地域貢献の観点で相談があることも多いため、積極的な情報や意見の交換に努める。相談にあたってはオンラインでの対応も実施する。	市内研究所から生涯学習活動の実施に関する手法の相談を受け、実現に向けた手段や制度を紹介した。	0千円	0千円	2	a	A	生涯学習活動に興味を持ったときに誰でも気軽に相談ができるという認知度を高めていく必要がある。	もともと生涯学習について強く関心があつて相談したい人だけが相談に至るという形ではなく、新たな活動をしてみたいという市民が気軽に生涯学習に関する相談に対してアドバイスや案内ができる業務運営(広報活動等)に引き続き努める。	特になし
								相談数5回	相談数5回								
			7	1-(1)-ウ	情報収集・発信事業	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	つくば市報、ホームページ等でそれぞれの生涯学習情報の関連性を強めて情報発信を図っていく。アプリケーション、SNS等も積極的に活用していく。	広報つくば令和7年5月号において、つくば未来塾・家庭教育学級・つくば市出前講座・社会力コーディネーター養成講座・中高生わくわく企画・生涯学習指導者情報提供事業をまとめた特集記事を掲載した。また、課内の事業周知において、つくスマ・Facebook・X(旧Twitter)による幅広い周知を行った。	0千円	0千円	1	a	S	事業周知については目標値に達しているため、周知の規模を維持しつつ各事業の結びつきを強める工夫が必要。	周知を行う際、それぞれの事業を単体ではなく時期や事業内容によって同時に発信する形態を継続していく。	特になし
								広報紙を活用した新規情報発信1回 ホームページ改修回数1回 アプリケーション・SNSを活用した発信回数15回	広報紙を活用した新規情報発信1回 ホームページ改修回数1回 アプリケーション・SNSを活用した発信回数46回								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指 標	総合	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	8	1-(2)-ア	生涯学習ワンストップ対応事業	生涯学習講座における配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	1-(1)-ウ「情報収集・発進時利用」及び1-(2)-イ「障害者の生涯学習関連事業」と連動して、生涯学習に関する情報発信についてワンストップ化に引き続き努め、また、生涯学習講座における配慮事項の指針のあり方を考える。	つくば市生涯学習指導者登録制度についてホームページの再改修を行い、教えたい人と教わりたい人向けの情報を同じページで発信すること等わかりやすいホームページ作りに取り組んだ。 障害者の生涯学習については、11月に実施した事業終了後、アンケート及び記録を作成した。今後の障害者の生涯学習活動を考える上での参考とする。	0千円	0千円	2	a	A	生涯学習に関する事業が多岐にわたる中で、わかりやすく興味を持ってもらえるホームページを中心とした情報発信のあり方を検討する必要がある。	令和7年度は事業単独のページだけでなく、ポータル的に情報を掲載しているページの改修ができるよう検討する。	特になし
								分野横断的な情報発信2回 ホームページの改修1回 障害者の生涯学習の取組に際した意見交換1回	分野横断的な情報発信2回 ホームページの改修1回 障害者の生涯学習の取組に際した意見交換1回								
			9	1-(2)-ア	広報力向上事業	職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	市が行う各事業に関する情報が市民にしっかりと伝わるよう、職員一人一人の広報力向上を目的として、引き続き職員向け広報力向上セミナーを年2回以上実施する。開催方法については、対面型と動画配信型を併用する。 また、年間を通じて各課が作成するチラシやポスター等の広報部物のデザインチェックや、動画配信に係る撮影やその支援を随時行う。	【職員向け広報セミナー実施】 職員を対象にセミナーを3回実施した。 ・1回目:10月スマホで簡単！動画制作講座(119人) ・2回目:チラシ作成実践講座(25名) ・3回目:「つくば市公式SNSの活用講座」(15名) 【広報事業へのアドバイスの実施】 チラシやポスター等のデザインチェックを446件、デザインの好事例集の紹介を5回行った。また、動画配信に係る撮影やその支援を随時行った。	12千円	0千円	2	a	A	職員向け広報セミナーについて、アンケート等での定量的な効果測定ができておらず、成果や課題を具体的に把握できていない。	年度末にアンケート等での効果測定を行い、今後の効果的なセミナーの開催や内容改善に繋げる。	特になし
								セミナー参加者150人	セミナー参加者159人								
			10	1-(2)-ア	外国人市民向け情報発信・講座事業	外国語広報紙等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座(日本語講座)の実施	国際都市推進課	市が発行する文書や冊子等の翻訳 8か国語の外国語広報紙を発行 市ホームページにおける4言語での情報発信 外国人市民に向けた日本語学習支援(大人対象:日本語講座をレベル別に昼・夜コースで開催し、対面コースを再開する。) (外国にルーツを持つ子ども対象:こども日本語勉強会、小中学校就学・高校進学ガイダンスを開催)	令和6年度は多言語での情報発信を全体的に見直し、外国語広報紙は季刊紙としての広報紙ではなく、長期的に利用できる「外国語生活ガイド」として各号テーマを設定して発行したほか、Xによる情報発信を再開し、タイムリーなイベント情報やお知らせの周知を図った。また、こども日本語勉強会については、ニーズを踏まえて新たに15-18歳を対象としたクラスを開設した。	5,669千円	4,481千円	2	a	A	大人向け日本語講座は講座を担える講師の不足等により開催できなかったクラスがあったことから、実績値が目標値を大きく下回った。	日本語講座講師不足解消のため、日本語ボランティア講師入門講座の開催回数を増やすなど、講師の養成に努める。	特になし
								外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数156回 大人向け日本語講座の受講者数330人 こども日本語勉強会の登録者数50人	外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数193回 大人向け日本語講座の受講者数203人 こども日本語勉強会の登録者数52人								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指 標	総合	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	主体的に活動に参加できる取組	11	1-(2)-イ	障害者の生涯学習関連事業	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	「障害者の自発性を取り入れる」という観点を持ち、市内の障害者教育機関と協働した障害者のための生涯学習講座を開催する。	「卓球バレー体験講座」を開催した。4団体32名が参加し、障害の有無、程度、年齢に関わらずプレーできる卓球バレーを楽しんだ。 アンケートでは、「楽しかった」、「まあまあ楽しかった」の回答の合計が94%となり、障害者にもスポーツの楽しさを感じてもらうことができた。 参加者数の内訳:参加者32名、サポート9名 合計41名	156千円	31千円	1	a	S	「卓球バレー体験講座」を2年連続で開催した。参加者には当該競技が定着してきた様子が見られ、また当講座以外でも各参加団体において卓球バレーを楽しんでいるとの声が聞かれ、定着度が伺い知れるが、行政との協働から支援団体の自主的な活動になるよう支援者の育成が課題である。	協働団体と対話を重ねながら、支援者が主体的に関わっていけるよう開催方針を決定する。	特になし
							講座参加者数20名 講座参加者の満足度80%	講座参加者数41名 講座参加者の満足度94%									
			12	1-(2)-イ	男女共同参画啓発事業	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	ダイバーシティ推進室	男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナーの開催 男女共同参画・ダイバーシティ推進の視点を取り入れたエンパワメント講座やキャリアアップ講座など、特定のテーマに焦点を当て、各セミナーの内容や目的をより明確にし、参加者が深く理解しやすいセミナーを開催します。参加者がより満足度の高い体験を得ることができるかを確認するため、アンケートを実施し、参加者の満足度を測定します。	【男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナーの実施】社会保障制度や社会保険の仕組み、自分探し、家事シェア、防災力アップ、性の多様性等、幅広いテーマを取り上げ、参加者に深い理解と行動変容の促進ができた。セミナー企画は8回、参加者数は167人。	7,783千円	7,226千円	1	a	S	令和6年度事業計画のうち、男女共同参画・ダイバーシティ推進の視点を取り入れたキャリアアップ講座については、令和6年度に事業内容の整理や対象者のペルソナ分析等を行った結果、令和7年度当初予算で必要な金額を計上して開催することとした。	令和6年度の検討を踏まえて、令和7年度にキャリアアップ講座を開催する。	特になし
							男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー8回 男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー参加者満足度(アンケート実施)93%	男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー8回 男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー参加者満足度(アンケート実施)98%									
			13	1-(2)-イ	障害者スポーツ推進事業	障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	障害者がスポーツ施設を利用できる体験講座と障害者スポーツサポーター養成研修を兼ねた講座を年2回実施する。 また、つくばスポーツフェスティバル&つくバラや障害者スポーツ体験講座をとおして障害者スポーツに親しむ機会を設ける。	参加者の運動習慣化を促進するため、体験講座後に各2回のフォローアップを追加実施したことで、評価指標の実績値は目標値を大きく上回った。	631千円	755千円	1	a	S	障害者スポーツを推進するに当たっては、障害者本人のスポーツ活動を支援することに加えて多くの市民の理解が重要であるが、現時点の取組が必ずしも十分であるとは言えない。	障害者スポーツに対する市民の理解増進に向けた取組を検討していく。	特になし
			14	1-(2)-イ	生涯学習関連事業(障害のある人や支援者対象)	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	おひさまサンサン生き生きまつりは、障害者と高齢者交流による社会参加を目的として開催予定としている。 奉仕員養成講座は、年間に手話奉仕員養成講座入門コースと基礎コースとも各30回、音訳・点訳・要約筆記奉仕員講座各10回実施する。奉仕員を養成することにより聴覚障害者等に対する日常生活の支援を図り、社会参加に寄与する。	チャレンジアートフェスティバルは、舞台発表、作品展示ともに実施できた。舞台発表においては前年度より来場者数が増加したこと、また、特別企画として福岡県で実施されたPEOPLE ART PERFORMANCEのイベントとオンラインでつなぎ、舞台発表に出演したダンサー(ALSり患)と合同でダンスを行う外部団体と連携したプログラムを実施した。また、県庁と市役所等で作品展示の巡回展を開催し、一般市民に対する事業活動を行った。 おひさまサンサン生き生きまつりは、開催日当日は天候不良であったが、天候状況に合わせた柔軟な運営により、可能な限りプログラムを実施することができた。 奉仕員養成講座は、各講座の受講人数にばらつきがあるが、受講回数を通してほとんどの受講生が修了することができた。	12,668千円	11,094千円	2	b	B	おひさまサンサン生き生きまつりについては、障害者の参加者数について目標値に達しなかったが、事業の実施規模などを実行委員会の意見を参考に定めていく必要がある。また、チャレンジアートフェスティバルについても目標値に達していないため、幅広い効果的な周知活動を行っていく必要がある。 奉仕員養成講座も目標値に達していないため、幅広く周知していく必要がある。	おひさまサンサン生き生きまつりについては、障害者と高齢者が合同で円滑に取り組むことができるプログラムをより充実させ、参加意欲の向上を図っていく。 また、チャレンジアートフェスティバルにおいては、幅広く市民が参加できるように実行委員会等で企画、効果的な周知方法等を検討していく。	おひさまサンサン生き生きまつりは、高齢者と障害者が参加する事業だが、令和6年度評価指標内の目標値は、高齢者を含まず障害者の参加者数での記載となっている。

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかに ことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びきっかけ作り	15	2-(1)-ア	つくば人間学講座	市民との協働講座(人間学講座)の実施	生涯学習推進課	市民との協働で組織する実行委員会をとおして、市民に多面的な学びの場を提供する。 【実施テーマ(予定)】子育て、健康、SDGs	市民と協働して組織する、つくば人間学講座実行委員会にて講座内容を決定し、3講座を開催した。 ・小児神経専門医が語る『「ゆくり」って知っていますか?』(2024/9/14参加者31名) ・「森へ行こう!」森林浴で健康になる(2024/11/16参加者31名) ・「いすに座ったまま、簡単ヨガ」(2025/1/25参加者33名)	262千円	212千円	2	b	B	駅に近い会場で開催したり、交流センター等でのチラシ配布など様々な周知を行っているが、参加者数が伸び悩んでいる。「学園都市の特徴を活かした学びの機会を手軽に提供する」として平成7年に事業が始まってから時間が経過し、つくば市の環境・住民とも変化が起きている。	引き続き実行委員会の中で市民と十分に意見交換を行いながら、市民が興味を持ち、満足してもらえる講座の実施に努める。	特になし
			16	2-(1)-ア	文化財展示講座事業	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	・10月～2月にかけて巡回企画展を、関連事業として11月に体験講座を、12月に講演会を実施する。 ・市域に伝わる江戸時代の古文書を題材にした古文書講座を、難易度に分け、8～9月・11～12月にそれぞれ全4回実施する。 ・「ちびっ子博士」のイベント開催時期に合わせて、夏休みに市内小中学生を対象とした出土品等の整理調査体験教室を実施するなど、市民が市内の文化財や史跡に親しめる機会を引き続き提供する。	・巡回企画展「中根・金田台地区の遺跡」を10月～2月で開催し、企画展986人、講演会91人、体験講座32人(市内在住・在学・在勤者)の来場者・参加者を得た。 ・古文書講座を初級講座(8～9月)・中級講座(1～2月)で実施し、初級講座28人・中級講座28人の参加者があり、市民が古文書や地域の歴史に親しむ機会を提供することができた。 ・「つくばちびっ子博士」の開催に合わせて、夏休みに市内小中学生を対象として発掘調査整理体験を行う「考古学体験教室」を実施し、市内在住・在学の小中学生(保護者含む)43人の参加者を得た。 ・その他にも史跡・文化財を知るイベントを実施し、いずれもアンケートの満足度等も高く、実施によって歴史や文化財に対する市民の関心や郷土愛を育成することができた。	5,314千円	5,809千円	2	a	A	企画展の会場となる展示施設の改修工事との関係で、学校での見学が多い時期に会期を合わせられなかったことから、企画展参加人数が目標より下回った。	令和7年度は、例年どおりの会期を予定しているため、目標値に近い参加者数が見込めるが、担当者による展示解説会を実施する等、多くの参加者数が見込める機会を増やしていく。	特になし
			17	2-(1)-ア	調査・研究支援事業	筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源および活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行う。 学校図書館ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、社会科見学・職場体験学習受入れ、学校司書等への研修実施といった学校図書館支援や、ファーストブック講座などのイベントを実施する。 参考資料を充実させるとともに、電話やメール等による調査・研究の質問を受け付け、専門職員が資料情報を提供する。	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行った。 学校訪問ブックトーク、団体貸出し、社会科見学、職場体験学習受入れ、学校司書等の研修、レファレンスについては、目標の達成に至らなかった。 小中学生の読書推進を目的とし、GIGA端末を活用して電子図書館サービスを利用できるよう、IDとパスワードの配布を行った。	1,003千円	963千円	2	b	B	図書館が行っている調査・研究支援事業について、学校等における認知度が低い。 団体貸出冊数が年々減少の傾向にある。	学校等に対し、図書館が行っている学校図書館支援について積極的に広報活動を行う。 現在、中央図書館のみで行っている団体貸出しを、利用団体の利便性を向上させるため、分室でも行えるよう検討する。	特になし
								参加者数300名 満足度80%	参加者数95人 満足度87%								
								企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数2日 巡回企画展参加人数1,500人	企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数2日 巡回企画展参加人数986人								
								つくば市域連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク40校 団体貸出冊数15,000冊 社会科見学等の図書館見学受入回数10回 職場体験学習受入人数40人 学校司書等の研修参加人数55人 ファーストブック講座参加人数60人 レファレンス受付件数1,800件	つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク38校 団体貸出冊数8,376冊 社会科見学等の図書館見学受入回数6回 職場体験学習受入人数37人 学校司書等の研修参加人数50人 ファーストブック講座参加人数68人 レファレンス受付件数1,474件								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びきっかけ作り	18	2-(1)-ア	多文化共生推進事業	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際都市推進課	国籍を超えた市民交流を推進するためのイベント等の開催 外国人市民が日本語を話したり、日本文化に触れることができるイベントの開催支援	令和6年度は国際理解講座の拡充に力を注ぎ、これまで市内の小中学校を対象に実施していたものを新たに保育所やアフタースクール、親子向けイベントの場でも実施し、幅広い世代に向けて国際理解の啓発に取り組んだ。また、新たに「国際理解講座講師」として講師を担える留学生を募り、より多様な国・地域の紹介ができるよう体制を強化した。	833千円	655千円	2	a	A	より幅広い世代に向けて国際理解の啓発を行うため、小中学校以外でも国際理解講座を開催できるよう、働きかけが必要である。	国際理解講座がどのようなものか、どんな講師でどんな内容の講座なのかを分かりやすく発信できるよう工夫する。	特になし
								国際理解講座開催数40講座 世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等との連携事業数2事業	国際理解講座開催数53講座 世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等との連携事業数1事業								
			19	2-(1)-ア	スポーツ教室事業	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	市民のスポーツ活動の促進のため、スポーツ教室を開催しスポーツ手法や楽しさを学ぶ機会を提供する。	参加者が集まらずに中止となった教室(障害者スポーツ体験教室)があった一方で、スポーツ振興の観点で新たに開催した教室(スケートボード教室)があったため、開催数は6回で目標値を達成した。 しかしながら、中止となった教室のほか、定員を下回った教室があったことで、全体としての参加者は目標値の半数程度に止まった。	1,601千円	708千円	3	b	C	中止となった教室や定員を下回った教室については、開催の有無を含めて望ましい開催方法を検討する必要がある。	単発の教室ではスポーツ振興に対する効果が乏しいと考えられるため、各参加者がスポーツを始めるきっかけとなるような開催方法を検討していく。	特になし
								教室の開催数6回 教室の参加延べ人数670人	教室の開催数6回 教室の参加延べ人数328人								
20	2-(1)-ア	地域交流センター講座等事業	地域交流センターでの学級・講座の充実	地域支援課、つくば市民センター	※令和6年2月に、吾妻交流センターと市民活動センターの機能を併せた施設として、「つくば市民センター」が新設された。令和6年度計画においては地域支援課及びつくば市民センターがそれぞれ目標値を設定する。 評価は関係部署が協議の上、統一した点検、評価を行う。	【地域支援課】 ・年間の講座開講数について、目標値を上回る講座を実施することができた。 ・地域交流センターを利用している個人や団体等に対し、今後のサービス提供の参考とするためのアンケートを実施した。 実施期間：令和6年11月29日～令和7年1月8日 回答状況：アンケート用紙配布数:991枚 回答数:597枚(うち、紙媒体595枚、電子申請2枚) 回答率:60% 【つくば市民センター】 年間講座数について、目標値を達成することができた。 施設使用者からの聞き取りやアンケート調査により、ニーズを把握しながら、新規の講座を企画した。	【地域支援課】 5,394千円 【つくば市民センター】 4,729千円	【地域支援課】 3,851千円 【つくば市民センター】 3,259千円	1	a	S	【地域支援課】 特になし 【つくば市民センター】 市民センター団体登録(一般団体、社会貢献活動団体)は活動分野の知識はあるものの自身が活躍できる場が少ないことから、講座の講師としての活用を図る。	【地域支援課】 特になし 【つくば市民センター】 市民団体の構成員が自ら講師になることで、市民活動の可視化・活性化にも繋がることから、講座の企画段階から一緒に行うなど講師の育成支援を行っていく。	特になし			
					【地域支援課】 年間講座数106講座 【つくば市民センター】 年間講座数24講座	【地域支援課】年間講座数107講座 【つくば市民センター】年間講座数24講座											
21	2-(1)-ア	筑波山地域ジオパーク推進事業	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	令和6年度も引き続き、昨年度11月にオープンした筑波山地域ジオパークの中核拠点施設である「つくばジオミュージアム」を活かしながら、ジオパークに関する生涯学習講座を実施する。 また、筑波山地域ジオパーク推進協議会教育・学術部会部会員による生涯学習講座(出前講座)について引き続き周知し、講座を開催する。	令和6年度は、筑波山地域ジオパーク(構成各市及び協議会)として、生涯学習を目的とした講座等の企画(77回)、部会、ジオガイドのスキルアップを目的とした講座、シンポジウムを実施し、筑波山地域の魅力等を学ぶきっかけとなる機会を幅広く創出することができた。 また、筑波山地域ジオパーク推進協議会教育・学術部会部会員が講師となって実施する生涯学習講座(出前講座)をつくり、案内及び講座一覧を筑波山地域ジオパーク公式HPで公開した。令和6年度は1件の申し込みがあった。	16,909千円	12,612千円	2	a	A	特になし	特になし	特になし			
					市民向け講座等開催数5回 部会開催数9回 ジオガイド向け講座等開催数3回 学術シンポジウム開催数1回	市民向け講座等開催数4回 部会開催数11回 ジオガイド向け講座等開催数8回 学術シンポジウム開催数1回											

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指 標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	22	2-(1)-イ	生涯学習活動相談事業	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	生涯学習活動の継続を支援する環境として、令和6年度中に新設校であるつくば市みどりの南小学校の特別教室(例:家庭科室)の一部を市民に対して開放する事業を開始させる。 また、1-(1)-ウ「生涯学習相談事業」、「情報収集・発信事業」と連動させた事業展開を行い、周知活動や市民が相談をしやすい環境を創出していくことに引き続き取り組む。	【生涯学習に関する相談】市内の研究所等から生涯学習活動の実施に関する相談を受け、実現に向けた手段や制度の紹介等を実施した。 【特別教室開放】令和6年(2024年)10月1日から、つくば市立みどりの南小学校の家庭科室・音楽室・多目的室の特別教室を市民に対して開放する事業をスタートした。令和6年度は62回で延べ1178人に利用された。 ○内訳 みどりの南小学校 38回 延べ732人 香取台小学校 19回 延べ344人 研究学園小学校 5回 延べ102人	0千円	0千円	2	a	A	・民間企業や研究機関等からの生涯学習に関する相談が入ってくるようになるため、ネットワークづくり・関係づくりを強化する必要がある。 ・特別教室開放については引き続き利用者数を増やしていく。	・生涯学習推進課で実施する事業に関する団体等に積極的な情報周知を行う。 ・特別教室開放については、地域住民の活動を支援できるよう広報活動等を展開する必要がある。	特になし
								相談数5回 特別教室学校開放数3校	相談数4回 特別教室学校開放数3校								
			23	2-(1)-イ	家庭教育学級支援事業	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級、家庭教育セミナーを継続して開催する。家庭教育学級の運営について、社会教育指導員が指導、助言を行い、講演会や講習会等を開催する。	家庭教育学級を対面方式で実施し、知識の習得のみならず、保護者同士のつながりづくりにも寄与した。また市内の企業に出向いて家庭教育学級を開催し、働く保護者に学習の機会を提供した。 家庭教育セミナーについては、学校に全ての保護者が集まる行事を利用して、家庭教育のヒントとなる話を社会教育指導員から伝える機会とした。	4,516千円	1,613千円	2	a	A	学校等における家庭教育学級において、役員のなり手不足、負担が大きい等の意見が寄せられており、時代に応じた実施方法の検討が必要である。	家庭教育学級役員の心に寄り添い、負担、不安感の軽減が図れるよう、サポート体制を強化し、保護者の学びの機会を確保する。	特になし
								家庭教育学級5,000名 家庭教育セミナー60回	家庭教育学級4,569名 家庭教育セミナー65回								
			24	2-(1)-イ	生涯学習指導者情報提供事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	生涯学習推進課	令和5年度に改修したホームページを活用し、積極的に情報発信を進めていく。引き続き指導者情報の検索性を上げ、指導者を探している方と指導者が直接やり取りができる環境を整備していく。	X(旧Twitter)、Facebook(つくばファンクラブ・市民活動のひろば)において指導者の新規登録を促す投稿を行った。つくばSDGsパートナーズのメールマガジンにも同様の投稿を依頼し、昨年度よりも積極的な周知を図った。 また、指導者として登録をする際の入力項目の整理・指導者情報を掲載する市ホームページのデザイン変更を実施し、検索性をさらに向上させた。	97千円	0千円	2	a	A	市ホームページの閲覧数は目標値を大きく上回ったが、新規登録者数の伸びは前年度とほぼ同様である。閲覧数と登録者数の伸び方に差が見られる。	より多くの方に新規登録をしてもらえるように案内を改善していく。 チラシ・ポスターを関係施設に配置依頼をするなど、前年度に引続き広報方法を増やしていく。	特になし
								ホームページ閲覧回数10,000回 登録講師増加数20人	ホームページ閲覧回数17,040回 登録講師増加数16名								
			25	2-(1)-イ	学校施設開放事業	学校施設開放(体育館・グラウンドなど)の推進	教育施設課	小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行う。 今年度より、香取台小学校、研究学園小学校、研究学園中学校を新たに開放する。 昨年度課題となった、①一部団体の他施設、同曜日、同時時間帯の希望による利用団体決定にむけた調整会議運営の難航、②利用決定に向けて、調整がつかない場合は抽選を行う方針をとったが、抽選ありきで調整を図る意思のない団体が多数発生してしまった点について、事前希望調査の実施や、調整に関するルールの周知徹底を行うこと等で改善し、事業を運営する。 また、例年調整会議にて利用が決定し、申請をしながらも、利用実態が見られないという団体について、他団体からの相談が多くあったため、利用実態調査を実施し、継続的な団体の利用を行うよう、働きかける。	小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行った。 新たに、小学校2校、中学校1校を開放した。 施設利用に関するルールの見直しを行い、事前に利用希望調査を実施することで、調整会議の円滑な運営ができた。 また、ランダムに学校を抽出し利用実態調査を実施した。この調査結果に基づき適正な体育施設利用を働きかける。	3,335千円	622千円	2	a	A	利用申請における希望調査及び本申請の手続きを電子で受付したが、一部市役所窓口及び各学校での手続きが必要であり、すべての手続きが電子上で完結できるよう改善が必要。 また、利用実態がない団体に対して適正な利用の働きかけが必要。	新たに学校体育施設開放管理システムを導入し、すべての手続きをシステム上で完結できるよう改善する。 システムに連携したスマートロック(キーボックス)を同時に導入することで、学校のセキュリティ面の向上及び利用者の鍵管理負担の軽減を図る。また、利用実態のない団体へ適切な利用を促す。	特になし
								小学校施設稼働率90% 中学校施設稼働率95% 義務教育学校施設稼働率95%	小学校施設稼働率90% 中学校施設稼働率95% 義務教育学校施設稼働率100%								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	26	2-(1)-イ	文化財サポーター事業	文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	・10～12月に全6回のボランティア養成講座を開講し、登録者を増やす。 ・また、現在のボランティア登録者の知見向上を目指すための臨時講座を開講し、講座修了者からボランティア登録者を募り、展示施設や文化財の解説のほか、意見交換、学校支援業務への協力、イベント時の補助、展示作成時の補助などを実施する。 ・小田城跡のボランティア団体である常陸小田城親衛隊の会についても、知見向上のための定期的に研修会を実施するほか、昨年度好評であった共催の解説イベントも、引き続き実施していく。	・「文化財ボランティア養成講座」を実施し、新規のボランティアを増やすことができた。 ・解説ボランティアによる学校授業や「つくばびっ子博士」などのイベントにおける展示施設の解説実施した。 ・ボランティア登録者を対象とした臨時講座を1回、意見交換会を1回開催した。 ・年間を通じて、民間のボランティア団体「常陸小田城親衛隊の会」と連携し、小田城跡での解説や会員への研修等を実施したほか、5・11・1月に「常陸小田城親衛隊の会」と共催した、解説イベントを実施した。 ・活動を通じて市の事業に市民が参加し、文化財への理解と愛着を深める機会とすることができた。	237千円	211千円	2	a	A	ボランティア登録者の活動の場が、イベントのある夏や、小学校の授業での見学が多い冬へと偏り、繁忙期以外で意欲が下がってしまうことが懸念される。	活動の少ない時期に、定例会や研修会、展示物作成補助などの機会を設ける。	特になし
			27	2-(1)-イ	つくば市OB人材活動支援事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	企画経営課	継続した周知活動を図るとともに、より効果的な事業となるよう検討を進める。	- 登録者の活動回数について、新型コロナウイルス感染症の影響等により全盛期の実績数には至っていないが、活動回数の回復を目指し、以下のとおり対応した。 ・周知活動の拡大:令和5年度と比べ、便覧の配布先数を約90団体増加させた。 ・過去の利用者への利用促進:過去に本事業を複数回利用した実績がある団体に周知を行ったとともに、利用実績をフォローアップした。 - 結果として、令和5年度の活動回数74回から112回へ増加したため、上記の対応により一定程度効果があつたと考える。 - 新規登録者数について、目標の達成には至らなかったものの、市広報誌での周知等により、定期的に新規登録者を獲得した。	29千円	27千円	2	c	C	活動回数について、全盛期の水準までには回復していない。また、登録者の中には体調の変化等により現在は活動が難しい方もおり、利用希望者から依頼があつた際にマッチングに繋がらないケースがある。	さらなる周知先拡大の検討も含め、継続して本事業の周知を図るとともに、登録者の現況や活動意向について確認・整理を行う。	特になし
			28	2-(1)-イ	市民活動団体支援事業	アイラブつくばまちづくり補助金事業等、市民活動団体の活動支援、市民センターでの活動相談	市民協働課、つくば市民センター	※令和6年2月に、吾妻交流センターと市民活動センターの機能を併せた施設として、「つくば市民センター」が新設された。令和6年度計画においては市民協働課及びつくば市民センターがそれぞれ目標値を設定する。 - 評価は関係部署が協議の上、統一した点検、評価を行う。	【市民協働課】 アイラブつくばまちづくり寄附基金を有効活用し、市民活動団体が自主的に企画し提案した公益的な事業に補助金を交付し、担当部署と協働で事業を実施することができた。 - 労働者協同組合の設立支援については、労働者協同組合運営費補助金を創設した。令和7年(2025年)1月、茨城県初となる労働者協同組合が設立し、補助金の申請を受け交付した。 【つくば市民センター】 市民協働課、社会福祉協議会と連携して市民活動団体支援のための様々な業務に取り組むことができた。	【市民協働課】 11,074千円 【つくば市民センター】 4,729千円	【市民協働課】 5,094千円 【つくば市民センター】 3,259千円	2	b	B	【市民協働課】 設立に至った労働者協同組合について、設立後の運営についても支援していく。 【つくば市民センター】 メンバーの拡充や助成金に関すること等、つくば市民センターで様々な相談ができることや、ポータルサイトの活用方法について、市HP等での広報をはじめ、市民団体取材時や交流事業の場で市民団体との積極的な関わりを持ちながら周知を行っていく。	【市民協働課】 定期的に労働者協同組合の運営状況を把握し、昨年度に続き今年度も労働者協同組合運営費補助金申請があつた場合は対応する。 【つくば市民センター】 メンバーの拡充や助成金に関すること等、つくば市民センターで様々な相談ができることや、ポータルサイトの活用方法について、市HP等での広報をはじめ、市民団体取材時や交流事業の場で市民団体との積極的な関わりを持ちながら周知を行っていく。	特になし
								文化財ボランティア登録人数35人 意見交換会開催回数2回 研修会開催回数2回	文化財ボランティア登録人数36人 意見交換会開催回数1回 研修会開催回数2回								
								登録者の活動回数300回 新規登録数10人	登録者の活動回数112回 新規登録数6人								
								※令和6年2月に、吾妻交流センターと市民活動センターの機能を併せた施設として、「つくば市民センター」が新設された。令和6年度計画においては市民協働課及びつくば市民センターがそれぞれ目標値を設定する。 評価は関係部署が協議の上、統一した点検、評価を行う。	【市民協働課】 アイラブつくばまちづくり寄附基金を有効活用し、市民活動団体が自主的に企画し提案した公益的な事業に補助金を交付し、担当部署と協働で事業を実施することができた。 労働者協同組合の設立支援については、労働者協同組合運営費補助金を創設した。令和7年(2025年)1月、茨城県初となる労働者協同組合が設立し、補助金の申請を受け交付した。 【つくば市民センター】 市民協働課、社会福祉協議会と連携して市民活動団体支援のための様々な業務に取り組むことができた。	【市民協働課】 11,074千円 【つくば市民センター】 4,729千円	【市民協働課】 5,094千円 【つくば市民センター】 3,259千円	2	b	B	【市民協働課】 設立に至った労働者協同組合について、設立後の運営についても支援していく。 【つくば市民センター】 つくば市民センターにおいて、市民活動に関する相談等ができるという認知度が低い。また、市HPに開設した市民活動ポータルサイトの情報量もまだ少ない。	【市民協働課】 定期的に労働者協同組合の運営状況を把握し、昨年度に続き今年度も労働者協同組合運営費補助金申請があつた場合は対応する。 【つくば市民センター】 メンバーの拡充や助成金に関すること等、つくば市民センターで様々な相談ができることや、ポータルサイトの活用方法について、市HP等での広報をはじめ、市民団体取材時や交流事業の場で市民団体との積極的な関わりを持ちながら周知を行っていく。	特になし
								文化財ボランティア登録人数35人 意見交換会開催回数2回 研修会開催回数2回	文化財ボランティア登録人数36人 意見交換会開催回数1回 研修会開催回数2回								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	29	2-(1)-イ	文化団体等 育成支援事業	文化協会の 支援	文化芸術課	市民の文化活動の活性化を目指し、つくば市文化協会に対する事業費補助として補助金を交付し、主体的な活動を促進するよう支援する。事業実施の際には、会計処理等について指導を行う。	市民ホールや地域交流センター、美術館などのつくば市内を拠点として、予定していた全ての事業を実施し、文化芸術活動を推進した。また、文化芸術に触れる機会を拡充するため、レクチャーコンサート(参加・体験型公演)を5回実施した。	1,200千円	1,200千円	2	a	A	なし	令和7年度は補助上限額を増額(120万円→150万円)し、既存事業の高度化や魅力の向上、広報手段の増強による会員数の増加を図る。	特になし
								主催事業の実施18事業	主催事業の実施18事業								
			30	2-(1)-イ	(公財)つくば文化振興財団支援事業	文化振興財団の支援	文化芸術課	公益財団法人つくば文化振興財団への指導・助言のほか、財政的支援として行政補完型運営補助金の交付を行う。 また、同財団と協定を締結し、共同主催により市内の文化施設等で音楽・演劇・芸能・美術等の幅広いジャンルの文化芸術振興事業を実施する。	ノバホールやカピオなどを会場として公演事業を実施したほか、美術館での展覧会、小中学生を対象としたアウトリーチ、文化芸術支援なども並行して展開し、計画された事業をすべて実施することができた。 文化芸術公演における入場率は、令和6年度は81%(令和5年度:67%)となった。	55,000千円	55,000千円	2	a	A	・ホール公演のみに依存しない企画内容の検討が必要になる。 ・限られた予算の中で、満足度の高い企画を提供していくために、企画の内容、実施方法を検討していく。	・実施する企画内容を精査し、収支バランスを考慮した事業内容について検討していく。 ・従来からの市民参加型事業をはじめ、幅広い世代を対象にバランスのとれた各種事業を展開していく。	特になし
								文化芸術公演事業入場率80%	文化芸術公演事業入場率81%								
			31	2-(1)-イ	高齢者生きがい活動支援事業	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	・シルバークラブ大会:役員功労者表彰、感謝状贈呈、講演会等を実施 ・シルバークラブ育成支援:年間を通じて、シルバークラブ連合会の支援を社会福祉協議会に委託し行う。 ・高齢者労働能力活用事業費補助事業:補助金を交付し、公益社団法人つくば市シルバー人材センターの円滑な運営を支援する。 ・ねんりんスポーツ大会:茨城県健康福祉祭いばらきねんりんスポーツ大会の予選会として市大会を開催する)種目:グラウンド・ゴルフ、ゲートボール、ペタンク、輪投げ)	各種イベントやシルバークラブ活動への支援 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、コロナ前の状況に戻つつある。交流会や社会奉仕活動を実施し、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。 また、123の単位シルバークラブを含むシルバークラブ連合会に補助金を交付することで、その活動を支援した。 いばらきねんりんスポーツ大会は、5月にグラウンドゴルフ予選会、6月につくば市大会(ゲートボール・ペタンク・輪投げ・グラウンドゴルフ)を開催した。予選会・市大会を合わせた参加者が前年度より3名増加した。 【シルバー人材センター】 新規入会者77名 退会者118名 前年度から41名減少した。 市からは、施設の受付／草刈り／清掃等を依頼している。 補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。	43,664千円	41,385千円	2	a	A	シルバークラブ会員数が減少傾向にある。	若手会員の加入促進や魅力ある活動メニューを広げる取組みに努めることで、シルバークラブ連合会全体の活性化を支援する。	特になし
								シルバークラブ会員数6,418人 単位シルバークラブ数135団体 契約件数3,300件 参加者数550人	シルバークラブ会員数5,607人 単位シルバークラブ数123団体 契約件数2,347件 参加者数511人								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	32	2-(2)	「社会力」人材育成事業	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	令和6年度は社会力講座【実践編】スキルアップ版として参加者が自身の活動や所属団体の魅力を発信できることを目指す。他の団体で学ぶことで参加者自身の活動を客観視し、今後の活動に活かすきっかけとする。	社会力に関する講座の実施4年度目として、引き続き社会力をいかして活躍するロールモデルとしての「社会力コーディネーター」の存在にスポットを当て、市内外における先進事例を実際に運営する人物(＝社会力コーディネーター)を講師として招き、「実践編」として参加者同士のワークショップや社会力をいかした団体での活動体験を実施した。また、令和5年度に実施したアンケートに基づき活動体験を除く4回全てを平日夜の開催とした。活動体験においては4団体の協力を得て参加者を受け入れ、他の団体から学ぶことで自分の活動を客観視し今後の活動にいかすことを目的として実施した。	649千円	649千円	2	b	B	活動体験やその後の発表に対してハードルが高いと感じる参加者が多数いたため、市民が求める形式の講座を実施していく必要がある。	令和7年度は全5回全て講義・ワークショップ形式にし、より多くの方に社会力を知ってもらうきっかけとしていく。	特になし
								体験自習参加者数15名 「社会力」を活かした今後の活動意向90%	体験自習参加者数6名 「社会力」を活かした今後の活動意向79%								
			33	2-(2)	地区リーダー勉強会事業	地区リーダー勉強会の開催	市民協働課	地域のリーダーである区長の担い手不足など、区会における近年の課題をテーマにした勉強会(講演会等)を開催して、その解決策を検討していく。8月又は9月に開催を計画している。	地区リーダー勉強会については、令和6年度の講演テーマを「防災は自助・互助・協働のまちづくり～人・地域・そして未来～」として、大規模災害に対して市民・地域と行政機関等が連携・協力して取り組む内容を市公式YouTubeチャンネルにて配信した。配信形式で実施したことにより、より多くの区長等に参加(視聴)していただくことができた。	666千円	462千円	2	c	C	各地区のコミュニティ活動をより活性化するため、地域社会のリーダーである区長へ向けた勉強会(講演会等)の内容を引き続き検討していく。	市区会連合会及び各地区区会連合会と連携して事業を進めていく。	令和6年度第1回つくば市生涯学習審議会で見解がありました地区リーダー勉強会の名称については、勉強会が区長・区会を対象としたもので、長年同名称で既に浸透していることから、名称の変更は行わないことにしました。
								人材づくりイベントの参加者数600視聴数	人材づくりイベントの参加者数390視聴数								
			34	2-(2)	地域まちづくり支援事業	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	【都市計画講座の実施】市民向けに、まちづくりへの関心と理解を深めることを目的として、都市計画の制度やつくば市の現状を紹介し、現地見学会を行う講座を開催する。 【まちづくり見学会の実施】地域まちづくりグループ及び推進団体を対象として、今後のまちづくりの参考となるよう先進地を訪問し、現地見学会を行う講座を開催する。 【専門家の派遣】地域住民などで構成される地域まちづくりグループや地域まちづくり推進団体等が活動を行う上で、組織の運営に関すること、まちの課題や将来像に関すること等について指導や助言等を求めてきた際に、地域まちづくり専門家の派遣を行う。	【まちづくりに関する見学会・講座の実施】地域主体のまちづくりを行うつくば市内の「小田地区」を対象とした見学会、つくば市のまちづくりについて学ぶ都市計画の講座を実施し、多くの方々に学びの機会を提供することができた。 【専門家の派遣】地域まちづくり推進団体からあった申請すべてに対し適切に専門家を派遣することができた。また、制度の周知のために、R6年9月号の広報つくばにて案内を掲載した。	380千円	187千円	2	a	A	専門家の派遣件数は昨年度に比べて増加しているが、派遣申請の目的が「まちづくりルール等の策定」から「ルール策定後の組織運営の見直し」に変わってきている傾向にある。支援制度の創設から時間が経過しているため、市民のニーズに答えられていない可能性がある。	支援制度について市民や専門家の意見を聞き、まちづくりの現状や求められていることを調査する。調査結果に応じて制度そのものや専門家の派遣方法の見直しを検討する。	特になし
								都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣8回	都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣5回								

令和7年度（2025年度）第3次生涯学習推進基本計画事務事業事業計画一覧表														資料3		
基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開（個別事業内容）				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	（参考）令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 （単位：千円）	令和7年度予算 （単位：千円）	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	施設の利便性の向上	1	1-(1)-ア	図書館利便性向上事業	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	図書館条例施行規則を改正し、土日の開館時間を19時までとするとともに、祝日の特別開館を実施し、利用者の利便性向上に寄与した。研究学園小学校における図書館サービスに加え、みどりの南小学校における図書館サービスを開始した。 火曜日から土曜日に自動車図書館車3台を使って市内を計画的に巡回し、貸出及び返却等のサービスを行った。新規ステーションや滞在時間の検討を行い、ステーションを58か所から63か所に増やしサービスの拡充を図った。 並木・広岡・大穂・豊里・島名の各交流センター、市役所コミュニティ棟、及びかとりだい交流館のブックポストでの図書返却事業と分室（谷田部・筑波・小野川・荃崎交流センター図書室）での図書館サービスを継続し、利用者の利便性向上に寄与した。また、みどりのプールに新たにブックポストを設置した。	祝日の特別開館及び市庁舎コミュニティ棟、かとりだい交流館における予約本の貸出しを継続し、利用者の利便性向上を図る。また、研究学園小学校図書室、みどりの南小学校図書室において図書館サービスを提供する。 電子図書館サービスの充実をはかる。 火曜日から土曜日に自動車図書館車3台を使って、各ステーションを2週間に1回の頻度で巡回し、市内60か所のステーションで貸出及び返却等のサービスを行う。自動車図書館車1台の更新を検討する。 並木・広岡・大穂・豊里・島名の各交流センター、市役所コミュニティ棟、かとりだい交流館、みどりのプールのブックポストでの図書返却事業及び分室（谷田部・筑波・小野川・荃崎）での図書館サービスを継続するとともに、更なる利便性向上のためにブックポストの増設を検討する。	29,154千円	32,643千円					
			2	1-(1)-ア	市民交流施設利便性向上事業	誰でも気軽に利用できるような施設づくり	地域支援課、つくば市民センター	【地域支援課】 ・地域交流センターの利用者数は、前年度実績の376,522人から417,191人に増加し、増加率は約10.8%であった。 ・地域交流センター登録団体数は、前年度実績の698団体から759団体に増加し、増加率は約8.7%であった。 利用者数の増加に繋がった要因としては、登録団体（サークル）の増加や、交流センター講座への参加等、市民の自主的な活動が増えたこと等が考えられる。 【つくば市民センター】 利用者数及び登録団体について、目標値を上回ることができた。主な要因としては、市広報紙やホームページでの積極的な施設情報や講座・イベント情報の発信に注力し、認知度向上を図ったこと等が考えられる。	【地域支援課】 市民の自主的な活動や交流の場として、様々な団体（サークル）が快適に利用できるよう、地域交流センターの維持管理を行う。 また、茶道、華道、囲碁、料理、語学、ボランティア、短歌、音楽、手芸、絵画、書道、パレエ、ダンス、スポーツ、工芸等多種多様な団体（サークル）の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。 【つくば市民センター】 従来の市民サークルだけでなく、社会貢献活動団体、市外団体、営利目的団体、少人数団体の利用も認め、広く市民の活動や交流な場所を提供するために、施設の維持管理を行う。 また上記団体の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。	【地域支援課】 540,701千円 【つくば市民センター】 65,236千円	【地域支援課】 638,328千円 【つくば市民センター】 269,785千円					
								年間開館日数291日 年間開館時間2,740時間 自動車図書館利用人数11,287人 自動車図書館貸出冊数38,457冊 返却窓口への返却冊数216,093冊	電子図書館所蔵点数5,000点 電子図書館貸出点数60,000点 自動車図書館利用人数14,000人 自動車図書館貸出冊数53,000冊 返却窓口への返却冊数250,000冊 予約配送冊数120,000冊							
								地域交流センター利用者数417,191人 地域交流センター登録団体759団体 つくば市民センター利用者数32,317人 つくば市民センター登録団体293団体	【地域支援課】 地域交流センター利用者数470,000人 地域交流センター登録団体800団体 【つくば市民センター】 つくば市民センター利用者数20,000人 つくば市民センター利用件数3,000件							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 (単位:千円)	令和7年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	参加機会の拡充	3	1-(1)-イ	民間企業での生涯学習事業	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	つくば市出前講座について、民間企業、研究機関等において22回実施することができた。 また、同事業において講座実施前の調整を円滑に進めるため事務手順の改訂を行った。前年度に引き続き新規講座の募集も行い、1講座の新規登録があった。	民間企業等の意見を反映しながら、研究機関、民間企業等での講座実施や新規講座の拡充を図っていく。	0千円	0千円					
								民間企業等での講座開催数22回	民間企業での講座開催数5回							
			4	1-(1)-イ	オンラインによる生涯学習講座事業	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	つくばちびっ子博士では、13本の動画を制作しそのうち10本を受託業者が制作した(3本は参加機関からの提供)。 令和6年度はさらに13本の過去動画のアーカイブも公開した。 動画の満足度については、アンケートにおいて動画を視聴した児童の内「もっと調べたい」、「つくってみたい」等の感想を持ったと回答した率を記入している。	生涯学習推進に関する講座等の動画本数は充実してきているため、各動画のさらなる内容の充実や満足度の向上を図っていく。	235千円	294千円					
								視聴動画の満足度86%	視聴動画の満足度80%							
			5	1-(1)-イ	地域交流センター活用事業	夜間・休日における学習機会の提供	地域支援課、つくば市民センター	【地域支援課】 地域交流センター講座において、夜間(17:30～20:00)講座のほか、土日開催の講座など、幅広い世代の方々が受講できるよう企画・実施した。 講座数：3講座(計9回) 講座内容：和紙で折る正月飾り(吉沼) チャイニーズエクササイズで健康作り(春日) 冬の親子天体観測(島名) 【つくば市民センター】 つくば市民センター講座において、夜間(18:30～20:00)講座のほか、土日開催など各講座のターゲット層が受講できる講座を企画・実施した。 講座数：6講座 講座内容：生花、工作、音楽、法務講座、NPO設立等	【地域支援課・つくば市民センター】 平日昼間に就労している社会人や子育て中の方等も含め、より多くの方が参加しやすいよう、夜間や休日に実施する講座を設定することで、夜間・休日における学習機会を提供する。	【地域支援課】 3,851千円 【つくば市民センター】 3,259千円	【地域支援課】 5,726千円 【つくば市民センター】 3,748千円					
								【地域支援課】夜間の休日講座数3講座 【つくば市民センター】夜間の休日講座数6講座	【地域支援課】 夜間休日の講座数15講座 【つくば市民センター】 夜間休日の講座数5講座							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 (単位:千円)	令和7年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	生涯学習の相談・情報の提供	6	1-(1)-ウ	生涯学習相談事業	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	【生涯学習に関する相談】市内の教育機関、市内研究所、民間子育て関係団体から生涯学習活動に実施に関する手法の相談を受け、実現に向けた手段や制度の紹介等を実施した。 【生涯学習オンライン相談に関する調査】自治体による生涯学習に関するオンライン相談についてリサーチを実施した。行政相談そのものをオンライン化するケース等について知見を得た。	つくば市ホームページにおける生涯学習情報発信の工夫や、つくば市の広報誌等を活用した生涯学習相談の周知を実施し、相談につなげる。 近年は市内の企業や研究機関等から地域貢献の観点で相談があることも多いため、積極的な情報や意見の交換に努める。相談にあたってはオンラインでの対応も実施する。	0千円	0千円					
								相談数5回	相談数5回							
			7	1-(1)-ウ	情報収集・発信事業	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	広報つくば令和7年5月号において、つくば未来塾・家庭教育学級・つくば市出前講座・社会力コーディネーター養成講座・中高生わくわく企画・生涯学習指導者情報提供事業をまとめた特集記事を掲載した。また、課内の事業周知において、つくスマ・Facebook・X(旧Twitter)・Instagramによる幅広い周知を行った。	つくば市報、ホームページ等でそれぞれの生涯学習情報の関連性を強めて情報発信を図っていく。アプリケーション、SNS等も積極的に活用していく。	0千円	0千円					
								広報紙を活用した新規情報発信1回 ホームページ改修回数1回 アプリケーション・SNSを活用した発信回数46回	広報誌を活用した新規情報発信1回 ホームページ改修回数1回 アプリケーション・SNSを活用した発信回数15回							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 (単位:千円)	令和7年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	8	1-(2)- ア	生涯学習フ ンストップ 対応事業	生涯学習講座における 配慮事項を示した指針 の作成 生涯学習情報のフン ストップ提供	生涯学習推 進課	つくば市生涯学習指導者登録制度についてホーム ページの再改修を行い、教えたい人と教わりたい人向 けの情報を同じページで発信すること等わかりやす いホームページ作りに取り組んだ。 障害者の生涯学習については、11月に実施した事 業終了後、アンケート及び記録を作成した。今後の障 害者の生涯学習活動を考える上での参考とする。	「情報収集・発信時用」及び「障害者の生涯学習関 連事業」と連動して、生涯学習に関する情報発信 についてフンストップ化に引き続き努め、また、生 涯学習講座における配慮事項の指針のあり方を 考える。	0千円	0千円					
								分野横断的な情報発信2回 ホームページの改修1回 障害者の生涯学習の取組に際した意見交換1回	分野横断的な情報発信2回 ホームページの改修1回 障害者の生涯学習の取組に際した意見交換1回							
			9	1-(2)- ア	広報力向上 事業	職員向け広 報セミナー の実施 広報事業へ のアドバイ スの実施	広報戦略課	【職員向け広報セミナー実施】 職員を対象にセミナーを3回実施した。 ・1回目:10月スマホで簡単! 動画制作講座(119 人) ・2回目:チラシ作成実践講座(25名) ・3回目:「つくば市公式SNSの活用講座」(15名) 【広報事業へのアドバイスの実施】 チラシやポスター等のデザインチェックを446件、デ ザインの好事例集の紹介を5回行った。また、動画配 信に係る撮影やその支援を随時行った。	【職員向け広報セミナーの実施】 市が行う各事業に関する情報が市民にしっかり伝 わるよう、職員一人一人の広報力向上を目的とし て、引き続き職員向け広報力向上セミナーを年2 回以上実施する。開催方法については、対面型と 動画配信型を併用する。また、今年度は、アンケ ート等での効果測定を行い、次年度以降の効果的な セミナーの開催や内容改善に繋げる。 【広報事業へのアドバイスの実施】 年間を通じて各課が作成するチラシやポスター等 の広報物のデザインチェックや、動画配信に係る 撮影やその支援を随時行う。	0千円	33千円					
								セミナー参加者159人	セミナー参加者150人							
			10	1-(2)- ア	外国人市民 向け情報発 信・講座事 業	外国語広報 紙等の外国 人市民向け 広報の拡充 外国人市民 向け講座 (日本語講 座)の実施	国際都市推 進課	令和6年度は多言語での情報発信を全体的に見直し、 外国語広報紙は季刊紙としての広報紙ではなく、長期 的に利用できる「外国語生活ガイド」として各号テーマ を設定して発行したほか、Xによる情報発信を再開 し、タイムリーなイベント情報やお知らせの周知を図っ た。また、こども日本語勉強会については、ニーズを 踏まえて新たに15-18歳を対象としたクラスを開設 した。	市が発行する文書や冊子等の翻訳 8言語で外国語生活ガイドを発行 市ホームページにおける4言語での情報発信 外国人市民に向けた日本語学習支援	4,481千円	7,133千円					
								外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数193回 大人向け日本語講座の受講者数203人 こども日本語勉強会の登録者数52人	外国語生活ガイド発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数156回 大人向け日本語講座の受講者数300人 こども日本語勉強会の登録者数50人							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 (単位:千円)	令和7年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	主体的に活動に参加できる取組	11	1-(2)-イ	障害者の生涯学習関連事業	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	「卓球/バレー体験講座」を開催した。4団体32名が参加し、障害の有無、程度、年齢に関わらずプレーできる卓球バレーを楽しんだ。 アンケートでは、「楽しかった」、「まあまあ楽しかった」の回答の合計が94%となり、障害者にもスポーツの楽しさを感じてもらうことができた。 参加者数の内訳:参加者32名、サポート9名 合計41名	「障害者の自発性を取り入れる」という観点を持ち、市内の障害者教育機関と協働した障害者のための生涯学習講座を開催する。	31千円	86千円					
			12	1-(2)-イ	男女共同参画啓発事業	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	ダイバーシティ推進室	【男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナーの実施】 社会保障制度や社会保険の仕組み、自分探し、家事シェア、防災力アップ、性の多様性等、幅広いテーマを取り上げ、参加者に深い理解と行動変容の促進ができた。セミナー企画は8回、参加者数は167人。	【男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナーの開催】 男女共同参画・ダイバーシティ推進の視点から、特に、以下目的に応じて特定のテーマに焦点を当てたセミナーを実施する。参加者がより満足度の高い体験を得ることができたかを確認するため、アンケートを実施し、参加者の満足度を測定する。 ①経済的安定による幸福(well-being)の増進を図るため、家計管理や生活設計などお金に関する知識や判断力を身に付ける。 ②これまでの自身の経験を振り返り、特徴や強みを理解することに加え、自身の生き方・働き方や自身の幸福(well-being)について考え、主体的に選択しながら生きるための第一歩を踏み出せるような啓発を行う。	7,226千円	5,826千円					
			13	1-(2)-イ	障害者スポーツ推進事業	障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	参加者の運動習慣化を促進するため、体験講座後に各2回のフォローアップを追加実施したことで、評価指標の実績値は目標値を大きく上回った。	障害者スポーツが身近となる環境づくりを推進するため、障害者を対象としたスポーツ施設の体験講座を実施し、地域のスポーツ施設を利用するきっかけを創出するとともに、スポーツ推進委員が本講座における補助者となることで、障害者スポーツに係る知見の獲得につなげる。 また、各関係団体と連携しながら機運醸成を図っていく中で、今年度は(一社)シッティングスポーツ協会の協力を得て「障害者スポーツ体験出前教室」を新たに開始し、児童・生徒における障害者スポーツへの理解が深まるよう取り組んでいく。	755千円	1,509千円					
			14	1-(2)-イ	生涯学習関連事業(障害のある人や支援者対象)	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	チャレンジアートフェスティバルは、舞台発表、作品展示とともに実施できた。舞台発表においては前年度より来場者数が増加したこと、また、特別企画として福岡県で実施されたPEOPLE ART PERFORMANCEのイベントとオンラインでつなぎ、舞台発表に出演したダンサー(ALSり患)と合同でダンスを行う外部団体と連携したプログラムを実施した。また、県庁と市役所等で作品展示の巡回展を開催し、一般市民に対する事業活動を行った。 おひさまサンサン生き生きまつりは、開催日当日は天候不良であったが、天候状況に合わせた柔軟な運営により、可能な限りプログラムを実施することができた。 奉仕員養成講座は、各講座の受講人数にばらつきがあるが、受講回数を通してほとんどの受講生が修了することができた。	チャレンジアートフェスティバルは、作品展及び舞台発表を実施する。加えて茨城県庁と市庁舎内で作品の巡回展示を行い、一般市民への後方に取り組む。 おひさまサンサン生き生きまつりは、障害者と高齢者交流による社会参加を目的として開催予定としている。 奉仕員養成講座は、年間に手話奉仕員養成講座入門コースと基礎コースとも各30回、音訳・点訳・要約筆記奉仕員講座各10回実施する。奉仕員を養成することにより聴覚障害者等に対する日常生活の支援を図り、社会参加に寄与する。	11,094千円	11,108千円					
								チャレンジアートフェスティバル1,995人 おひさまサンサン生き生きまつり228人(障害者のみ) 奉仕員養成講座42人	チャレンジアートフェスティバル2,200人 おひさまサンサン生き生きまつり700人 奉仕員養成講座75人							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 (単位:千円)	令和7年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をい かすことができ る生涯学習の推 進	地域で学 び合う生涯学習	地域で学 ぶきっかけ作 り	15	2-(1)- ア	つくば人間 学講座	市民との協 働講座 (人間学講 座)の実施	生涯学習推 進課	市民と協働して組織する、つくば人間学講座実行委員 会にて講座内容を決定し、3講座を開催した。 ・小児神経専門医が語る『「ゆくり」って知っています か?』(2024/9/14参加者31名) ・「森へ行こう!」森林浴で健康になる (2024/11/16参加者31名) ・「いすに座ったまま、簡単ヨガ」(2025/1/25参加 者33名)	市民との協働で組織する実行委員会をとおして、 市民に多面的な学びの場を提供する。	212千円	142千円					
							参加者数95人 満足度87%	参加者数330人 満足度80%								
			16	2-(1)- ア	文化財展示 講座事業	文化財展示 施設等での 展示、各種 文化財・郷 土史に関す る講座の開 設	文化財課	・巡回企画展「中根・金田台地区の遺跡」を10月～2月で開 催し、企画展986人、講演会91人、体験講座32人(市内在 住・在学・在勤者)の来場者・参加者を得た。 ・古文書講座を初級講座(8～9月)・中級講座(1～2月)で 実施し、初級講座28人・中級講座28人の参加者があり、市 民が古文書や地域の歴史に親しむ機会を提供することが できた。 ・「つくばちびっ子博士」の開催に合わせて、夏休みに市内 小中学生を対象として発掘調査整理体験を行う「考古学体 験教室」を実施し、市内在住・在学の小中学生(保護者含む) 43人の参加者を得た。 ・その他にも史跡・文化財を知るイベントを実施し、いずれ もアンケートの満足度等も高く、実施によって歴史や文化 財に対する市民の関心や郷土愛を育成することができた。	・10月～2月にかけて巡回企画展を、関連事業と して11月に体験講座・講演会を実施する。 ・市域に伝わる江戸時代の古文書を題材にした古 文書講座を実施する。難易度を2つに分け、8～9 月に全4回・11～12月に全4回の、合計8回行う。 ・「ちびっ子博士」のイベント開催時期に合わせて、 夏休みに市内小中学生を対象とした出土品等の 整理調査体験教室を実施するなど、市民が市内の 文化財や史跡に親しめる機会を引き続き提供す る。	5,809千円	6,325千円					
			17	2-(1)- ア	調査・研究 支援事業	筑波大学を 始めとする つくば市域 における図 書館との連 携、小・中・ 義務教育学 校で実施す るブック トーク等に よる読書促 進	中央図書館	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情 報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携 してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議 会において協議を行った。 学校訪問ブックトーク、団体貸出し、社会科見学、職 場体験学習受入れ、学校司書等の研修、レファレンス については、目標の達成に至らなかった。 小中学生の読書推進を目的とし、GIGA端末を活 用して電子図書館サービスを利用できるよう、IDと パスワードの配布を行った。	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの 情報、資源および活動成果等の交流を促進し、 かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域 図書館連携協議会において協議を行う。 学校図書館ブックトーク、団体貸出し(調べ学習 の支援・学級文庫支援)、社会科見学・職場体験学 習受け入れ、学校司書等への研修実施といった学 校図書館支援や、ファーストブック講座などのイ ベントを実施する。 参考資料を充実させるとともに、電話やメール 等による調査・研究の質問を受け付け、専門職員 が資料情報を提供する。 小中学生の読書推進を目的とし、GIGA端末を 活用して電子図書館サービスを利用できるよう、 IDとパスワードの配布を行う。	963千円	1,003千円					
								つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク38校 団体貸出冊数8,376冊 社会科見学等の図書館見学受入回数6回 職場体験学習受入人数37人 学校司書等の研修参加人数50人 ファーストブック講座参加人数68人 レファレンス受付件数1,474件	つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク40校 団体貸出冊数10,000冊 社会科見学等の図書館見学受入回数10回 職場体験学習受入人数40人 学校司書等研修50人 ファーストブック講座参加人数60人 レファレンス受付件数1,500件							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価					
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 (単位:千円)	令和7年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかに かすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学び つかけ作り	18	2-(1)- ア	多文化共生 推進事業	外国人市民 との交流事 業の開催及 び民間団体 実施事業の 周知協力	国際都市推 進課	令和6年度は国際理解講座の拡充に力を注ぎ、これまで市内の小中学校を対象に実施していたものを新たに保育所やアフタースクール、親子向けイベントの場でも実施し、幅広い世代に向けて国際理解の啓発に取り組んだ。また、新たに「国際理解講座講師」として講師を担える留学生を募り、より多様な国・地域の紹介ができるよう体制を強化した。	国際理解・異文化理解促進を図る国際理解講座等の開催 国籍を超えた市民交流を推進するためのイベント等の開催	655千円	999千円						
								国際理解講座開催数53講座 世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等との連携事業数1事業	国際理解講座開催数40講座 世界お茶のみ話開催数12回								
			19	2-(1)- ア	スポーツ教室事業	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	参加者が集まらずに中止となった教室(障害者スポーツ体験教室)があった一方で、スポーツ振興の観点で新たに開催した教室(スケートボード教室)があったため、開催数は6回で目標値を達成した。 しかしながら、中止となった教室のほか、定員を下回った教室があったことで、全体としての参加者は目標値の半数程度に止まった。	各種スポーツ教室を開催することで、スポーツ実施率の向上はもとより参加者同士の交流機会を創出し、市民の心身両面における健康づくりを促進する。 本年度は、より多くの子どもたちが様々なスポーツに触れることができるよう、これまでの「子どものスポーツ体験教室」を拡充し、スポーツ協会とも密に連携しながらスポーツ少年団への入団のきっかけとなるよう取り組んでいく。	708千円	642千円						
								教室の開催数6回 教室の参加延べ人数328人	開催日数16日 参加人数(延べ)500人								
			20	2-(1)- ア	地域交流センター講座等事業	地域交流センターでの学級・講座の充実	地域支援課、つくば市民センター	【地域支援課】 ・年間の講座開講数について、目標値を上回る講座を実施することができた。 ・地域交流センターを利用している個人や団体等に対し、今後のサービス提供の参考とするためのアンケートを実施した。 実施期間：令和6年11月29日～令和7年1月8日 回答状況：アンケート用紙配布数:991枚 回答数:597枚(うち、紙媒体595枚、電子申請2枚) 回答率:60% 【つくば市民センター】 年間講座数について、目標値を達成することができた。 施設使用者からの聞き取りやアンケート調査により、ニーズを把握しながら、新規の講座を企画した。	【地域支援課・つくば市民センター】 利用者アンケートや講座受講者に対するアンケート結果を踏まえ、市民ニーズに対応した講座を実施する。	【地域支援課】 3,851千円 【つくば市民センター】 3,259千円	【地域支援課】 5,726千円 【つくば市民センター】 3,748千円						
								【地域支援課】年間講座数107講座 【つくば市民センター】年間講座数24講座	【地域支援課】 年間講座数106講座 【つくば市民センター】 年間講座数20講座								
21	2-(1)- ア	筑波山地域ジオパーク推進事業	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	令和6年度は、筑波山地域ジオパーク(構成各市及び協議会)として、生涯学習を目的とした講座等の企画(77回)、部会、ジオガイドのスキルアップを目的とした講座、シンポジウムを実施し、筑波山地域の魅力等を学びきっかけとなる機会を幅広く創出することができた。 また、筑波山地域ジオパーク推進協議会教育・学術部会部会員が講師となって実施する生涯学習講座(出前講座)をつくり、案内及び講座一覧を筑波山地域ジオパーク公式HPで公開した。令和6年度は1件の申し込みがあった。	令和7年度も引き続き、ジオパークを活用した生涯学習講座を実施する。 また、筑波山地域ジオパーク推進協議会教育・学術部会部会員による生涯学習講座(出前講座)について引き続き周知し、講座を開催する。	12,612千円	9,190千円									
					市民向け講座等開催数4回 部会開催数11回 ジオガイド向け講座等開催数8回 学術シンポジウム開催数1回	市民向け講座等開催数5回 部会開催数9回 ジオガイド向け講座等開催数5回 学術シンポジウム開催数1回											

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 (単位:千円)	令和7年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	22	2-(1)-イ	生涯学習活動相談事業	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	【生涯学習に関する相談】市内の研究所等から生涯学習活動の実施に関する相談を受け、実現に向けた手段や制度の紹介等を実施した。 【特別教室開放】令和6年(2024年)10月1日から、つくば市立みどりの南小学校の家庭科室・音楽室・多目的室の特別教室を市民に対して開放をスタートした。令和6年度は62回で延べ1178人に利用された。 ○内訳 みどりの南小学校 38回 延べ732人 香取台小学校 19回 延べ344人 研究学園小学校 5回 延べ102人	「生涯学習相談事業」、「情報収集・発信事業」と連動させた事業展開を行い、周知活動や市民が相談をしやすい環境を創出していくことに引き続き取り組む。	0千円	0千円					
								相談数4回 特別教室学校開放数3校	相談数5回							
			23	2-(1)-イ	家庭教育学級支援事業	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級を対面方式で実施し、知識の習得のみならず、保護者同士のつながりづくりにも寄与した。また市内の企業に出向いて家庭教育学級を開催し、働く保護者に学習の機会を提供した。 家庭教育セミナーについては、学校に全ての保護者が集まる行事を利用して、家庭教育のヒントとなる話を社会教育指導員より伝える機会とした。	家庭教育学級を継続して開催する。家庭教育学級の運営について、社会教育指導員が全面的にサポートを行い、講演会や保護者同士の意見交換会等を開催する。	4,516千円	5,256千円					
								家庭教育学級4,569名 家庭教育セミナー65回	家庭教育学級4,500名							
			24	2-(1)-イ	生涯学習指導者情報提供事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	生涯学習推進課	X(旧Twitter)、Facebook(つくばファンクラブ・市民活動のひろば)において指導者の新規登録を促す投稿を行った。つくばSDGsパートナーズのメールマガジンにも同様の投稿を依頼し、昨年度よりも積極的な周知を図った。 また、指導者として登録をする際の入力項目の整理・指導者情報を掲載する市ホームページのデザイン変更を実施し、検索性をさらに向上させた。	ホームページを活用し、積極的に情報発信を進めていく。指導者情報の検索性を上げ、指導者を探している方と指導者が直接やり取りができる環境を整備していく。	0千円	83千円					
								ホームページ閲覧回数17,040回 登録講師増加数16名	ホームページ閲覧回数10,000回 登録講師増加数15名							
			25	2-(1)-イ	学校施設開放事業	学校施設開放(体育館・グラウンドなど)の推進	教育施設課	小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行った。 新たに、小学校2校、中学校1校を開放した。 施設利用に関するルールの見直しを行い、事前に利用希望調査を実施することで、調整会議の円滑な運営ができた。 また、ランダムに学校を抽出し利用実態調査を実施した。この調査結果に基づき適正な体育施設利用を働きかける。	小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行う。 新たに学校体育施設開放管理システムを導入し、すべての手続きをシステム上で完結できるよう改善する。システムに連携したスマートロック(キーボックス)を同時に導入することで、学校のセキュリティ面の向上及び利用者の鍵管理負担の軽減を図る。また、利用実態のない団体へ適切な利用を促す。	622千円	15,420千円					
								小学校施設稼働率90% 中学校施設稼働率95% 義務教育学校施設稼働率100%	小学校施設稼働率90% 中学校施設稼働率95% 義務教育学校施設稼働率100%							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 (単位:千円)	令和7年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	26	2-(1)-イ	文化財サ ポーター事 業	文化財の解 説ボラン ティアの育 成	文化財課	・「文化財ボランティア養成講座」を実施し、新規のボ ランティアを増やすことができた。 ・解説ボランティアによる学校授業や「つくばちびっ子 博士」などのイベントにおける展示施設の解説実施し た。 ・ボランティア登録者を対象とした臨時講座を1回、意 見交換会を1回開催した。 ・年間を通じて、民間のボランティア団体「常陸小田城 親衛隊の会」と連携し、小田城跡での解説や会員への 研修等を実施したほか、5・11・1月に「常陸小田城親 衛隊の会」と共催した、解説イベントを実施した。 ・活動を通じて市の事業に市民が参加し、文化財への 理解と愛着を深める機会とすることができた。	・各施設において、市民ボランティアが文化財課職 員とともに、展示施設及び文化財の解説をする。 ・解説ボランティアが知見を向上し、文化財への理 解を深めていくため、定例会や研修会、展示物作 成補助などの機会を設ける。 ・小田城跡のボランティア団体である常陸小田城 親衛隊の会についても、知見向上のための定期的 に研修会を実施するほか、昨年度好評であった市 と共催の解説イベントも、引き続き実施していく。	211千円	237千円					
			27	2-(1)-イ	つくば市 OB人材活 動支援事業	生涯学習情 報(OB人 材、指 導者情 報)の整備・ 活用	企画経営課	登録者の活動回数について、新型コロナウイルス感 染症の影響等により全盛期の実績数には至っていな いが、活動回数の回復を目指し、以下のとおり対応し た。 ・周知活動の拡大:令和5年度と比べ、便覧の配布先 数を約90団体増加させた。 ・過去の利用者への利用促進:過去に本事業を複数回 利用した実績がある団体に周知を行ったとともに、利 用実績をフォローアップした。 結果として、令和5年度の活動回数74回から112回 へ増加したため、上記の対応により一定程度効果が あったと考える。 新規登録者数について、目標の達成には至らなかつ たものの、市広報誌での周知等により、定期的に新規 登録者を獲得した。	活動回数の増加を目指し、これまでの周知先や過 去の利用者への周知を継続して実施するとともに 周知先の拡大を検討する。また、利用希望者に対 し適切なマッチングにつながるよう、登録者の現 況や活動意向について確認・整理を行う。	27千円	29千円					
			28	2-(1)-イ	市民活動団 体支援事業	市民活動セ ンターでの 活動相談、 アイラブつ くばまちづ くり補助金 事業等市民 活動団体の 活動支援	市民協働課、 つくば市民 センター	【市民協働課】 アイラブつくばまちづくり寄附基金を有効活用し、 市民活動団体が自主的に企画し提案した公益的な事 業に補助金を交付し、担当部署と協働で事業を実施 することができた。 労働者協同組合の設立支援については、労働者協同 組合運営費補助金を創設した。令和7年(2025年)1 月、茨城県初となる労働者協同組合が設立し、補助金 の申請を受け交付した。 【つくば市民センター】 市民協働課、社会福祉協議会と連携して市民活動団 体支援のための様々な業務に取り組むことができ た。	【市民協働課】 アイラブつくばまちづくり寄附基金を活用し、個 性豊かで活力あるまちづくりの実現を目指すた め、市民全体の公益的な活動を支援する。 労働者協同組合の設立を支援する。 【つくば市民センター】 市民活動団体等の取組を応援し、相談を受ける とともに、市民団体の新たな活動を支援する。	【市民協働課】 5,094千円 【つくば市民セン ター】 3,259千円	【市民協働課】 9,575千円 【つくば市民セン ター】 3,748千円					
								アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数29件 市民センター相談件数69件	【市民協働課】 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数35 件 【つくば市民センター】 市民センター相談件数80件 取材団体件数35件 交流事業の実施回数2回							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 (単位:千円)	令和7年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつつける仕組みづくり	29	2-(1)-イ	文化団体等 育成支援事業	文化協会の 支援	芸術文化推 進課	市民ホールや地域交流センター、美術館などのつくば市内を拠点として、予定していた全ての事業を実施し、文化芸術活動を推進した。また、文化芸術に触れる機会を拡充するため、レクチャーコンサート(参加・体験型公演)を5回実施した。	市民の文化活動の活性化を目指し、つくば市文化協会に対する事業費補助として補助金を交付し、主体的な活動を促進するよう支援する。事業実施の際には、会計処理について指導を行う。	1,200千円	1,500千円					
								主催事業の実施18事業	主催事業の実施18事業							
			30	2-(1)-イ	(公財)つくば文化振興財団支援事業	文化振興財団の支援	芸術文化推 進課	ノバホールやカピオなどを会場として公演事業を実施したほか、美術館での展覧会、小中学生を対象としたアウトリーチ、文化芸術支援なども並行して展開し、計画された事業をすべて実施することができた。文化芸術公演における入場率は、令和6年度は81%(令和5年度:67%)となった。	公益財団法人つくば文化振興財団への指導・助言のほか、財政的支援として行政補完型運営補助金の交付を行う。また、同財団と協定を締結し、共同主催により市内の文化施設等で音楽・演劇・芸能・美術等の幅広いジャンルの文化芸術振興事業を実施する。	55,000千円	55,000千円					
								文化芸術公演事業入場率81%	文化芸術公園事業入場率80%							
			31	2-(1)-イ	高齢者生きがい活動支援事業	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	各種イベントやシルバークラブ活動への支援 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、コロナ前の状況に戻りつつある。交流会や社会奉仕活動を実施し、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。 また、123の単位シルバークラブを含むシルバークラブ連合会に補助金を交付することで、その活動を支援した。 いばらきねりんスポーツ大会は、5月にグラウンドゴルフ予選会、6月につくば市大会(ゲートボール・ペタンク・輪投げ・グラウンドゴルフ)を開催した。予選会・市大会を合わせた参加者が前年度より3名増加した。 【シルバー人材センター】 新規入会者77名 退会者118名 前年度から41名減少した。 市からは、施設の受付／草刈り／清掃等を依頼している。 補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。	・シルバークラブ大会:役員功労者表彰、感謝状贈呈、講演会等を実施 ・シルバークラブ育成支援:年間を通じて、シルバークラブ連合会の支援を社会福祉協議会に委託し行う。 ・高齢者労働能力活用事業費補助事業:補助金を交付し、公益社団法人つくば市シルバー人材センターの円滑な運営を支援する。 ・ねりんスポーツ大会:茨城県健康福祉祭いばらきねりんスポーツ大会の予選会として市大会を開催する)種目:グラウンド・ゴルフ、ゲートボール、ペタンク、輪投げ)	41,385千円	43,949千円					
								シルバークラブ会員数5,607人 単位シルバークラブ数123団体 契約件数2,347件 参加者数511人	シルバークラブ会員数5,700人 単位シルバークラブ数125団体 契約件数3,400件 参加者数550人							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 (単位:千円)	令和7年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	32	2-(2)	「社会力」人材育成事業	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	社会力に関する講座の実施4年度目として、引き続き社会力をいかして活躍するロールモデルとしての「社会力コーディネーター」の存在にスポットを当て、市内外における先進事例を実際に運営する人物(=社会力コーディネーター)を講師として招き、「実践編」として参加者同士のワークショップや社会力をいかした団体での活動体験を実施した。また、令和5年度に実施したアンケートに基づき活動体験を除く4回すべてを平日夜の開催とした。 活動体験においては4団体の協力を得て参加者を受け入れ、他の団体から学ぶことで自分の活動を客観視し今後の活動にいかすことを目的として実施した。	令和7年度は社会力講座【ステージアップ版】として、既に何らかの活動に取り組んでいる人や自身の講座で集客スキルを獲得したい人に向けた講座を年間で5回実施する。 受講生が活動を広報するための「人が集まる講座作り」というプチプロジェクトに挑戦し、人・物・金・情報等の社会資源をつなげてコーディネーションすることを体感する。	649千円	649千円					
								体験自習参加者数6名 「社会力」を活かした今後の活動意向79%	講座参加人数(1回あたり平均)25名 「社会力」を活かした今後の活動意向90%							
			33	2-(2)	地区リーダー勉強会事業	地区リーダー勉強会の開催	市民協働課	地区リーダー勉強会については、令和6年度の講演テーマを「防災は自助・互助・協働のまちづくり～人・地域・そして未来～」として、大規模災害に対して市民・地域と行政機関等が連携・協力して取り組む内容を市公式YouTubeチャンネルにて配信した。 配信形式で実施したことにより、より多くの区長等に参加(視聴)していただくことができた。	地域のリーダーである区長の担い手不足など、区会における近年の課題をテーマにした勉強会(講演会等)を開催して、その解決策を検討していく。8月又は9月に開催を計画している。	462千円	715千円					
								人材づくりイベントの参加者数390視聴数	人材づくりイベントの参加者数600視聴者数							
			34	2-(2)	地域まちづくり支援事業	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	【まちづくりに関する見学会・講座の実施】 地域主体のまちづくりを行うつくば市内の「小田地区」を対象とした見学会、つくば市のまちづくりについて学ぶ都市計画の講座を実施し、多くの方々に学びの機会を提供することができた。 【専門家の派遣】 地域まちづくり推進団体からあった申請すべてに対し適切に専門家を派遣することができた。 また、制度の周知のために、R6年9月号の広報つくばにて案内を掲載した。	【都市計画講座の実施】 市民向けに、まちづくりへの関心と理解を深めることを目的として、都市計画の制度やつくば市の現状を紹介し、現地見学会を行う講座を開催する。 【まちづくり見学会の実施】 地域まちづくりグループ及び推進団体を対象として、今後のまちづくりの参考となるようワークショップや現地見学会を開催する。 【専門家の派遣】 地域住民などで構成される地域まちづくりグループや地域まちづくり推進団体等が活動を行う上で、組織の運営に関すること、まちの課題や将来像に関すること等について指導や助言等を求めてきた際に、地域まちづくり専門家の派遣を行う。	187千円	295千円					
								都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣5回	都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣6回							

(仮称) 第4次つくば市生涯学習推進基本計画 骨子案

※第4次計画書における第3章「計画の基本的考え方」相当

目 次

(仮称) 第4次つくば市生涯学習推進基本計画骨子案	2
1 基本理念	2
2 基本方針	3
3 基本目標	4
4 計画骨子の体系案	7

骨子案での論点

- ・令和6年度第3回審議会で議論した基本理念～計画骨子の体系案について、修正を加えたものを提示しますので、今回の会議の中で決定いただきたいと思います。

(仮称)第4次つくば市生涯学習推進基本計画骨子案

1 基本理念

人生 100 年時代を迎え、長いライフステージを豊かに過ごすためには、誰もが生涯にわたり楽しく学び続け、幸せを実感できる環境づくりが重要になっています。そのため、社会的包摂を重視し、学びを通じて人々がつながり支え合う地域社会の実現や、デジタル技術を活用した社会人の学び直し・人材育成の促進が求められています。

つくば市は、高度な学術研究を担う研究・教育機関が集積する都市であり、豊かな歴史文化や自然環境、特色ある地域フィールドなど、多様な社会資源に恵まれています。これらを背景に、様々な生涯学習関連施策を進めてきた結果、市民の学びに対する意識は高まり、活動の裾野も広がっています。その一方で、こうした資源を十分に活用しきれていない面もあり、生涯学習情報の提供方法や、学習の場・機会へのアクセス、そして地域や人とのつながりの希薄化などの課題が残されています。また、世代ごとの学びのニーズに応じた取組や、成果を発表する場の充実も求められています。

さらに、個人の自己実現を目的とした学びは定着しつつあるものの、他者とのつながりや、学びの成果を地域社会にいかし、課題解決につなげる力、即ち「社会力」の発揮という側面においてはまだ十分とは言えない状況です。

こうした状況を踏まえ、第4次計画では、本市の未来構想の理念「つながりを力に未来をつくる」と、教育大綱の最上位目標「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を基盤に、学びを通じて市民の幸せを追求すること、地域の中で世代等を超えて学びの成果がめぐり、好循環を生み出すことで、すべての人が生きがいを感じ、幸せになる持続可能なまちの実現を目指します。そのため、様々な人々が交流でき、誰もが学びを楽しむ機会・環境をつくるとともに、「社会力」を育て、いかす取組をより一層充実させていきます。

このような考えから、第4次計画の基本理念を

**学びを楽しみ 世代がめぐる
つくばでつながる 幸せのまち**

と設定します。

【参考】「つながり」は、WSで頻出した言葉であり、未来構想の考え方や第3次計画のスローガンからも継承した。「めぐる」は、WSで世代間の学び合いが重要との意見が多く、学びの成果が世代等を超えてめぐり、好循環を促進することを意図する。「幸せのまち」はウェルビーイングや教育大綱の考え方を踏まえるとともに、上記の好循環により、誰もが生きがいを持ち、幸せになるような持続可能なまちを目指していきたいという思いを込めている。

2 基本方針

基本理念の実現に向けて取り組む基本方針は、教育大綱において「つくば市の教育が目指すもの」として掲げた2つの方向性に対応し、以下のように定めます。

基本方針1 誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進

誰もが生涯学習（学び）を通して自分らしく生きることができる社会を目指し、市民が誰でもいつでもどこでも楽しく学ぶことができるよう、多様な機会や場の充実を図ります。

また、市民一人ひとりが質の高い学びを通して、より豊かな人生を実現できるよう、デジタルの活用やアクセス性の向上、学習内容の高度化、情報共有や発信、利用環境の向上を図ります。

基本方針2 地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進

地域がより良い状態（幸せ）になるために、生涯学習（学び）を通じて、個人と地域がつながり、共に成長しながら「社会力」を育み、発揮していくことを目指し、まずは、「社会力」への理解を深め、その実践を後押しする機会の充実を図ります。

また、「社会力」をいかす場や機会を整え、「社会力」の源である人材を育成します。

さらに、それが持続可能な形で学びとつながりの好循環を生む仕組みづくりを推進します。



3 基本目標

本計画の推進にあたり、基本方針1と2に対応する5つの基本目標を定めます。

【基本方針1 誰もが自分らしく楽しく学ぶための生涯学習の推進】

基本目標1 誰一人取り残さない学びの充実

誰もが自分らしく学び続けられるよう、参加機会の拡充と学びの障壁の解消を進めます。

学びを通じて誰もが自分らしく幸せに生きるためには、多様なニーズに対応した取組が求められていることから、子どもから高齢者までライフステージに応じた参加機会の拡充を図ります。

また、市民一人ひとりが自分らしい選択をしながら学ぶことができるよう、主体的な生涯学習活動を促進します。さらに、誰もが参加できる生涯学習社会の実現に向け、障害の有無や性別、国籍などによって生じる様々な障壁を取り除く取組を推進します。

■施策の方向性■

- 1 参加機会の拡充
- 2 主体的な生涯学習活動の促進
- 3 参加の障壁を取り除く取組の推進

(参考)「施策の方向性」は、具体的な個別の施策(事務事業)を方向性ごとにまとめたものです。今回示す「施策の方向性」は議論の参考とするためのイメージで、詳細については次回以降の審議会において議論をする予定です。

基本目標2 多様で質の高い学びの充実

一人ひとりに合った学びにアクセスでき、世代を越えて集い学べる環境を整えます。

誰もが必要な学びの情報を適切に得られ、自らの関心やライフステージに応じた学びを選択できる環境づくりが求められていることから、幅広い学びの情報提供と相談体制の充実を図り、市民が学びにアクセスしやすい仕組みを整えます。

また、地域に身近な学びの場として、世代等を問わず安心して集える環境の充実や、既存施設の利便性向上を図り、学びを通じた交流促進と生涯にわたる学びの継続を支援します。

■施策の方向性■

- 1 生涯学習の情報提供・相談体制の充実
- 2 市民が集い学ぶ環境の充実

【基本方針2 地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進】

基本目標3 気づきとつながりを育む意識づくりの推進

社会力への気づきを促し、ファーストステップを踏みだす市民の意識醸成を図ります。

生涯学習の成果をいかし、市民がいきいきと活躍する社会を構築していくためには、「社会力」の重要性に気づき、理解を深めることが大切です。地域とのつながりに目を向け、関わりを通じて学びを深めることが学びの成果を実践につなげる第一歩です。そのため、気づきの機会を広げるよう、様々な機会と場を提供するとともに、市民が「社会力」を理解し、行動につなげていくための意識づくりを進めます。

■施策の方向性■

- 1 社会力への気づきを促す取組の充実
- 2 地域や地域のつながりを知るための取組の充実

基本目標4 成果をいかした活動の支援と人材育成の推進

学びと実践をつなぐ仕組みを整え、活動する市民・団体の支援と人材育成に努めます。

市民の学びを地域での実践へとつなげ、地域全体で「社会力」を向上させるためには、多様な人材が活躍できる環境と、人材・地域資源を活用する仕組みづくりが重要です。そのため、学びの成果をいかした新たな挑戦を後押しするとともに、既に地域の課題解決に取り組む市民や団体の活動を積極的に支援します。あわせて、これらの活動を支える人材の育成や、「社会力」の概念を次世代に継承するロールモデルとなるリーダーの育成等を図ります。

■施策の方向性■

- 1 成果をいかした活動の支援・促進
- 2 社会力を発揮できる多様な人材の育成

基本目標5 持続可能な学びとつながりの好循環の創出

学びの拠点とネットワークを活用し、市民の学びとつながりが発展・循環するしくみづくりを進めます。

市民自らが地域や社会に学びの成果を還元し、「より良い状態（幸せ）」が続く好循環を育むためには、地域との連携や交流、人と人とがつながる機会づくりが求められています。そのため、地域交流センターなど「社会力」を基盤とした学びの拠点を充実させ、様々な主体による取組や人と人とのつながりが相互に広がっていく学びのネットワークの構築を図ります。

また、市民が新たなつながりを地域に広げていけるよう、ネットワークを通じて活動を後押しするとともに、その取組が持続的に発展するよう、学びのネットワークを活用して地域で学び続ける仕組みづくりを進めます。

■施策の方向性■

- 1 とともに育てる学びのネットワークづくり
- 2 地域で学び続ける仕組みづくり

4 計画骨子の体系案

基本理念	基本方針	基本目標	施策の方向性	未来への取組	未来像
つくばでつながる 学びを楽しみ 世代がめぐる 幸せのまち	1. 誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進	1. 誰一人取り残さない学びの充実	1 参加機会の拡充 2 主体的な生涯学習活動の促進 3 参加の障壁を取り除く取組の推進	未来への取組（仮）（5年間で未来に向けて取り組むこと）	つくばの学びの未来像（仮）
		2. 多様で質の高い学びの充実	1 生涯学習の情報提供・相談体制の充実 2 市民が集い学ぶ環境の充実		
	2. 地域全体で社会力を育み、いかす生涯学習の推進	3. 気づきとつながりを育む意識づくりの推進	1 社会力への気づきを促す取組の充実 2 地域や地域のつながりを知るための取組の充実		
		4. 成果をいかした活動の支援と人材育成の推進	1 成果をいかした活動の支援・促進 2 社会力を発揮できる多様な人材の育成		
		5. 持続可能な学びとつながりの好循環の創出	1 とともに育てる学びのネットワークづくり 2 地域で学び続ける仕組みづくり		
資料 施策の展開（構成イメージ）				次回以降議論予定	

■骨子案 新旧対照表

No.	頁 ()は 旧	項目	令和6年度 第3回生涯学習審議会資料 表記	令和7年第1回生涯学習本部会(審議会)資料 表記 ◆赤字 審議会の御指摘への対応 ◆青字 事務局案(表現・言い回しの修正・追加)	修正理由等
1	2	1 基本理念	人生 100 年時代を迎え、誰もが生涯にわたり楽しく学び続け、幸せを実感できる環境づくりが重要になっています。そのため、社会的包摂を重視し、学びを通じて人々がつながり支え合う地域社会の実現や、デジタル技術を活用した社会人の学び直し・人材育成の促進が求められています。	人生 100 年時代を迎え、 <u>長いライフステージを豊かに過ごすためには</u> 、誰もが生涯にわたり楽しく学び続け、幸せを実感できる環境づくりが重要になっています。そのため、社会的包摂を重視し、学びを通じて人々がつながり支え合う地域社会の実現や、デジタル技術を活用した社会人の学び直し・人材育成の促進が求められています。	・長橋委員の意見を受け修正。 (人生は長いという趣旨の文言を追加)
2	2	1 基本理念	つくば市は、質の高い人材、研究・教育機関、豊かな歴史文化や自然環境、特色ある地域フィールドなど、多様な社会資源に恵まれています。これらの豊富な資源を背景に、各種施策を進めてきた結果、市民の学びに対する意識は高まっていますが、資源の活用方法には課題がみえており、生涯学習情報の提供や学習の場・機会へのアクセス等の課題、地域や人とのつながりの希薄化といった課題も残されています。また、世代ごとの学びのニーズや成果を発表する場の充実も求められています。 さらに、個人の自己実現を目的とした学びは定着しつつある一方で、他者とのつながりや、学びの成果を地域社会にいかし、課題解決につなげる力、即ち「社会力」を発揮するという側面では課題が残っています。	つくば市は、 <u>高度な学術研究を担う</u> 研究・教育機関が <u>集積する都市であり</u> 、豊かな歴史文化や自然環境、特色ある地域フィールドなど、多様な社会資源に恵まれています。これらを背景に、 <u>様々な生涯学習関連</u> 施策を進めてきた結果、市民の学びに対する意識は高まり、 <u>活動の裾野も広がっています。その一方で、こうした資源を十分に活用しきれていない面もあり</u> 、生涯学習情報の提供方法や、学習の場・機会へのアクセス、 <u>そして</u> 地域や人とのつながりの希薄化 <u>などの</u> 課題が残されています。また、世代ごとの学びのニーズに <u>応じた取組</u> や、成果を発表する場の充実も求められています。 さらに、個人の自己実現を目的とした学びは定着しつつ <u>あるものの</u> 、他者とのつながりや、学びの成果を地域社会にいかし、課題解決につなげる力、即ち「社会力」の <u>発揮</u> という側面 <u>においてはまだ十分とは言えない状況です。</u>	・後藤委員の意見を受け修正。 (質の高い人材、は不要ではないか) 研究・教育機関に含む。 ・全体的に「課題」という文言が多かったため解消し、あわせて重複しがちな表現や言い回しが適切でない部分を修正。
3	2	1 基本理念	こうした状況を踏まえ、第4次計画では、本市の未来構想の理念「つながりを力に未来をつくる」と、教育大綱の最上位目標「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を基盤に、学びを通じて市民の幸せの追求すること、地域の中で世代を超えて学びの成果がめぐり、学びの好循環を生み出すことで、すべての人が幸せになる持続可能な社会の実現を目指します。そのため誰もが学びを楽しむ機会や環境を享受することを可能にするとともに、「社会力」を育て、いかす取組をより一層充実させていきます。	こうした状況を踏まえ、第4次計画では、本市の未来構想の理念「つながりを力に未来をつくる」と、教育大綱の最上位目標「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を基盤に、学びを通じて市民の幸せを追求すること、地域の中で世代 <u>等</u> を超えて学びの成果がめぐり、 <u>好循環</u> を生み出すことで、すべての人が <u>生きがいを感じ</u> 、幸せになる持続可能な <u>まち</u> の実現を目指します。そのため、 <u>様々な人々が交流でき</u> 、誰もが学びを楽しむ機会・環境を <u>つくる</u> とともに、「社会力」を育て、いかす取組をより一層充実させていきます。	・世代「等」は世代以外(国籍や障害の有無など)も含む意図として修正。 ・審議会全体として「生きがい」のフレーズが頻出したため、「生きがい」を追加。 ・持続可能な「まち」は後述の理念に合わせて修正。 ・黒崎委員の意見を受け修正。 (学びが先ではなく、つながりが先にくるのではないか)
4	2	1 基本理念	このような考えから、第4次計画の基本理念を つながり めぐり 幸せを生むつくばの生涯学習 と設定します。 別案 案1 つながり めぐる 学びのステージ 案2 つながり 学び合う 幸せ広がる つくばのまち 案3 学びを楽しむ 世代がめぐる つくばでつながる 幸せの輪	このような考えから、第4次計画の基本理念を <u>学びを楽しむ 世代がめぐる つくばでつながる 幸せのまち</u> と設定します。	・審議全体の意見を受け、別案3をベースとした理念に修正。 ・中嶋委員より審議会後に御意見をいただき、別案3「幸せの輪」⇒「幸せのまち」へ修正。

No.	頁 ()は 旧	項目	令和6年度 第3回生涯学習審議会資料 表記	令和7年第1回生涯学習本部会(審議会)資料 表記 ◆赤字 審議会の御指摘への対応 ◆青字 事務局案(表現・言い回しの修正・追加)	修正理由等
5	2	1 基本理念	【参考】「つながり」は、WSで頻出した言葉であり、未来構想の考え方や第3次計画のスローガンからも継承した。 「めぐり」は、WSで世代間の学び合いが重要との意見が多く、学びの成果が世代を超えてめぐり、好循環を促進することを意図して追記した。「幸せを生む～」はウェルビーイングや教育大綱の考え方を踏まえるとともに、上記の好循環により、誰もが幸せで持続可能な社会の実現を目指していきたいという思いを込めている。	【参考】「つながり」は、WSで頻出した言葉であり、未来構想の考え方や第3次計画のスローガンからも継承した。 「めぐり」は、WSで世代間の学び合いが重要との意見が多く、学びの成果が世代等を超えてめぐり、好循環を促進することを意図する。「幸せのまち」はウェルビーイングや教育大綱の考え方を踏まえるとともに、上記の好循環により、誰もが <u>が生きがい</u> <u>をもち、幸せになるような</u> 持続可能な <u>まち</u> を目指していきたいという思いを込めている。	・全体的に基本理念の修正に合わせて修正。
6	3	2 基本方針	基本方針 1 誰もが自分らしく楽しく学ぶための生涯学習の推進	基本方針 1 誰もが自分らしく楽しく <u>学べる</u> 生涯学習の推進	・中嶋委員より審議会後に御意見をいただき、行政側の視点から、市民の学ぶ姿を主語にした「学べる」へ修正。
7	3	2 基本方針	基本方針 2 地域全体で「社会力」を育みいかす生涯学習の推進	基本方針 2 地域全体で社会力を育み、 <u>い</u> かす生涯学習の推進	・複数表記揺れがあったため、「育み」と「いかす」を区切る読点で統一。
8	4	3 基本目標	基本目標1 誰一人取り残さない学びの充実	基本目標1 誰一人取り残さない学びの充実 <u>誰もが自分らしく学び続けられるよう、参加機会の拡充と学びの障壁の解消を進めます。</u>	・どのようなことを行うかがわかるようリード文(簡易説明文)を追加。
9	4	3 基本目標	学びを通じて誰もが自分らしく幸せに生きられるよう、多様なニーズに対応した取組が求められていることから、子どもから高齢者までライフステージに応じた参加機会の拡充を図ります。また、市民一人ひとりが自分らしい選択をしながら学ぶことができるよう、主体的な生涯学習活動を促進します。さらに、誰もが参加できる生涯学習社会の実現に向け、障害の有無や性別、国籍などによって生じる様々な障壁を無くす取組を推進します。学びを支える仕組みづくりにより、誰一人取り残さない学びの充実を目指します。	学びを通じて誰もが自分らしく幸せに生き <u>るためには</u> 、多様なニーズに対応した取組が求められていることから、子どもから高齢者までライフステージに応じた参加機会の拡充を図ります。 また、市民一人ひとりが自分らしい選択をしながら学ぶことができるよう、主体的な生涯学習活動を促進します。 さらに、誰もが参加できる生涯学習社会の実現に向け、障害の有無や性別、国籍などによって生じる様々な障壁を <u>取り除く</u> 取組を推進します。	・障壁を「無くす」から、配慮していく意図と実行可能性のある表現である「取り除く」に修正。 ・元文章の最後の1文はタイトルと重複するため削除。
10	4	3 基本目標	■施策の方向性(イメージ) ・参加機会の拡充 ・主体的な生涯学習活動の促進 ・参加の障壁をなくす取組の推進	■施策の方向性■ 1 参加機会の拡充 2 主体的な生涯学習活動の促進 3 参加の障壁を <u>取り除く</u> 取組の推進	・上記理由からあわせて修正。
11	4	3 基本目標	基本目標2 多様で質の高い学びの充実	基本目標2 多様で質の高い学びの充実 <u>一人ひとりに合った学びにアクセスでき、世代を越えて集い学べる環境を整えます。</u>	・どのようなことを行うかがわかるようリード文(簡易説明文)を追加。
12	4	3 基本目標	誰もが必要な学びの情報を適切に得られ、自らの関心やライフステージに応じた学びを選択できる環境づくりが求められていることから、学びの情報提供と相談体制を強化し、市民が学びにアクセスしやすい仕組みを整えます。また、地域に身近な学びの場として、世代等を問わず安心して集える環境の充実や、既存施設の利便性向上を図り、学びを通じた交流促進と生涯にわたる学びの継続を支援します。学びの環境を整えることで、多様で質の高い学びの充実を目指します。	誰もが必要な学びの情報を適切に得られ、自らの関心やライフステージに応じた学びを選択できる環境づくりが求められていることから、 <u>幅広い</u> 学びの情報提供と相談体制の <u>充実を図り</u> 、市民が学びにアクセスしやすい仕組みを整えます。 また、地域に身近な学びの場として、世代等を問わず安心して集える環境の充実や、既存施設の利便性向上を図り、学びを通じた交流促進と生涯にわたる学びの継続を支援します。	・多様なアプローチによる提供を意図して「幅広い」を追加。 ・体制等の「強化」の前に、まずは根本の「充実」が必要と考え、修正。 ・元文章の最後の1文はタイトルと重複するため削除。

No.	頁 ()は 旧	項目	令和6年度 第3回生涯学習審議会資料 表記	令和7年第1回生涯学習本部会(審議会)資料 表記 ◆赤字 審議会の御指摘への対応 ◆青字 事務局案(表現・言い回しの修正・追加)	修正理由等
13	4	3 基本目標	■施策の方向性(イメージ) ・生涯学習情報の提供・相談体制の充実 ・市民の居場所・たまり場の充実	■施策の方向性■ 1 生涯学習の <u>情報提供</u> ・相談体制の充実 2 <u>市民が集い学ぶ環境の充実</u>	・生涯学習施策としての意図がやや伝わりにくいため、「集い学ぶ環境」とすることで学習活動との関係性をより明確化した。
14	5	3 基本目標	基本目標3 気づきとつながりを育む意識づくりの推進	基本目標3 気づきとつながりを育む意識づくりの推進 <u>社会力への気づきを促し、ファーストステップを踏みだす市民の意識醸成を図ります。</u>	・どのようなことを行うかがわかるようリード文(簡易説明文)を追加。 ・文言は、元の文章の「施策の方向性」の☆の文章をいかした。
15	5	3 基本目標	市民の「社会力」に関する理解を今後も進める必要があるなか、生涯学習の成果をいかし、市民がいきいきと活躍する社会を構築していくためには、その入り口として、「社会力」の重要性を認識すること、気づきが重要であることから、市民が学びの成果を実践にいかせる最初の一步・ファーストステップを踏み出せるよう、様々な機会と場の提供し、「社会力」を理解し実践していくための意識づくりに取り組みます。	生涯学習の成果をいかし、市民がいきいきと活躍する社会を構築していくためには、「社会力」の重要性に <u>気づき、理解を深めることが大切です。地域とのつながりに目を向け、関わりを通じて学びを深めることが</u> 学びの成果を実践につなげる第一歩です。そのため、 <u>気づきの機会を広げるよう、様々な機会と場を提供するとともに、市民が</u> 「社会力」を理解し、 <u>行動につなげていくための意識づくりを進めます。</u>	・基本目標3～5の考え方を整理。(ここは社会力の啓発、地域を知るという「ホップ」の視点。) ・全体的に冗長になっていた文章を精査し、区切る形で修正。 ・「地域とのつながり」の視点を追加。 ・黒崎委員の意見(学びより先につながり)を受けて、「関わりを通じて学びを深める」と修正。 ・一步を踏み出す機会から、まずは気づきの機会と意識醸成という点で修正。
16	5	3 基本目標	■施策の方向性(イメージ) ☆社会力への気づき・ファーストステップを踏む市民を増やす ・社会力に気づかせる取組の充実 ・地域や他者を知る、つながりのきっかけづくり(≡地域で学ぶきっかけづくり)	■施策の方向性■ 1 社会力への <u>気づきを促す</u> 取組の充実 2 地域や <u>地域のつながりを知るための取組の充実</u>	・他の基本目標の、施策の方向性とレベルを合わせた。 ・1 は押しつけがましい表現だったのを主体的な気づきを後押しする表現へ修正。 ・2 は他者を知ってつながるを、地域のつながりと表現を変更。
17	5	3 基本目標	基本目標4 人材の育成と成果をいかした取組の充実	基本目標4 <u>成果をいかした活動の支援と人材育成の推進</u> <u>学びと実践をつなぐ仕組みを整え、活動する市民・団体の支援と人材育成に努めます。</u>	・基本目標・施策の方向性では、活動支援・人材育成の順番のため基本目標(タイトル)も修正。 ・どのようなことを行うかがわかるようリード文(簡易説明文)を追加。

No.	頁 ()は 旧	項目	令和6年度 第3回生涯学習審議会資料 表記	令和7年第1回生涯学習本部会(審議会)資料 表記 ◆赤字 審議会の御指摘への対応 ◆青字 事務局案(表現・言い回しの修正・追加)	修正理由等
18	5	3 基本目標	多様な人材や資源を有効に活用するための仕組みづくりが求められていることから、市民が取り組む活動の効果として地域全体で「社会力」が向上するよう、学びの成果をいかした新たな挑戦を後押しするなど、地域の課題解決に取り組む市民や団体の活動を積極的に支援します。また、活動を支える多様な人材の育成や、「社会力」のあり方を次世代に継承し、これから学ぶ市民にとってのロールモデルとなるリーダーの育成等を図ることで、「社会力」の向上とその成果をいかした取組の充実を目指します。	<u>市民の学びを地域での実践へとつなげ</u> 、地域全体で「社会力」を向上させるためには、 <u>多様な人材が活躍できる環境と、人材・地域資源を活用する仕組みづくりが重要です</u> 。そのため、学びの成果をいかした新たな挑戦を後押しする <u>とともに、既に</u> 地域の課題解決に取り組む市民や団体の活動を積極的に支援します。 <u>あわせて、これらの</u> 活動を支える人材の育成や、「社会力」の <u>概念を</u> 次世代に継承するロールモデルとなるリーダーの育成等を図ります。	・基本目標3～5の考え方を整理。(ここは活動支援と人材育成「ステップ」) ・全体的に冗長になっていた文章を精査し、区切る形で修正。より何をするかをかわるよう補足した。 ・元文章の最後の1文はタイトルと重複するため削除。 ・下記施策の方向性について、溝上委員の意見を受けて、多様な人材について補足した。 ①多様な属性…2行目「多様な人材が活躍できる環境」 ②多様な役割…これらの活動を支える人材の育成や、「社会力」の概念を次世代に継承するロールモデルとなるリーダーの育成
19	5	3 基本目標	■施策の方向性(イメージ) ☆他者とのつながり、学びの成果をいかした取組を生み、増やす ・社会力をいかして活動を起こす(実践) ・リーダー育成 ・市民のアクションの受け皿・制度を運営創出 ・生涯学習を実践する多様な人材の育成	■施策の方向性■ 1 <u>成果をいかした活動の支援・促進</u> 2 <u>社会力を発揮できる多様な人材の育成</u>	・他の基本目標の、施策の方向性とレベルを合わせた。 ・4つの方向性を大きく2つの観点で集約。「実践する市民・団体の支援」と「人材育成」 ・溝上委員の意見を受け(「多様な人材」とは何を指すか。)文言を検討した結果、「社会力を発揮できる」を頭に追加し上記基本目標の文章で少し補足した。 (多様な人材とは、①多様な属性・キャリアの人材、②多様な役割が期待される人材の2側面の意図で、それをまとめて「社会力を発揮できる」とした)
20	6	3 基本目標	基本目標5 持続可能な学びとつながりの好循環の創出	基本目標5 持続可能な学びとつながりの好循環の創出 <u>学びの拠点とネットワークを活用し、市民の学びとつながりが発展・循環するしくみづくりを進めます。</u>	・どのようなことを行うかがわかるようリード文(簡易説明文)を追加。

No.	頁 ()は 旧	項目	令和6年度 第3回生涯学習審議会資料 表記	令和7年第 1 回生涯学習本部会(審議会)資料 表記 ◆赤字 審議会の御指摘への対応 ◆青字 事務局案(表現・言い回しの修正・追加)	修正理由等
21	6	3 基本目標	将来にわたり地域へ学びの成果を還元し、「より良い状態(幸せ)」が続く好循環を育むために、地域との連携や交流、人と人とがつながる機会づくりが求められていることから、「社会力」を基盤とした学びのプラットフォームの充実を図るとともに、様々な取組が相互に広がる学びのネットワークの構築を図ります。また、様々な取組・活動が持続的に発展するよう、学びのネットワークをいかした地域で学び続けるための仕組みづくりに取り組み、学びとつながりの好循環を目指します。	<u>市民自らが地域や社会に</u> 学びの成果を還元し、「より良い状態(幸せ)」が続く好循環を育むために <u>は</u> 、地域との連携や交流、人と人とがつながる機会づくりが求められています。 <u>そのため、地域交流センターなど</u> 「社会力」を基盤とした学びの <u>拠点を</u> 充実させ、様々な <u>主体による</u> 取組 <u>や人と人とのつながり</u> が相互に広が <u>っていく</u> 学びのネットワークの構築を図ります。 また、 <u>市民が新たなつながりを地域に広げていけるよう、ネットワークを通じて活動を後押しするとともに、その取組が</u> 持続的に発展するよう、学びのネットワークを <u>活用して</u> 地域で学び続けるための仕組みづくり <u>を進めます。</u>	・基本目標3～5の考え方を整理。 (ここは自走し広がり循環する視点「ジャンプ」)市民が自ら主体的に動き、つながっていく(ネットワーク化)意図の文章に補足した。 ・全体的に冗長になっていた文章を精査し、区切る形で修正。 ・学びのプラットフォームのイメージとして、新規につくるだけではなく既存の事業の強化の意図として、「地域交流センターなど」の施設名を追加した。 ・「プラットフォーム」を具体的な場所のイメージを持たせるよう「拠点」と言い換えた。
22	6	3 基本目標	■施策の方向性(イメージ) ☆生まれた取組が持続し広がり続けさせる ・活動や枠組みを維持し、学び続けるための支援実施 ・つながりを広げていく取組・ネットワーク化 ・地域で学び続ける仕組みづくり	■施策の方向性■ 1 <u>ともに育てる学びのネットワークづくり</u> 2 <u>地域で学び続ける仕組みづくり</u>	・他の基本目標の、施策の方向性とレベルを合わせた。 ・3つの方向性を大きく2つの観点で集約。「学びのネットワークの構築」と「地域で学び続ける(活動を維持していく)仕組みづくり」 ・「ともに育てる～」は、生涯学習ネットワークだと環境づくりのみの側面と捉えられかねるため、相互に自発的につながるという意図で表現を変更。
23	7	4 計画骨子の体系案	体系図	体系図	・体系図を1つに集約。(内容を上記の修正に合わせて変更) ・次回以降議論予定である未来への取組、未来像の追加。

〇つくば市生涯学習審議会条例

平成5年6月25日
条例第25号

(設置)

第1条 市民が自己を高めるため、生涯にわたり社会のあらゆる領域で自発的、自主的に行う学習活動(以下「生涯学習」という。)の振興に関する施策を総合的に進めるため、つくば市生涯学習審議会(以下「審議会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議し、答申する。

- (1) 生涯学習を振興するための施策の総合的な推進に関する事項
- (2) その他生涯学習の推進に必要な事項

(組織)

第3条 審議会は、委員25人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

- (1) 市議会議員
 - (2) 各種団体等の代表者
 - (3) 学識経験者
 - (4) 市内に在住し、在勤し、又は在学する者
- (平9条例43・平30条例29・一部改正)

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

3 前条第2項第1号又は第2号に規定する者で当該職又は地位により委員に任命されたものが当該職又は地位を離れたときは、委員の職を失うものとする。

(平9条例43・一部改正)

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(平9条例43・一部改正)

(会議)

第6条 審議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集する。

2 会長は、会議の議長となる。

3 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(部会)

第7条 審議会に、専門の事項を調査するため、必要に応じて部会を置くことができる。

2 前項の部会の委員は、審議会の委員のうちから審議会が選任する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成9年条例第43号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成30年条例第29号)

この条例は、公布の日から施行する。

つくば市生涯学習審議会委員

任期:令和6年8月1日～令和8年7月31日

資料 6

※令和7年(2025年)6月9日現在

No.	氏名	よみ	任命区分
1	石川 由美子	いしかわ ゆみこ	市民委員
2	石塚 一夫	いしつか かずお	各種団体等の代表者 つくば市シルバークラブ連合会 会長
3	石原 亜矢子	いしはら あやこ	各種団体等の代表者 つくば市学校長会(つくば市立要小学校 校長)
4	黒崎 博	くろさき ひろし	市民委員
5	後藤 真紀	ごとう まき	各種団体等の代表者 つくば市福祉団体等連絡協議会 会長
6	小森谷 さやか	こもりや さやか	市議会議員
7	鈴木 朱里	すずき あかり	各種団体等の代表者 NPO法人ままとーん 代表理事
8	武田 直樹	たけだ なおき	学識経験者 NPO法人フュージョン社会力創造パートナーズ 理事長
9	田中 秀夫	たなか ひでお	各種団体等の代表者 つくば市文化協会 会長
10	田中 依子	たなか よりこ	市民委員
11	中嶋 修	なかじま おさむ	各種団体等の代表者 青少年を育てるつくば市民の会 副会長
12	長橋 進也	ながはし しんや	各種団体等の代表者 つくば市PTA連絡協議会 顧問
13	萩原 武久	はぎわら たけひさ	各種団体等の代表者 つくば市スポーツ協会 会長
14	福井 正人	ふくい まさと	市民委員
15	溝上 智恵子	みぞうえ ちえこ	学識経験者 国士舘大学 特任教授
16	山崎 誠治	やまざき せいじ	各種団体等の代表者 つくば市ボランティア連絡協議会 世話人代表

敬称略、50音順

※つくば市生涯学習審議会条例第3条第2項

委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

- (1) 市議会議員
- (2) 各種団体等の代表者
- (3) 学識経験者
- (4) 市内に在住し、在勤し、又は在学するもの

（仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画 施策の展開（構成イメージ）

※第4次計画書における第4章「施策の展開」相当

目 次

施策の展開（構成イメージ）	2
基本方針1	2
基本目標1	2

施策の展開での論点

- ・ 施策の展開（具体的な計画部分）の構成イメージ（基本目標1を例示）を提示します。本構成で基本目標1～5まで構成する予定（次回提示予定）であり、このまま進めて良いかご議論いただければと思います。

※施策の方向性の内容（どのような施策を進めるか）が簡易的に入れています。本内容はイメージであり、関連する事業内容（調査中）により内容が変わります。

施策の展開（構成イメージ）

基本目標１ 誰一人取り残さない学びの充実



成果指標

成果指標項目	現況 (令和 6 年度) (2023 年度)	目標値 (令和 12 年度) (2030 年度)
【第 3 次から】生涯学習に取り組んでみたい人の割合 (R6 生涯学習に関する市民意識アンケート)	81.9% (3.8 ポイント増)	86.0% (4 ポイント増目指す)
【第 3 次から】実際に学習活動に取り組んだ人の割合 (R6 生涯学習に関する市民意識アンケート)	65.0% (7.1 ポイント増)	70.0% (5 ポイント増目指す)
【新】障害者の生涯学習に関する指標（参加者数、満足度）など		

成果指標は項目及び数値を見直し検討します。（継続・強化を図る）

基本方針1 誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進

施策の方向性の内容（どのような施策を進めるか）が簡易的に入れています。本内容はイメージであり、関連する事業内容（調査中）により内容が変わります。

施策の方向性1 参加機会の拡充

子どもから高齢者までライフステージに応じた多様なニーズを前提としながら、誰もがどんな時も気軽に学ぶことができるよう、生涯学習への参加機会の拡充を図ります。そのため、年齢やライフステージなどによって異なる市民ニーズを的確にとらえた生涯学習の提供方法（カリキュラム・分野展開・難易度・頻度・時間帯・開催場所・開催方法など）を研究・調査し、柔軟かつ効果的に事業を見直しながら提供していきます。

【参考】第3次計画における関連する事業

オンラインによる生涯学習講座事業、地域交流センター活用事業、家庭教育学級支援事業、民間企業での生涯学習事業 + 新規事業（調査中）

施策の方向性2 主体的な生涯学習活動の促進

市民一人ひとりが主体的に学び、自らの能力をデザインしていくことができるよう、市民の主体的な生涯学習活動を支援します。そのため、地域交流センターを拠点とした生涯学習活動への主体的な参加の促進に努めるとともに、高度な学習ニーズ、キャリア形成のための学習への対応として、高等教育機関・研究機関・企業と連携したりカレント教育やリスキリングの充実を図ります。

【参考】第3次計画における関連する事業

地域交流センター講座等事業、男女共同参画啓発事業、民間企業での生涯学習事業、スポーツ教室事業 + 新規事業（調査中）

施策の方向性3 参加の障壁を取り除く取組の推進

多様性を認め合う社会的包摂の精神のもと、障害者、外国人など社会的に制約がある市民、年齢や性別により制約がある市民の生涯学習機会の拡充を図ります。そのため、参加の障壁を取り除く取組として、生涯学習活動（講座・セミナー・自主的な活動など）に係るソフト・ハード両面での支援を総合的に推進していくとともに、庁内連携、民間や教育機関など多様な主体の連携により、誰もが参加しやすい生涯学習環境をつくれます。

【参考】第3次計画における関連する事業

障害者の生涯学習関連事業、障害者スポーツ推進事業、生涯学習関連事業（障害のある人や支援者対象）、外国人市民向け情報発信・講座事業、生涯学習ワンストップ対応事業 + 新規事業（調査中）

■ 未来への取組

■ 未来≒幸せのまち に向けて取り組むことは？

基本理念に掲げる「幸せのまち」は、生涯学習を通して、市民一人一人が学びたい、人と繋がりともに学びたい、学びを地域に役立てたいという想いをかなえ、達成感や幸福感を得ることによって実現すると考えます。生涯学習の未来に向けての取組・施策は、そこに繋がっています。生涯学習を通して活動している市民は誰もが実感する想いです。

マズローの欲求5段階説などを参考に考えてみると、生涯学習の学びは、市民のライフステージや関わり方の段階によって、社会的欲求(所属と愛の欲求)、承認(尊敬)の欲求、自己実現の欲求の各段階と親和性がありそうです。

■ 生涯学習の推進におけるライフコースの考え方

この計画は、様々なライフステージに対応した取組を示しています。

つまり、市民が生涯学習に取り組もうとする「現時点」から5年後の未来に向けての施策・事業を示していることになります。

ところで、市民一人一人の人生は、これまで取り組んできた過去の活動や学習、5年よりもっと先の未来への意欲をも含めて成り立っているものです。

また、人生 100 年時代にあって、市民のライフコースは、従来型の3ステージモデルのライフコース「教育～仕事(労働)～引退(老後)」から、マルチステージモデルのライフコースへと移行しています。

つくば市では、ライフステージへの対応を考えるにあたって、マルチステージモデルのライフコースも想定し、この計画で推進する施策・事業がどのように市民に活用されるかをシミュレーションしました。

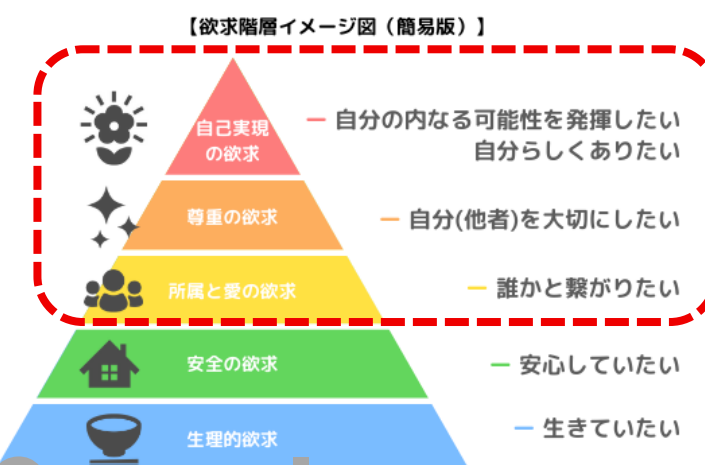
■ 5つのライフコース・5つのペルソナ

本計画では、様々なライフコースにあるペルソナをモデルとして設定し、つくば市で学んでいる姿を示します。計画に示す施策をそれぞれの市民がどのように活用して生涯学習を実践しているかを、「青少年」、「働く世代」、「子育て世代」、「障害者」、「高齢者」のそれぞれのステージにあるペルソナを通して展開していきます。

また、1人の人生には様々な人々が関わっており、ともに学ぶ仲間には、別のストーリー(ライフコース)があることも、あわせながら、「つくばの学びの未来像」を描きます。

→つくばの学びの未来像(参考資料3)につづく

■ 欲求階層のイメージ図 ■



■ 3ステージモデルとマルチステージモデル ■

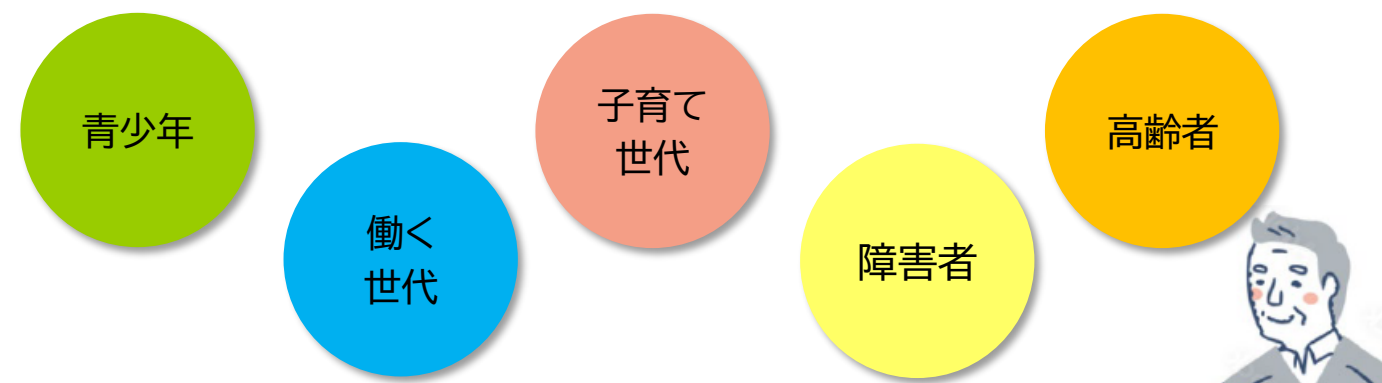
3ステージモデル：これまでの生き方



マルチステージモデル：これからの生き方



■ 5つのライフコース・5つのペルソナ ■



↑ 参考資料3

高齢者【リタイア前～リタイア後】

55歳の誕生日、人生が少し動き出した日

中村さん(70歳) つくば市居住歴 35年 転勤を期につくば市に。研究職員として市内企業に勤めていました。現在は夫婦2人+犬1匹暮らしです。



あなたの学びのきっかけは？

人生の折り返し地点も過ぎた 55歳の誕生日。

その日、我が子からふと言われた言葉が心に残りました。

「私たちばかりに構ってないで、そろそろお父さんも新しいこと、始めてみたら？」 その何気ないひと言が、自分のこれからについて考えるきっかけになりました。

ちょうどその頃、市の SNS で「セカンドライフを考えよう」という講座の案内を見つけたんです。家族も背中を押してくれたので、思い切って申し込んでみました！



参加した講座はどうでしたか？

仕事後に参加できる夜間の連続講座で、自分のこれまでの人生や得意なこと、価値観を振り返るワークから始まり、趣味の見つけ方や講座の紹介、地域との関わりについても学びました。

地域の人とはあいさつ程度の関係だったので、何か始めるなら、自分の経験が生かして、さらに、地域の人と関わることがいいなと思うようになりました。



実際にはどんなことを始めたのですか？

研究員として働いていた当時は、負担の少ない形で、科学教室を行う地域団体のサポートメンバーとして関わることにしました。

子どもも大人も楽しそうに実験に取り組む姿を見ると、自分の知識や経験が誰かの「わくわく」につながっている実感があって、何とも言えないやりがいを感じていました。



その後、活動を続けてみていかがですか？

仕事を引退して時間ができた今は、団体の講師だけでなく市主催の講座の講師となったり、私のようにサポートとして手伝ってくれている人を次の講師となるように育てたりしているところです。

ちなみに、活動を通じて仲良くなった人たちとは、近所で一緒にお茶をしたり、山登りをするようになり、心身ともに健康的な生活を送っています。思い切って一歩踏み出したことで、人生がより豊かになりました！



令和7年度第1回生涯学習審議会 事前質問票

資料 番号	ページ	質問内容	担当課からの回答																
資料 2-2	ページ 1	事業番号2 つくば市民センター 吾妻交流センター当時利用状況を確認したい。	<table> <tr> <td></td><td>利用件数</td><td>利用者数</td><td>登録団体数</td></tr> <tr> <td>R3</td><td>1,386</td><td>14,901</td><td>80 団体</td></tr> <tr> <td>R4</td><td>1,671</td><td>13,905</td><td>77 団体</td></tr> <tr> <td>R5</td><td>1,268</td><td>12,136</td><td>67 団体</td></tr> </table> (R5.12 末閉所)		利用件数	利用者数	登録団体数	R3	1,386	14,901	80 団体	R4	1,671	13,905	77 団体	R5	1,268	12,136	67 団体
	利用件数	利用者数	登録団体数																
R3	1,386	14,901	80 団体																
R4	1,671	13,905	77 団体																
R5	1,268	12,136	67 団体																
資料 2-2	ページ 1	事業番号2 つくば市民センター 「今後の取組」欄について 駅近の立地は当然であるが、一方駐車場からのアクセス等考慮するとイベントに活用促すがありますが、結構大変なことではないか？	令和6年度つくば市民センター講座アンケート結果では、自家用車以外の受講者が42%であったこと、また、令和5年度のつくバス利用者数が過去最高を達成するなど、公共交通の利用者は年々増加している現状を踏まえ、会場探し(場所のマッチング)の相談時における提案から始めていくことを考えています。																
資料 2-2	ページ 7	事業番号 21 ジオパーク室 ジオパーク登録当初より話題、市民への響きがかなり低下していると感じます。 市の観光事業とも合わせて推進する意義は大きいと思う。改めて見つめなおす必要があると思います。	ジオパークの認知度につきましては、依然として課題であると認識しており、様々な取り組みを進めています。 2023 年 11 月につくばジオミュージアムがオープンし、1 年以内で来館者数1万人を突破するなど、順調なスタートを切ることができました。 また、学習教材として活用できる副読本「るるぶ特別編集 筑波山地域ジオパークがわかる大地のひみつ図鑑」や、未																

			就学児～低学年向け絵本「ひみつのてっぺん」を作成しました。 さらに、つくば市観光推進課、つくば観光コンベンション協会と共同で市内アニメ制作会社とのコラボイベント等も開催しています。引き続き、観光事業及び構成6市と連携しながら、幅広い層に向けたアプローチにより、ジオパーク認知度向上に努めてまいります。 <u>ジオミュージアム令和5年11月開始</u> 来館者数 令和5年度:6,771(11～3月) 6年度:10,755(4～3月)															
資料 2-2	ページ 7	事業番号21 ジオパーク室	市民向け講座等々の参加者等の推移を具体的に知りたい。 <table><tr><td></td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>開催数</td><td>5 回</td><td>3 回</td><td>4 回</td><td>4 回</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>67 名</td><td>57 名</td><td>64 名</td><td>103 名</td></tr></table>		R3	R4	R5	R6	開催数	5 回	3 回	4 回	4 回	参加者数	67 名	57 名	64 名	103 名
	R3	R4	R5	R6														
開催数	5 回	3 回	4 回	4 回														
参加者数	67 名	57 名	64 名	103 名														
資料 3	ページ1	事業番号2 つくば市民センター 「令和7年度事業計画」の指標について	つくば市民センターは地域交流センターと異なり、従来の市民サークルだけでなく、営利団体や市外団体の利用が可能な施設なため、未登録での利用が多いことから、施設の利用状況を数値化するにあたっては、利用件数を指標とした方が適切と判断したためです。															
		市民センターの事業計画・登録団体から利用件数に変更した理由を知りたい。																

資料 3	ページ 11	事業番号 33 市民協働課 「地区リーダー勉強会の開催」について 勉強会の開催時期が8月又は9月開催の理由を教えてください。 (区会の新会長・役員の選出・引継ぎのタイミングで実施するのが望ましいのではないか?) また、初めて区会の会長や役員になった方向けの勉強内容があると良いと思いました。	5月末に区会連合会の総会を行い、代表を決めています。その後、6月中旬に役員会を開き、勉強会の計画を行います。それから講師の依頼等調整を行うので、勉強会を開催することができるのは早くて 8、9 月になってしまいます。目標としては8、9月と出していますが、時期がもっと後にずれることもあります。
---------	--------	---	--